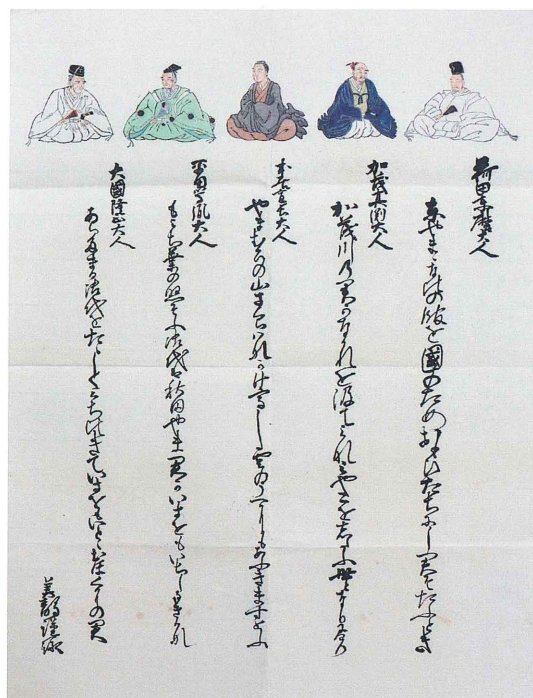
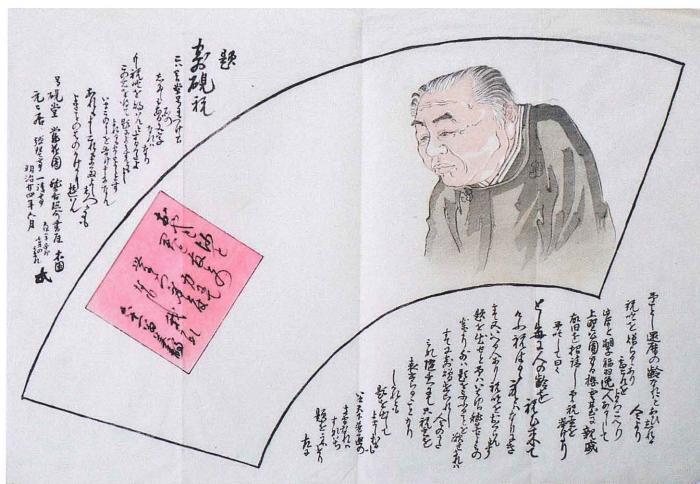


【福羽 口絵1】〔元老院「日本国憲按」の条文資料断簡〕 [4-68]



【福羽 口絵3】五大国学先覚者をたたえる和歌 [5-117]



【福羽 口絵2】〔美静還暦記念の扇面説明文〕 [5-39]



【福羽 口絵4】〔和歌扇面〕所々に遊びける日よみ上たる歌 [7-77]

旧華族家資料目録Ⅲ 福羽家史料目録

西山直志・田中潤・那須香織

解題

これまで本誌では、学習院大学史料館（以下「当館」）の所蔵する旧華族家の資料のうち、比較的小規模の資料群について目録を公開してきた^①。これに続くものとして今号では、「福羽家史料」の目録を掲載する。

解題・目録の掲載に先立ち、寄贈者の福羽忠氏、当館への所蔵にあたって御配慮・御助力をいただいた福羽家御親戚の寺内多恵子氏、宮内庁書陵部の内藤一成氏、当館客員研究員の岩壁義光氏に深く感謝申し上げます。本目録の公開によって、福羽美静^{よしず}らに関する研究が進展すれば幸いです。

1. 資料の来歴

当館の所蔵する「福羽家史料」は、福羽家旧蔵のものである。当館には、二〇〇六年六月五日に福羽家より受託し、史料台帳番号17を付与した。その後同年一月四日に「木園福羽美静小伝」「8-7」と「硯堂歌抄」「8-10」を追加で受け入れた（以下「」内の数字は資料番号を示す）。その後、二〇二〇年一月三日にも額二点「5-190/7-86」の追加寄託を受けた^②。なお今回、本目録の発表に際して、全て寄贈頂く運びとなった。

当館に寄託される以前の来歴・経緯は以下の通りである^③。

二〇〇二～〇三年頃、宮内庁書陵部編修課の調査事業の一環として、福羽家より当資料群が書陵部へ一時借用され、内容の調査と仮整理が行われた。書陵部で受け入れた際には、すでに資料群は雑然とした状態であり、

綴りものが分裂しているなど、現秩序には意味を見出し難かったという。そのため仮整理作業では、まず通し番号（本目録では目録右端に掲載した旧番号、1～760番）を付与して、現秩序の情報を担保した上で、各資料の関連性の接続を試み、八つに大分類が施されるなど、仮の編成が行われた。その上で、一部の資料については写真撮影がなされた。この仮整理作業が終了した段階で、書陵部から福羽家へ返却を申し入れたが、同家から、しかるべき機関での保管を要望されたため、当館への移管が検討され、先述の通り受託する運びとなった。

この書陵部調査が行われる以前の福羽家における保管状況については、一九五八年二月九日に行われた福羽真城への聞き取り調査の結果として、以下の証言がある^④。

「これは晩年の祖父〔美静〕がいつも枕元に置いていたものです」といわれながら、大きな菊の御紋章のついた黒塗の文箱が出される。その中には美静の履歴書をはじめ、自筆の和歌、それに木版、こんにゃく版、活版等で一二枚の紙に刷られた歌や文があり、佐佐木信綱博士が「折々の考を一、二枚の木版摺にして常に人々に頒たれた」（『明治文学の片影』昭九・二〇・二五）と書かれていることがうなずける。

「祖父の遺品はここにあるだけのものを家に保存し、その他は郷里津和野の郷土館に寄贈することになり、それを送り出すばかりにして戦災で焼いてしまったのは残念です」と。それでも津和野の郷土館には「大政紀要」その他が保存され、美静の弟子で「木園福羽美静小伝」の著者である加部巖夫の蔵書が全部保存されている。

ここで述べられる菊御紋の黒塗文箱に入った諸資料が、本資料群に当たると思われる。

この引用の典拠である昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』は、「一、生涯」「二、著作年表」「三、業績」「四、資料年表」「五、遺族、遺跡」の各項から構成され、刊行年時点での福羽美静に関する基礎情報を網羅的にまとめた調査報告である。そのうち「二、著作年表」の内容は、本目録とかなりの部分で重複することから、一九五〇年代後半の時点で昭和女子大学の研究者らが一度、本資料群の調査を行っていたことが想定される。

さて当館では、寄託を受けた後に、小平美香氏によって資料の内容情報を補充する作業が行われている。そして今回、目録の公開に当たり、筆者らが改めて資料全点を通覧し、内容の大幅な補完と体裁の統一を行った。目録編成についても、仮整理時の大分類を一部活かしつつ、改めて全体を見直し再編成をおこなった。その上で新たな資料番号を付した結果、最終的に総点数七六四点に整理された。

2. 関連資料の所在

まず、本資料群以外の福羽家旧蔵の史資料として、先の引用にも記されていた郷里高根県の津和野町郷土館の所蔵資料がある。その内容は次の通りである。⁵⁾

福羽家の家紋である梅鉢紋の文箱に一括された明治天皇の即位礼・大嘗祭関係の資料で、福羽の手許にあったものが大正十三年（一九二四）に寄贈され、館の所蔵となったものである。その中身は明治天皇の即位礼・大嘗祭を行うにあたり、取調に任じた福羽が作成した書類が中心である。なお文箱中には臨時帝室編修局総裁土方久元から福羽の養嗣子逸人へ宛てた明治天皇紀編纂借用資料の返納書が残されている。これを見ると書中に記された資料の多くは文箱中に確認でき、本資料が明治天皇紀編纂のために貸与したものを基本としていることが窺わ

れる。

この津和野町郷土館所蔵の「福羽美静明治天皇即位式・大嘗祭関係史料一括」は、加藤隆久氏が最初に本格的な分析を行って以降、明治即位礼に関する諸研究で利用されている。⁶⁾

次に、福羽美静の旧蔵本として、学習院大学図書館所蔵「福羽美静文庫」がある。一九二八年刊行の『学習院史』には、一九一四年九月に「神名帳考証外貴重なる筆写本等六百三十五冊」（三〇二頁）が寄贈された旨の記述があり、同文庫についての解説によれば、書籍の蔵書印に「大正三年九月廿一日受入」の日付が確認されるといふ。⁷⁾ 福羽逸人の息子四名（真城・甫・發三・進）はいずれも学習院に学んでおり、また大正即位礼に合わせて寄贈の運びとなったものであろう。内容としては、「写本を中心とする書物群であつて美静はもとより、父である美質直筆の写本など学習院のみ所蔵する貴重な写本も多い。蔵書の分野は多岐にわたるものの、これらからは美静の津和野藩時代をはじめ、維新後の明治神祇官時代、歌会御用掛、大嘗祭御用掛などを任じられた美静の足跡、業績に即した書物であることが窺われ」といふ。⁸⁾

3. 旧蔵者の経歴

本資料群は、大部分は福羽美静が遺したものであるが、一部に子の逸人、孫の真城に関する資料も含まれるため、この三人の経歴を記す。

●福羽美静（一八三一—一九〇七）

官歴・公職等の履歴については表1にまとめた。⁹⁾ 以下、補足的な説明を加えておく。¹⁰⁾

父の福羽美質（一八七五）は、その墓碑によると、津和野藩土増野義陳の次男で、福羽家の六代目を継ぎ、若年より歌道を学んだ人物であった。

本目録には、美静の名も複数の表記がある。美静は初めの名が美黙、通称が文三郎であり、号は木園・硯堂・鶯花園・稽古照今書屋・元々居・弾

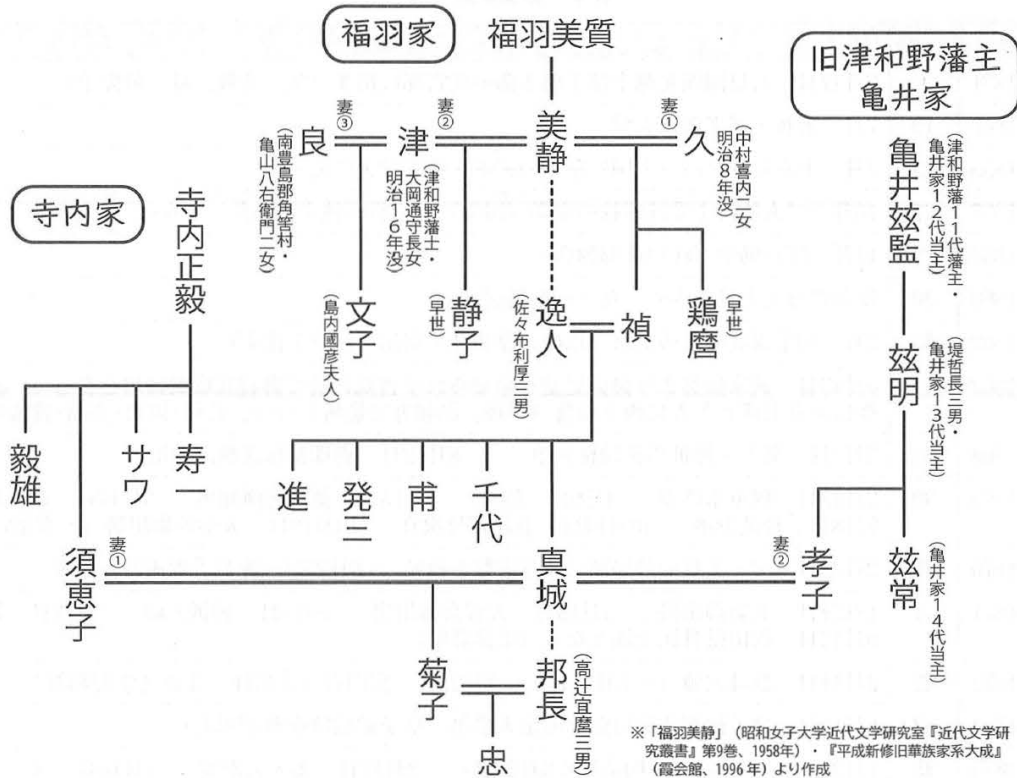
表1 福羽美静履歴

年代	西暦	年齢	履歴
天保2年	1831	1	7月17日 石見国鹿足郡木部下組木菌の代官邸に出生(父・美質、母・須佐子)
嘉永2年	1849	19	7月 藩校・養老館に入学
嘉永6年	1853	23	3月 上京し野之口(大国)隆正の家塾・報本学舎に入る
安政4年	1857	27	10月 二人扶持を受け藩校の本学(国学)世話役(徒士格勤仕)となる
安政5年	1858	28	11月 江戸勤学(江戸藩邸勤務)
万延元年	1860	30	津和野藩士中村喜内の二女・久と婚姻
文久2年	1862	32	3月 国事周旋のため上京(以後、津和野・京都・江戸を往来)
文久3年	1863	33	8月13日 武家伝奏より御仮建詰を命ぜられ学習院に於て御親兵取調御用を務む / 8月18日 政変により七卿とともに西下帰藩(以後、津和野で籠居しつつ、長州・因州・芸州・備前などを往来)
慶應4年	1868	38	3月4日 徴士・神祇事務局権判事 / 8月12日 御即位新式取調御用
明治2年	1869	39	2月13日 御東幸供奉 / 4月9日 侍講 / 5月15日 神祇官副知事 / 5月17日 制度取調御用 / 7月8日 神祇少副 / 10月14日 兼任宣教次官 / 10月19日 大学校御用掛(～翌年7月13日)
明治3年	1870	40	2月22日 父・美質の隠居願に依り家督を相続 / 8月22日 鹿島香取両社奉幣使
明治4年	1871	41	1月24日 歌道御用掛 / 5月19日 大嘗会御用掛 / 8月5日 神祇大副 / 8月9日 神祇大輔 / 9月12日 浜田県貫属士族となる(廃藩置県)
明治5年	1872	42	3月14日 教部大輔(～5月24日) / 7月27日 宮内省三等出仕(歌道文学御用掛)
明治6年	1873	43	9月19日 皇子御葬式御用懸(明治天皇第一皇子稚瑞照彦尊が死産)
明治8年	1875	45	1月2日 二等侍講(～明治10年8月29日) / 2月17日 妻・久が歿 / 4月16日 父・美質が歿 / 7月22日 元老院議官(～明治14年10月21日)
明治9年	1876	46	9月8日 国憲取調委員
明治10年	1877	47	7月3日 京都へ差遣(7月26日 帰京) / 8月29日 宮内省御用掛(～明治19年1月)
明治12年	1879	49	1月16日 文学御用掛(宮内省) / 5月28日 東京学士会会員
明治13年	1880	50	6月7日 文部省御用掛兼勤(～明治19年1月4日) / 6月8日 東京女子師範学校摂理(～翌年7月6日)
明治14年	1881	51	7月16日 叙勲二等・授旭日重光章 / 10月21日 参事院議官・内務部長(～明治18年12月22日:参事院廃止)
明治15年	1882	52	9月19日 内国絵画共進会出品審査御用掛(農商務省) / 12月18日 内規取調委員兼勤(宮内省)
明治16年	1883	53	4月7日 宮内省編纂局事務主幹・編集委員長(～12月11日)
明治18年	1885	55	10月1日 叙正四位 / 12月22日 元老院議官(～明治23年10月20日:元老院廃止)
明治19年	1886	56	10月20日 叙従三位
明治20年	1887	57	5月9日 特旨を以て華族に列せられる(子爵)
明治23年	1890	60	7月10日 貴族院議員(～明治30年7月) / 10月20日 錦鶏間祇候
明治27年	1894	64	5月21日 叙正三位
明治33年	1900	70	1月29日 満70年につき御紋附木盃・御酒肴料下賜
明治37年	1904	74	3月25日 叙従二位、叙勲一等・授瑞宝章
明治40年	1907	77	8月14日 歿、叙正二位、授旭日大綬章

※「履歴」[2-27]からの摘要を基礎とし、シリーズ【2.履歴】の辞令等や、「福羽美静」(昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第9巻、1958年)の「一、生涯」(20～29頁)などを参照して作成した。

※年齢は数え年。

図1：福羽家系図



※「福羽美静」（昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第9巻、1958年）・『平成新修旧華族家系大成』（霞会館、1996年）より作成

琴亭・一清亭などが使われた。なお住居については、晩年に官職を辞した後、父・美質が晩年住んでいた角筈（東京府南豊島郡淀橋町、現・新宿区西新宿）の別荘を増築して、そこに移ったという。同地にあった梅の名所・銀世界（梅屋敷）の傍らにあった邸宅を、弾琴亭・元々居と呼び、草木花を栽培した園を鶯花園と名付けて、歌や造園の娯楽・風流を楽しむ隠居生活を送った。

●福羽逸人（一八五六―一九二二）

安政三年（一八五六）二月一日（戸籍上は一月一日）津和野藩士佐々布利厚の三男として生まれ、明治五年（一八七二）福羽美静の養子となる。明治八年、東京農学社に入学。明治一〇年、内務省勸農局試験場農養生、翌年よりブドウ栽培法の調査を復命。明治一二年五月、植物御苑掛（同年九月に免す）及び内務省御用掛を申し付けられる。後にフランス・ドイツへの留学を命じられ、明治二二年、農商務属およびフランスパリ万国大博覧会事務官補となる。翌年帰朝し、農商技師試験に任命、また東京農林学校兼務を命じられる。明治二四年、宮内省御料局技師に任命され、後に内匠寮兼勤となる。明治三一年、内匠寮技師に任ぜられ、新宿植物御苑掛長となる。明治三七年、内苑局技師・内苑局長心得、同三九年、内苑局長。明治四〇年、美静逝去により襲爵。その後、大正三年（一九一四）大膳頭・内匠寮御用掛に任命。翌年、宮中顧問官を任ぜられる。大正八年、農学博士を授与。

西洋園芸技術の導入と普及につとめ、野菜・果実・花の品種改良（福羽いちご・菊の千輪づくりを考案）や、栽培方法の研究（日本の温室栽培の創始者）に功績を残した。



図2：福羽美静肖像写真 [2-30]

表2 目録編成(シリーズ構成)

1. 書簡
2. 履歴
3. 日記・備忘録
4. 公職関係
4-1. 幕末維新时期
4-2. 神祇官・神祇省・教部省
4-3. 侍講・宮内省御用掛・文学御用掛
4-4. 元老院議官・参事院議官
4-5. 東京女子師範学校摂理
4-6. 内国絵画共進会出品審査御用掛
4-7. 宮内省編纂局編集委員長
4-8. 貴族院議員
5. 詩歌
6. 社会活動
6-1. 亀井家・津和野
6-2. 皇室・華族
6-3. 角筈村・淀橋町
6-4. 日清戦争・台湾
6-5. 孝明天皇三十年祭遥拜式奉行会
7. 文化活動
7-1. 国学・漢学
7-2. 神道・寺社
7-3. 山県大弼・竹内式部顕彰
7-4. 歴史編纂・校訂
7-5. 好古社
7-6. 書画
7-7. 美静著作
8. 福羽家
8-1. 美質
8-2. 逸人・禎
8-3. 真城・須恵
8-4. 邦長・菊子
8-5. 福羽家
9. 諸書類・封筒
9-1. 諸書類
9-2. 封筒

●福羽真城(一八八〇～一九六四)

明治一三年(一八八〇)四月二十九日に生まれる。明治二三年、学習院初等学科五年生に入り、明治二五年、卒業。明治三四年、陸士官学校騎兵科を卒業。明治三五年、陸軍騎兵少尉に任命され、騎兵第一六連隊付きとなる。明治三七年八月二日、陸軍騎兵中尉となる。明治三九年五月、陸軍騎兵実施学校に学生として入校し(同年一〇月に馬術学生終業に付き退校)、その後同四二年、陸軍騎兵大尉、同四三年、陸軍騎兵実施学校教官(翌年五月まで)。明治四三年、寺内正毅四女・須恵と結婚。大正七年(一九一八)陸軍騎兵少佐となる。大正一〇年、逸人逝去により襲爵。翌年、陸軍騎兵中佐となり、騎兵第一連隊長に補され、大正二五年、陸軍騎兵大佐となる。昭和五年(一九三〇)予備役編入。

後妻の孝子は伯爵亀井茲明の娘で、茲常の妹。養子で長女菊子の婿の邦長は子爵高辻宜磨三男(図1参照)。

4. 目録編成

本目録では、九つのシリーズを設定し、その下に必要に応じてサブシリーズを設定した(表2参照)。以下、各シリーズについて説明する。

まず全体の構成であるが、シリーズ【1】～【3】は形式分類によって、【4】～【8】は内容分類によって設定されている。これは、「1. 資料の来歴」でも記したように、本資料群が当館へ所蔵される以前に書陵部において仮整理が行われていたことに依る措置である。この仮整理時に資料一点ごとの整理封筒への封入は完了して、通番(目録右端の「旧番号」欄に記載)が付与されており、八つの大分類も施されていた。その分類は、「1. 書簡」「2. 履歴」「3. 日記・備忘録」「4. 印刷物」「5. 和歌等著作」「6. 書類・その他」「7. 福羽家関係」「8. 雑」というものであった。再編成を行うのであれば、本来は全てを対象にすべきであるが、時間的制約もあり、今回はこのうち1～3はほぼそのまま踏襲し、4～8を再構成してシリーズ設定を行った。

【1. 書簡】は、大部分が美静宛ての書簡であり、仮整理の段階で差出人の順番に配列されていたため、これに倣って配列した。「1—117」以下には美静の書簡草稿がある。概ね「資料名」欄に概要を記したが、シリーズ【4】～【7】の諸資料と相互に関連するものも多い。差出人には、美静の履歴からも察せられるように、公卿出身者や宮中・宮内省の関係者、津和野藩出身者、旧藩主の亀井家関係者が多いほか、歌人が多数含まれていることも特筆される。とくに、いくつかの書簡は、華族や御歌所歌人らによって構成されていた和歌結社「正風社」に関連するものである¹²。

【2. 履歴】は、美静の辞令・位記のほか、履歴・写真からなる。

【3. 日記・備忘録】は、幕末から明治初期の日記と備忘録（メモ帳）からなる。うち「座右小記」【3—14】は美静の手帳と思われ、自身の履歴や家族の生没年月日、後述する好古社の社員録、華族に列せられた際の文書の写しのほか、土地・財産の記録等も記されている。

【4. 公職関係】には、概ね表1の履歴に沿って、公職に関係する資料を含めた。但し、明治期には公私の区別は曖昧な部分も多分にあったと思われ、必ずしも厳密な区分けはなし難い部分もあった。他も同様であるが、今回のシリーズ設定は、あくまで関連する資料を明示するための便宜的な区分と捉えて頂きたい。

【4—1. 幕末維新时期】のうち、複数ある人足賃銭払帳は、【3】の同時期の日記【3—11～6】と対応するものと考えられる。

美静が、【4—2. 神祇官・神祇省・教部省】の各職にあつて明治初期の神祇政策に携わったこと、また【4—3. 侍講・宮内省御用掛・文学御用掛】として歌道・国学をもって明治宮中に仕えたことは、よく知られている。【4—2】の中には、明治即位礼や大嘗祭の調査に関すると思われるものがあり、先に触れた津和野町郷土館所蔵「福羽美静明治天皇即位式・大嘗祭関係史料一括」とは別に保管されていたものと思われる。【4—3】では、点者・題者などをつとめた歌御会始に関する資料が注目される。

美静は他方で、明治八年（一八七五）年に左院に代わって設置された立

法機関・元老院の議官となり、明治一四年（一八八一）からは法制局の前身機関である参事院の議官、その廃止後は再び元老院議官を同院廃止までつとめている（【4—4. 元老院議官・参事院議官】）。元老院関係では、国憲取調委員として関与した、同院で起草された「日本国憲法」に関する資料【4—68～70】が特に注目される（福羽口絵1も参照）。参事院では、美静は内務部長という要職にあり、ここに含まれる資料からは、山林法取調掛として帝室山林に関する議論に関わっていたこと、士族の復権を模索していたこと、などが窺い知れる¹³。

一方で美静はその間に、【4—5. 東京女子師範学校摂理】や、【4—6. 内国絵画共進会出品審査御用掛】もつとめている。前者は校長職であり、女子教育に関する講話原稿などが残されているが、これ以外にも教育論に関する原稿等は【7—7】にも含まれている。後者の内国絵画共進会は、明治一五年（一八八二）と同一七年に、日本美術を振興するために農商務省博覧会掛が開いた官営の展覧会で、美静は第一回で審査御用掛をつとめた。

明治一六年（一八八三）四月、美静の建言を受けて、岩倉具視を総裁とする宮内省編纂局が設置され、上古以来の史書『大政紀要』の編纂が行われた。美静は西周とともに【4—7. 宮内省編纂局編集委員長】となり、上編（維新以前）を担当した。しかし岩倉の死去や政治状況の変化もあって、『大政紀要』は未完のまま事業が終了することとなり、同年一二月一日に『進大政紀要表』【4—94】を附して天皇へ提出され、編纂局は廃止された。ここには、版心に「大政紀要」とある野紙に朱の校正の痕がある原稿類が多数含まれているほか、当初想定されていたという刊行・外国語訳を、改めて求めたと考えられる建議【4—95】も残されている。

明治二三年（一八九〇）、帝国議会の設置により元老院が廃止されると、美静は引き続き【4—8. 貴族院議員】となり、明治三〇年（一八九七）まで務めた。ここには、貴族院議員としての活動かは不明瞭ではあるが、山縣有朋首相に宛てた建議書【4—123・124】も含まれた。

表3 貼交屏風 [5-189] の詳細

扇数	番号	内容	形態	本紙法量 (cm)	備考
1	1	あふきみて高しとうたふことのはもいくよかつもる (一筆書き 富士) のしら雪 美静 (朱文円印・美静)	大色紙	30.3×33.8	富士画賛
	2	をりをりの月はなにはをやしなひて人の道ゆけよの中の人 美静 (朱文楕円印・美静)	切紙	7.2×15.8	
	3	鶯もとく来よかしといひかほる (墨梅図 梅) さきいてし春のこの頃	切紙	34.6×11.7	梅画賛
	4	のめやのめうたへやうたへよの中ハとかくいつしようらくらくとして 美静戯 (朱文楕円印・美静)	切紙	19.1×11.0	酒肴画賛
2	1	祝 天地の神もうれしとみますらんみちさかえゆく君か大御世 美静	銀泥彩色短冊	36.3×6.0	
	2	大婚満廿五年の祝につきてのへけることはに添える哥かしこくも君かみちきりそれをまた祝ひます日の国のうれしさ 美静	金砂子野毛彩色短冊	36.3×6.0	
	3	寒地にある制清軍の士人をおもひやり侍りて はやかれといそくはるひのあたたかさわかためならてまつことしかな 美静	銀地短冊	36.3×6.0	
	4	帝国大学を すゑかけて国をおこさんますらをはこれにいりてそいつへかりける 美静	観世水に金砂子短冊	36.3×6.0	
	5	水を見て 美静 (朱文円印・硯美静) ゆく水のきよくさやけき心もてよをしわたらはうれしからまし	金砂子散天地藍打曇懷紙	36.3×48.8	喜寿の書か
3	1	鶴 美静 そらに舞ふ千とせの鶴に習ひつゝ世にあふかれよ世のなかの人	素紙懷紙	35.7×48.0	
	2	試筆 美静 とりはやす松も竹とのわかみとりことしもはれるとしのはつ空	紅地金砂子散色紙	21.0×18.2	
	3	春草 美静 なほのこる雪の中よりもえいてて春をあらはず千草八千艸	薄紅地金青金泥引砂子彩色色紙	21.3×18.2	
4	1	花に雲 しら雲にまかふさくらの花さかりみれはこころもうきたちにけり 美静	薄紅地天地藍金砂子散短冊	36.4×5.9	
	2	新樹 さくら木もかへてもともに若みとり色むつましくしけるころかな 美静	天地藍金砂子散短冊	36.3×6.0	
	3	庭菊 うえわたすまかきのそれよこの秋はいくさたよりをきくとしてみん 美静	薄紅地天地藍打曇金砂子散短冊	36.1×6.0	
	4	御笠浜暮雪 誰もみな家路わすれてきてそみるみかさの浜のゆきのゆふくれ 美静	紅地天地藍打曇金泥霞短冊	36.7×6.1	
	5	亀 美静 (朱文方印・木園) 淵となり瀬とよは河に万代のかはらぬ亀もすめはすみけり	素紙懷紙	34.8×49.1	
5	1	月前の笛 (朱文丸印・鶯花園) しらへさへ月のかけさへ笛竹のよ風につれてすみまさりけり	素紙懷紙	33.7×48.4	
	2	新樹 さくら木もかへてもともに若みとり色むつましくしけるころかな	金銀砂子散扇面	15.2×35.4	
	3	送別歌 美静 (朱文楕円印・美静) 平かに舟ち車ちいきいきてちからつくして物しりて来よ	金銀砂子散扇面	13.2×30.1	
6	1	四大人の祭会に尋見花といふことを よの人にそれとをしへてさくらはなとくたつねみし人のたふとき 美静	天地藍打曇金砂子散短冊	36.3×6.0	
	2	ますらをかおもひかためてすむやとはふく風高く世のちりもなし 美静	天地藍打曇金砂子散短冊	36.2×6.0	
	3	学生某か富士登山を送りて のほりたつ富士の山ちにおもへかし人の世をゆくみちもかくそと 美静	天地藍打曇金砂子散短冊	36.4×6.0	
	4	みやまへのたきはいさましこれみせて人のこころもうちのほさなん 美静	天地藍打曇金砂子散短冊	36.3×6.0	
	5	雪 美静 (朱文円印・美静) めつらしとみわたさゝれはしら雪はふりぬといへはあたらしくして	素紙懷紙	31.6×46.5	

※「内容」欄注記：くの字点（繰り返し符号）は開き、下線を付した。

美静の公職以外の諸活動に関する資料は、本資料群の中核を占め生涯にわたって作成された【5. 詩歌】をまず別立てした上で、【6. 社会活動】と【7. 文化活動】に大別してシリーズを設定した。

【5. 詩歌】は、美静が折々に詠んだ和歌や漢詩、また美静へ送られた歌、歌会の記録等からなる。美静自身が懐紙・色紙・短冊等へ墨書したものから、推敲の痕のある草稿類、主に木版で印刷・頒布されたもの、本の序文や雑誌掲載により活字となったもの等、さまざまな形態の資料がある（一例として福羽口絵2参照）。なお、貼交屏風【5-189】の詳細については、表3を参照されたい。

美静は、津和野藩で岡熊臣や大国（野々口）隆正に平田派国学とともに歌道を学び、佐久良東雄にも兄事、のちに明治天皇の歌道師範となる三条西季知とも幕末期から交流があった。そして【4-3】で触れたように、明治期には御歌所歌人の一人として著名な存在であった。とくに大国については、大国が国学史上の四大人とした荷田東磨・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤と並べて「五大国学先覚者」【5-117】（福羽口絵3）とするなど、強い尊崇の念がうかがえる。なお本人とも交流のあった文学者の佐佐木信綱によると、美静は「折々の考や歌文を、一二枚の木版摺にして常に人々に頒たれた」という¹⁹⁾。

シリーズ【6】と【7】は、それぞれ概ね含まれる資料の年代順にサブシリーズを設けたが、明治二〇〜三〇年代の晩年の資料が多数を占めることが特徴である。

【6-1. 亀井家・津和野】は、元主君である旧津和野藩主の亀井伯爵家に関する資料や、故郷の石見国（島根県）津和野に関する資料からなる。【6-2. 皇室・華族】は、宮内大臣へ宛てた宮中儀礼等に関する意見書等からなる。美静は第一線を退いたあとも、皇室・宮中の諸問題については御意見番のような地位にあったことが窺える。

一方、晩年に居を構えた【6-3. 角筈村・淀橋町】に関わる資料もある。明治二六年（一八九三）一〇月に起工式が行われた淀橋浄水工場に関

係するものや、自身の邸宅を含む周辺の名勝を紹介するものがある。

明治二七〜二八年（一八九四〜九五）の日清戦争に際しても、美静は戦勝の奉迎や慰霊方法等について、意見を認めている【6-4. 日清戦争・台湾】。なお、来歴の詳細は不明だが、台湾征服戦争など台湾に関する資料も、便宜的にここに含めた。

【6-5. 孝明天皇三十年祭遙拝式奉行会】に関する一連の資料については、当時の新聞記事から情報を補っておきたい。

美静はこの会の主唱者²⁰⁾となって、孝明天皇没後三〇年の当日（明治三〇年（一八九七）一月三〇日）に上野公園で遙拝式を挙行すべく、主幹の飯山正秀らと前年から準備を行っていたことが諸資料から窺える【6-69〜72】。しかし、遙拝式予定日直前の一月一日に、孝明天皇妃の英照皇太后が没したため延期となった。加えて二月には、事務所が発行した遙拝式の通券が花街へ売りつけられたことが露呈して宮内大臣よりその販売が禁止され、さらに飯山らが偽の会員証を売却して得た金を横領して遊興費に充てていたことも発覚して拘引されるという不祥事が起きた²¹⁾。計算書等の会計書類【6-65〜68】が多数含まれるのは、この不祥事に対処した結果だと思われる。この事件により、上野公園での開催は不可能となり、規模を縮小し、会場を神田三崎町に変更して、同年三月二〇日に遙拝式は実施された²²⁾。この一件は結局、二年後の明治三二年（一八九九）九月に、飯山から福羽へ感謝状【6-77】が送られる形で幕引きとなったようである。

なお【6-5】には、英照皇太后没後に宮内大臣へ宛てた意見書も含めた。青山御所に神殿を造営すべきという意見書【6-58・59】であるが、同様の意見は既に明治二七年（一八九四）に天皇らへ提出されていた【6-53】。次いで、美静の【7. 文化活動】としては、まず【7-1. 国学・漢学】や【7-2. 神道・寺社】に関するものが著名であろう。

【7-1】には、美静の周旋によって明治天皇が刊行を命じたという鹿持雅澄『万葉集古義』の序文章稿【7-3】があるが、これは【4-3】（文学御用掛）に含めても良いものである。その他、記紀や論語に関するものもここに含めた。

【7-2】は、各種の神道論や、各地の寺社に関する資料からなる。
 【7-3】 山県大式・竹内式部顕彰】は前後のサブシリーズとも関連するが、江戸中期の尊王論者で幕府から弾圧を受けた山県大式・竹内式部に
 関する資料からなる。とくに大式の孫・山県昌蔵と交流するなかで爵位追
 贈などの顕彰活動に関係したようである。

先に【4-7】で宮内省編纂局が編纂した史書『大政紀要』に編集委員
 長として携わったことを見たが、美静はそれ以外にも【7-4】 歴史編纂・
 校訂】を担っていた。美静が序文を寄せたり校訂に参加したりして関与し
 た伝記類は、星野泰俊翁伝【4-80】、山縣大式伝【7-36】のほか、「奇
 才子中山善吉氏之伝」【7-46】、佐久良東雄伝【7-47】、西周伝【7
 -54】、三條実美公履歴【7-55】、吉見記【7-60】、高山彦九郎伝【7
 -61】（表紙のみ）、「玉松故真弘略伝」【7-63】、井上瑞枝略伝【7-64】
 が確認できる。また美静は、明治二八年（一八九五）、平安遷都千百年記
 念祭（第四回内国勸業博覧会と同時開催）にあわせて京都市参事会が編纂
 した歴史書『平安通志』の校閲者もつとめており、原稿等が残されている
 【7-50】、【53】。

【7-5】 好古社】は、明治一四年（一八八一）に美静が社長となって
 設立した学術結社であり、国学者・神道家などを中心とする学者や華族ら
 が社員となっている（社員録【7-75】／前述の「座右小記」【3-14】）。
 好古社は、機関誌『好古雑誌』を発行し、春秋二回古器物・古文書・古書
 画などを持ち寄る「好古会」を開いた。美静は明治二四年（一八九一）に
 社長を伯爵松浦詮に譲ったが、明治三四年（一九〇一）の創立二〇年記念
 祝宴で祝辞【7-76】を述べている。なお、「7-77・78」は和歌関係と
 して【5】に含むべき要素も持つが、「好古社社長」の印から好古社にお
 ける活動の一環で作成したものと判断して、ここに含めた（福羽口絵4）。
 【7-6】 書画】には、この好古会に出品したのもあったかもしれない。
 小金井の桜についての絵図等【7-81・82】には、関連資料として、同地
 で詠んだ長歌「花のいさめ」【5-73】、【75】及び「小金井花実の記」【5-
 76】がある。

【7-7】 美静著作】には、美静の道徳論・教育論・国家論などの論説・
 著作や、執筆した序文・碑文などで、これ以前のシリーズに含まれないも
 のをまとめた。但し、草稿類には様々な種類のものが含まれており、厳密
 に内容まで精査すれば、他のシリーズに入れるべきものがあるかもしれな
 い。なお、断簡・メモの類は【9-1】へ含めた。

【8】 福羽家】には、美静以外の福羽家に関する資料を含めた。【8-1】
 は父の美質、【8-2】は子の逸人・禎、【8-3】は孫の真城・須恵、【8
 -4】は曾孫の邦長・菊子、【8-5】は家そのもの乃至それ以外の関係
 資料である。とくに【8-2】には、いずれも逸人が発行者となっている
 美静の伝記「木園福羽美静小伝」【8-6】、【9】、美静の歌集「硯堂歌抄」【8
 -10】がある。

最後に【9】 諸書類・封筒】であるが、【9-1】 諸書類】は、今回のシリー
 ズ構成では判断しがたい資料二点【9-1.2】と、断簡・メモからなる。【9
 -2】 封筒】は、目録凡例に記すように、福羽家内で行われた整理の跡と
 思われる、分類の基となった封筒類である。

以上、シリーズごとに本資料群の解説を加えてきたが、福羽家旧蔵の史
 料ということもあり、従来あまり注目されてこなかった福羽美静の諸活動
 の痕跡も多数含まれていることが、大きな特徴といえるだろう。多様な資
 料群であったため、目録編成の難易度は高く、利用者にとって判り易いも
 のとなったかは心もとない。但しそれは言い換えれば、政治史・宗教史・
 文化史・史学史・地域史など、多様な分野の研究に活かされる可能性をも
 つということでもある。本解題がその足掛かりとなれば幸いである。

5. 資料紹介

すべての資料について詳しい解説を付すことは出来ないため、前項で触
 れたもの以外にいくつかを取り上げて紹介する形をとりた。

なお目録の備考欄にも、内容の概要や一部の翻刻、関連情報等を記述している。適宜ご覧いただきたい。

●「大嘗宮之図」〔4—19〕

「大嘗宮之図」と題されたこの資料は、同名の墨書と「福羽」の朱文楮印が押された封筒に納められた大嘗宮の起こし図である。この起こし図では、柴垣とそれに囲まれた悠紀殿・主基殿とその内部の敷設の様子が、色彩を施す形で詳細に表現されている。

本図は、図中の「嘉永度御治定之圖明治度用之」との墨書から、嘉永元年（一八四八）一月二日に、禁裏御所の紫宸殿前庭に設けられ、そこで齋行された孝明天皇の大嘗祭の折の大嘗宮の図であることを伝えると共に、明治四年（一八七一）に東京の宮城内吹上で行われた、明治天皇の大嘗祭の折の大嘗宮が、本図に記された嘉永度の大嘗宮を元にしたことも併せて伝えている。明治度の大嘗祭に際して、福羽美静は神祇少副の任にあり、大嘗祭御用掛として大嘗祭の理由について調査を担当しており、本資料もこうした活動との関係が想定される。

起こし図の内容をみると、両殿内の内陣・外陣については、敷設された神座や御座を中心に記され、近侍して祭祀に奉仕する采女うねめの座や祭祀具の詳細以外にも、室内の軒の高さや、内陣外陣を隔てる幌めづきの布継に至る情報も注記されている。両殿を囲う外周の柴垣には、東西南北の各面に、鳥居形の門が設けられ、東西の門外には屏籬かきしきと呼ばれる目隠しの垣根が設けられ、南門については、威儀物の神楯かんぼと神戟かきを樹たてたことが明らかである。また、両殿を南北に隔てる垣根に設けられた、通用のための正門にあたる鳥居も表現されている。悠紀殿と柴垣の間の部分には、神饌しんせん行立ぎょうりゅうの列立と共に、神饌案の様子が確認される。本図では、神饌の調理にあたる悠紀・主基それぞれの膳屋かきやや、天皇が潔斎の上、御祭服ごさいふくに着替える廻立殿についての記載は見られず、本図製作の関心が、詳細に記された殿内の敷設や神饌の様子にあったことが推測され、神祇官僚として参画した福羽の活動の様子を色濃く伝えると共に、近世から近代に移行した折の大嘗宮の様子を

考える上での好資料である。

（本項執筆・田中潤）

●「牽牛花栽培法摘要」〔8—14〕

内容は博文館より出版されていた総合雑誌『太陽』（明治三二年第五巻第一〇・二一号）に掲載されていた、双松園主人の執筆の「牽牛花栽培法」を書きとめたもので、牽牛花（朝顔の別名）の分類・栽培方法を記す。表題に「摘要」とあり、元の記事が総括として設けた結論の項目のみ省略した内容が書きうつされている。また、朝顔のラテン語名について、元の記事では「イホメデラセア」と片仮名で記載しているが、書き写した際に該当箇所を空欄にしており、野紙外に「*Pharbitis hederacea*. *Ipomoea hederacea*」と学名を付記している。

本資料は作成者が明確に判明するものではないが、植物の学名を補った記述が認められ、福羽逸人との関連が推測される。

福羽逸人の経歴については「3. 旧蔵者の経歴」でも触れたが、造園・園芸の分野に寄与した農学者であり、その事績のうち特に新宿御苑の整備については広く知られるところである。

関連資料として、『回顧録』（国民公園協会新宿御苑、二〇〇六年）が刊行されており、逸人自身により経歴・事業が整理される本書は多岐にわたる逸人の業績を知るうえで有用である。また、平成三〇年度新宿歴史博物館「新宿御苑—皇室庭園時代—」展において逸人の活動が取り上げられた。この展示では逸人の新宿御苑整備動向を関係省庁の公文書とともに紹介し、『回顧録』に記される逸人の構想を踏まえたうえで、新宿御苑の整備における逸人の果たした役割が紹介された。（本項執筆・那須香織）

●「訓戒」〔8—15〕

表紙に「訓戒」と題された本資料は、寺内正毅が娘・須恵の結婚に際して与えたものである。他家に嫁ぐ娘に対して将来まで戒めとなるものを遺すために、安政元年（一八五四）二月三日に野山獄より吉田松陰が妹・千代に出した手紙に記された婦道を説く内容を手抄したものである。

福羽家と寺内家は逸人長男・真城と正毅四女・須恵子の婚姻により結ばれた親戚関係となる(図1参照)。真城と須恵子の婚姻は明治四三年(一九一〇)二月二三日に認められ、本資料はその翌年二月二〇日に作成されたのちに、父である正毅から娘の須恵子に渡ったものが、福羽家に伝わったと考えられる。真城と須恵子の間には明治四五年(一九一二)一月五日に長女・菊子が生まれ、以降も福羽家と寺内家との交流がうかがえる内容の資料が個人蔵の中にも見えた。

なお、当館では二〇一三年以降、寺内家より寄贈された「寺内正毅・寿一関係資料」の整理・調査が継続して実施され、『学習院大学史料館紀要』で報告されている。長佐古美奈子「寺内正毅・寿一新収資料について―皇室下賜工芸品の来歴調査―」(二〇号)、小松大秀「寺内家より受贈の漆芸品二件について」(同上)、西山直志・長谷川怜・芳澤直之「寺内寿一宛て児玉秀雄書簡 解題と翻刻」(二五号)の他、二二号には特集「寺内正毅・寿一関係資料」として各論を掲載、「桜圃名宝」展の開催などにより調査成果が公開された。また本号にも「寺内寿一宛て南次郎書簡 解題と翻刻」が掲載されているので参考にされたい。(本項執筆・那須香織)

注

- (1) 長佐古美奈子・田中潤・西山直志・芳澤直之「旧華族家史料目録Ⅰ 富小路家・岡部家・稲垣家・木越家史料目録」(『学習院大学史料館紀要』二三号、二〇一七年三月)。西山直志「旧華族家資料目録Ⅱ 立花種恭旧蔵史料目録」(『学習院大学史料館紀要』二四号、二〇一八年三月)。
- (2) 後述するように、旧番号は書陵部における仮整理において付された番号であるため、追加で所蔵された資料には旧番号がない。
- (3) 宮内庁書陵部の内藤一成氏からの聞き取りによる。なお、同氏執筆の『近現代日本人物史料情報辞典』第二卷(吉川弘文館、二〇〇五

年)の福羽美静の項で、「①『福羽家所蔵史料』は、福羽家が第二次世界大戦で空襲を受けた際、焼失を免れた土蔵の中に残されたもので、多数の書簡・書類・和歌等より成る。福羽の関係文書については、これまで②『郷里島根県の津和野町郷土館の所蔵史料』を除きほとんどすべて焼失したといわれていたが(昭和女子大学近代文学研究室編『近代文学研究叢書』九、同大学光葉会、昭和三十三年)、近年、相当数の資料が存在することが判明した。」とされているものが、本資料群である。

- (4) 「福羽美静」(昭和女子大学近代文学研究室『近代文学研究叢書』第九卷、一九五八年)八七頁。
- (5) 内藤一成「福羽美静」(前掲『近現代日本人物史料情報辞典』第二卷)。
- (6) 加藤隆久「神道津和野教学の研究」(国書刊行会、一九八五年)。同書第四章「津和野教学と福羽美静」の第一節「明治・即位礼と福羽美静」(初出の同名論文は『神道史研究』二八巻二号、一九八〇年四月)に、史料一四件について簡単な目録が掲載されており、それに続く同章でこの資料群を用いた検討が行われている。
- (7) なお、近年の研究として、野村玄「近世における天皇の地位と正統性 大刀契・剣璽・通過儀礼及び皇統の扱いに注目して」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』五七、二〇一七年三月)。
- (8) 小平美香「解説 福羽美静文庫について」(学習院大学文学部「学術資料・文書等の管理と有効利用の在り方プロジェクト」作業委員会『学習院大学所蔵京都学習院旧蔵書目録 華族会館旧蔵和漢図書目録 立花種恭・種忠旧蔵書目録 乃木文庫目録 福羽美静文庫目録 改訂版』学習院大学、二〇〇六年)。
- (9) 同前。
- (10) さらに詳細な生涯については、宮本誉士「文学御用掛としての福羽美静と近藤芳樹」(同『御歌所と国学者』弘文堂、二〇一〇年、第四章)の第二・三節に先行研究も踏まえてまとめられている。

- (11) なお今回、筆者らは整理封筒の統合・分離は基本的に行っていない。内容を分離する必要があるものについては、枝番号〔資料番号〕欄の三列目〕を付与したほか、添付資料と認められるものについては備考欄へ記載して処理した。目録に同一資料が二行連続で並んでいるものがあるのは、整理封筒の統合を行っていないためである。但し、同一資料で旧番号が一行に複数あるものもあるが、この統合作業は筆者らが手を付ける前に、既に施されていたものである。
- (12) 長福香葉「明治期における和歌結社『正風社』に関する一考察」(『日本文学研究ジャーナル』四、二〇一七年二月)。御歌所歌人については宮本誉士「高崎正風研究序説」(前掲『御歌所と国学者』第三章)を参照。
- (13) 阪本健一「明治神道史の研究」(国書刊行会、一九八三年)。前掲加藤隆久「神道津和野教学の研究」。武田秀章「維新期天皇祭祀の研究」(大明堂、一九九六年)。藤田大誠「近代国学の研究」弘文堂、二〇〇七年、とくに第二章「明治初年の国家祭祀形成と国学者」。
- (14) 前掲宮本誉士「文学御用掛としての福羽美静と近藤芳樹」。本論文では「歌御会に、明治になって国学者が次第に運営面においても登用されるようになった嚆矢が、明治四年(一八七二)に御会始御用掛を仰せ付かった福羽美静であった。さらにその後の展開を辿るならば、国学者がいかに明治の宮中和歌において重視されたかを確認し得るのであり、幕末まで堂上歌人で占められていた宮中和歌の歴史に画期的な変化を齎した存在こそ福羽美静であり、それに続いた国学者たちであった」(前掲『御歌所と国学者』一六九頁)と美静を位置づけている。
- (15) 元老院・参事院については、中野目徹「参事院関係公文書の検討」(『北の丸』一九、一九八七年三月)、久保田哲「元老院の研究」(慶応義塾大学出版会、二〇一四年)等を参照。
- (16) 島善高「元老院国憲按の編纂過程(上・下)」(『早稲田人文自然科学研究』四七・四八、一九九五年三・一〇月)。島善高編「元老院国憲按編纂史料」(国書刊行会、二〇〇〇年)。藤田大誠「近代皇位継承法の形成過程と国学者」(前掲『近代国学の研究』第六章)。
- (17) 【4-4】の中には、罫紙を複数枚を貼り合わせた形になっている資料が多数あるが、晩年の美静が反故紙として再利用しようとしていた可能性も考えられる。こうした形態は【6】【7】の書類にも散見される(目録の「備考」欄参照)。また一例として、貼交屏風【5-189】の下張りに、明治期の罫紙が利用されていることを確認している。
- (18) 大久保利謙「明治憲法の制定過程と国体論 岩倉具視の『大政紀要』による側面観」(『歴史地理』八五(一)、一九五四年一月)。秋元信英「大政紀要の研究(一)」「(五)」(『神道学』六四、六八、一九七〇年二月、一九七二年二月)。
- なお、事業終了にあたって『大政紀要』の草稿類は内閣に移され、現在は国立公文書館に所蔵されている。また、註(4)の引用箇所では津和野町郷土館所蔵資料に「大政紀要」その他が含まれているとされているほか、西周関係文書(国会図書館憲政資料室)にも関係資料が遺されている。
- (19) 佐佐木信綱「明治文学の片影」(中央公論社、一九三四年)七二頁。
- (20) 美静は「特に孝明天皇を尊崇するの念篤く、天皇等身の尊像を別室に安置して、朝夕之を拝せられた」という(恒川平一「御歌所の研究」還暦記念出版会、一九三九年、二〇六頁)。
- (21) 「遥拝式通券禁止一条」(『東京朝日新聞』一八九七年二月二六日)。「奉行会主幹飯山正秀等拘引せらる」(同前「一八九七年三月一〇日」。「奉行会事件」(『東京朝日新聞』一八九七年三月一七日)。「三崎町遥拝式の景況」(同前「一八九七年三月二三日」)。
- (22) 小林文広「『平安通志』の編纂と湯本文彦」(明治維新史学会編『明治維新と歴史意識(明治維新史研究七)』吉川弘文館、二〇〇五年)。
- (23) 同「『平安通志』編纂と歴史学」(同編著『京都における歴史学の誕生』ミネルヴァ書房、二〇一四年、第一章)。

(24) 藤田大誠「近代国学と郷土史」(「郷土史と近代日本」角川学芸出版、二〇一〇年)。

(25) 『新宿御苑 皇室庭園の時代』(新宿未来創造財団新宿歴史博物館、二〇一八年)。

目録凡例

・本目録は、学習院大学史料館所蔵「福羽家史料」(台帳番号171)計764点の目録である。

・目録編成は、仮整理時の大分類を一部継承しつつ、9つのシリーズを設定し、必要に応じてその下にサブシリーズを設けた(詳細は解題「4. 目録編成」を参照)。

・「資料名」欄：原文ママの表題は無括弧で、採録者がつけた表題は「」内に記した。

・「年月日」欄：推測ないし内容年代を採用した場合は「」で記した。

・「作成」・「受取」欄：筆跡・内容により作成者が特定できる場合や、採録者が補った情報は「」で記し、推定の場合には「カ」を付した。肩書等は氏名の後ろに「」を付して記しているものもある。

・「数量」欄：基本的に物理的な枚数等を記した。形態が冊等の場合には頁数・丁数を、数の記載のあるものはその最大数を採り、記載のないものは目録作成者が数えた数字を記した。

・「記述法／形態」欄：「印刷(毛筆体)」は、毛筆の書体で文字が印刷されているものを示す。

・「備考」欄：必要に応じて、人物の履歴や、年代を推定した根拠となる情報、内容の一部翻刻等を記した。本欄の冒頭に分類が記されているものがあるが、これは福羽家内で行われた整理及び書陵部における仮整理(ここで旧番号Ⅱ通し番号が付された)の段階での分類情報Ⅱ旧秩序

の情報である。なお福羽家内で行われた整理の跡と思われる、分類の基となった封筒は、目録末尾にサブシリーズ【9-2. 封筒】として一括した。

・「旧番号」欄：書陵部での仮整理時に付された通し番号で、旧秩序を示す。配列は、シリーズ【1. 書簡】については発信者の五十音順、それ以外は概ね年代順とした(年代不明でも関係が密接と思われるものは適宜入れ替えた)。

・旧字等は適宜常用の字に改めた。また判読不能文字は「■」で表した。

・一部、状態の悪い資料、大型の資料等があるため、閲覧に際しては、出来る限り事前連絡を願いたい。

福羽家史料目録(台帳番号171)

1. 書簡(128点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
1 1	〔秋月種樹書簡：大中の年号の入った古鈴につき〕	[年欠] 4月19日	—	秋月種樹	福羽議官殿	1通	墨書/巻紙		692
1 2	〔秋月種樹書簡：牡丹園御廻通につき〕	[年欠] 5月19日	—	秋月種樹	福羽議官殿	1通	墨書/巻紙	末尾断裂。	693
1 3 0	〔書簡一括〕	—	—	—	—	3通・1枚	—	封筒とも(表に墨書「福羽美静先生 伊藤圭介」あり)。紙片1枚同封(朱印「東京本郷丸山本妙寺 阪上真砂町十四番地 伊藤圭介」および墨書「内いとうじゅん子」あり)。	516
1 3 1	〔伊藤圭介書簡：牡丹花譜の返却につき〕	明治19年2月9日	1886	伊藤圭介	福羽先生	(1通)	墨書/赤色便箋		516
1 3 2	〔伊藤圭介書簡：紀州柑橋録ほか2冊ありがたく拝戴〕	[年欠] 8月30日	—	伊藤圭介	福羽先生	(1通)	墨書/黄色巻紙	『紀州柑橋録』は農商務省農務局蔵版・福羽逸人著・1882年11月刊行。	516
1 3 3	〔伊藤圭介書簡：私家孫女オカシナー冊を編輯につき〕	—	—	伊藤圭介	福羽美静先生函丈	(1通)	墨書/桃色便箋		516
1 4	〔井上毅書簡：爵位令の件につき〕	[年欠] 11月3日	—	毅	福羽大人	1通	墨書/巻紙		700
1 5	〔岩倉具視書簡：来る18年の地租改正の建言書類を総て一冊に取纏められたく〕	[年欠] 2月17日	—	具視	福羽美静殿・香川敬三殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも(表に墨書「福羽美静殿 香川敬三殿 岩倉具視 親拆 別冊添」あり)。追伸に「本文代筆」とあり(岩倉具視は1883年7月30日歿)。	583
1 6	〔岩倉具視書簡：来19日園茶小集につき来車希度〕	[年欠] 7月16日	—	具視	福羽美静殿	1通	墨書/青色罫付き巻紙		690
1 7	〔大木喬任書簡：尊園の竹の子恵与の礼状〕	[年欠] 4月20日	—	大木喬任	福羽先生	1通	墨書/巻紙		454
1 8	〔正親町実徳書簡：即位之節被用候御旗之絹糸之事につき〕	[年欠] 正月22日	—	実徳	福羽五位殿	1通	墨書/巻紙		452
1 9	〔大久保一翁書簡：大好物の海苔御恵投の礼状〕	[年欠] 12月31日	—	一翁拝	福羽君	1通	墨書/巻紙	虫損あり。	537
1 10	〔大久保一翁書簡：御高詠扇二握御恵投の礼状〕	[年月欠] 4日	—	一翁拝	福羽君	1通	墨書/巻紙		536
1 11	〔大給恒書簡：土田泰蔵と申す漢学者が題字を願いたき依頼につき〕	[年欠] 6月8日	—	恒拝	福羽先生	1通	墨書/青色罫紙(雲在庵)	分類：「詠草類 保存モノ」。	586
1 12	〔奥保鞆書簡：先般話の議其内草稿脱すにつき〕	[年欠] 11月8日	—	保鞆	福羽老閨	1通	墨書/巻紙		534
1 13	〔香川敬三書簡：編纂局の儀につき委員一同へ通知相成度〕	明治16年7月19日	1883	香川敬三	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙	岩倉具視の「大患」に伴う処置に関する内容。	691
1 14	〔華族会館献上物縮図：銀製龍馬御置物・唐萬春鑑背文紅地堆黒彫漆御卓〕	[明治27年4月6日]	1894	華族会館	福羽美静	1枚	印刷・蒟蒻版/状	封筒とも(墨書「福羽美静殿」ほか・朱印「東京麹町区内山下町 華族会館」・消印「廿七年四月六日」あり)。絵図付き。	640
1 15 1	〔亀井茲明葉書：家令大岡恕平差免の通知〕	明治27年7月20日	1894	亀井茲明	福羽美静殿	1枚	墨書/郵便葉書	消印「東京駒込/廿七年七月二十日」。 亀井茲明は旧津和野藩主亀井伯爵家第13代当主。	368
1 15 2	〔亀井茲明葉書：田中榮秀家令心得任の通知〕	明治27年7月20日	1894	亀井茲明	福羽美静殿	1枚	墨書/郵便葉書	消印「東京駒込/廿七年七月二十日」。	368
1 16	〔亀井茲監書簡：詠草二首添削依頼〕	[年欠] 5月10日	—	茲監	福羽美静	1通	墨書/巻紙	正風社関係。亀井茲監は旧津和野藩第11代藩主・亀井伯爵家第12代当主。	696
1 17	〔烏丸光徳書簡：大坂生玉社神主の生嶋彦太郎を直教御用に推薦依頼につき〕	[年欠] 5月16日	—	烏丸	福羽先生	1通	墨書/色巻紙(朱・墨)		515
1 18	〔川田剛書簡：玉松君碑文の添削につき〕	[年欠] 6月3日	—	剛	福羽先生	1通	墨書/巻紙	封筒とも(表に「福羽美静殿」、裏に「川田剛」)。	633
1 19	〔九条道孝書簡：亀井殿より申入の歌会兼題につき催促〕	[年欠] 9月5日5時	—	道孝	福羽殿	1通	墨書/便箋		525

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
1 20	〔黒田清隆書簡：佳品礼状、北海道産林檎を返送〕	〔年欠〕12月15日	—	清隆	福羽殿	1通	墨書/赤色罫付き巻紙		529
1 21	〔河田景与書簡：草葉御朱下されたく〕	〔年欠〕6月27日	—	景与	福羽先生	1通	墨書/巻紙		455
1 22	〔河野敏鎌書簡：書面拝見、来る12日参邸の旨敬承〕	〔年欠〕5月10日	—	河野敏鎌	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙		544
1 23	〔久我建通書簡：来る11日の小集承知につき〕	〔年欠〕5月9日	—	久我建通	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙		701
1 24	〔近衛忠熙書簡：旧冬来の病気見舞併に玉詠染筆の礼状〕	〔年欠〕1月15日	—	近衛忠熙	福羽美静君	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 25	〔近衛忠熙書簡：至ての好物恵投の礼状〕	〔年欠〕1月21日	—	忠熙	美静公閣下	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 26	〔近衛忠熙書簡：鳩峯八幡宮の額染筆依頼につき〕	〔年欠〕3月20日	—	近衛忠熙	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 27	〔近衛忠熙書簡：額字拙筆認のまま差出につき〕	〔年欠〕3月26日	—	忠熙	美静公	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 28	〔近衛忠熙書簡：大好物の竹の子拌味の礼状〕	〔年欠〕4月27日	—	忠熙	美静君机下	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 29	〔近衛忠熙書簡：本日抛無く参上仕兼候につき〕	〔年欠〕5月1日	—	忠熙	美静君机下	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 30	〔近衛忠熙書簡：尊亭の牡丹咲出すにつき召しにより参上する旨〕	〔年欠〕5月7日	—	忠熙	美静君	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 31	〔伊藤桂洲カ書簡：藤房卿・備後三郎・新田左中將を詠んだ歌をすきに御削改されたく〕	〔年月日欠〕日時	—	伊藤桂洲カ	福羽大人	1通	墨書/巻紙	23～30:8通一括・封筒とも（「福羽美静君拝復」）。	363
1 32	〔西園寺公望書簡：明後7日9時より11時半迄は差支無之、御來賀下れば大幸〕	〔明治28年〕6月5日	1895	西園寺公望	福羽殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊島郡元角管村百八十五 福羽美静殿 侍史」、裏に「永田町官邸 西園寺公望」・消印「武蔵中野/廿八年六月五日」あり、印刷「文部省用」あり）。	532
1 33	〔西郷従道書簡：免職のため湯島天神町へ住所引移の報告〕	〔年欠〕1月12日	—	従道	美静様	1通	墨書/巻紙		460
1 34	〔税所敦子書簡：此とは御めつらしきしな御覧に御入れあそはしませしき、御覧すませられ候ま、御返し申入候〕	〔年月日欠〕	—	税所敦子	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙	税所敦子（1836～1907）は歌人。高崎正風の推挙で1875年宮中に入り、権掌侍楓内侍として皇后に歌道をもって仕えた。	531
1 35	〔税所敦子書簡：昨日両陛下へ献上の竹の子早そく御賞観につき〕	〔年月日欠〕	—	あつ子	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙		458
1 36	〔周防国都濃郡富田村民ほかより福羽美静宛ての「寄硯祝」短冊8葉〕	〔明治24年12月28日〕	1891	周防国都濃郡富田村郷社山崎八幡宮祠官七十一人 佐伯美敬ほか6名	—	8葉	墨書/短冊	封筒とも（表に「東京府下豊島郡淀橋町 元角管村百八十五番地 福羽美静殿閣下」・消印「周防福川/廿■■■■十二月二十八日」あり、裏に「山口県周防国都濃郡富田村 佐伯美敬」・消印「武蔵東京/廿四年十二月三十一日」あり）。	217
1 37	〔嵯峨実愛書簡：芳園牡丹の頃にも相成、来11日午後3時参上致す可き様の招き感謝〕	〔年欠〕5月9日	—	実愛	福羽君	1通	墨書/赤色巻紙		697
1 38	〔佐久間巖書簡：亡父東雄伝につき、御序文版木相成、ご高覧願上〕	〔年欠〕6月6日	—	佐久間巖	福羽美静大人	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「福羽美静大人閣下」、裏に「佐久間巖」）。	340
1 39	〔佐々布充重書簡：歳末鶏卵御贈与深謝〕	明治27年12月31日	1894	佐々布充重	福羽老台閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊島郡淀橋町元角管新町 福羽美静殿」、裏に「小石川区西原町三百子日十一番地 佐々布充重」・消印「武蔵中野/廿七年十二月三十一日」あり）。 佐々布家は福羽逸人の生家。	373
1 40	〔アーネスト・サトウ書簡：質問の儀につき面悟したく予定伺い〕	〔年欠〕2月26日	—	英国公使館 エルネストサトウ	福羽様貴下	1通	墨書/巻紙		327

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
1 41	〔佐藤篤次郎書簡：村内共有財産設立組織につき賛成同意〕	明治22年2月	1889	佐藤篤次郎〔南豊高郡角管村百十九番地字辻渡辺英三郎右後見人〕	福羽美静様	1通	墨書/状		186
1 42	〔三条実美書簡：教部卿の義、嵯峨卿と談合の上決答ありたく〕	〔年欠〕2月7日	—	実美	福羽殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「福羽美静殿 玉按下 実美」）。	527
1 43	〔三条実美書簡：帰京につき土産進上〕	〔年欠〕5月20日	—	実美	福羽先生	1通	墨書/巻紙		456
1 44	〔三条西季知書簡：歌の事一昨日御前に出候処貴官御議論至極トカ〕	〔年欠〕12月31日	—	季知	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙		631
1 45	〔穴戸璣書簡：正院にて隈氏へ御申入候処熱慮中につき大兄よりも遅込ありたく〕	〔年欠〕7月19日	—	璣	福羽大盟兄	1通	墨書/巻紙		706
1 46	〔末松謙澄書簡：孝明天皇御霊祭の御企につき加名は御断申上候〕	〔年月欠〕29日	—	末松謙澄（上州伊香保ニテ）	福羽子爵殿	1通	墨書/巻紙		539
1 47	〔杉孫七郎書簡：来る12日午後参邸〕	〔年欠〕5月10日	—	孫七郎	福羽美静殿侍曹	1通	墨書/巻紙		629
1 48	〔杉孫七郎書簡：小藤氏の儀は田中氏より詳細承知、有地品之允へは杉盛道より通知〕	〔年欠〕6月22日	—	孫七郎	福羽賢台硯北	1通	墨書/巻紙	小藤氏は小藤文次郎（津和野出身の地質学者）のことか。	517
1 49	〔千家尊福書簡：短冊御揮毫相願申度につき〕	〔年欠〕7月17日	—	千家尊福	福羽従四位殿	1通	墨書/巻紙		526
1 50	〔千家尊福書簡：参上の砌饗応御礼〕	〔年月欠〕19日	—	尊福	福羽殿	1通	墨書/巻紙		632
1 51	〔高島鞆之助書簡：不得止場合は惣辞職に相決候〕	〔年月欠〕30日	—	鞆之助	美静様閣下	1通	墨書/巻紙		703
1 52	〔高辻修長書簡：天皇・太上天皇・皇太子より臣下へ御直書下賜の節、如何相成有之候哉につき御示教を願う〕	〔年欠〕7月1日	—	修長	福羽様	1通	墨書/巻紙		538
1 53	〔伊達宗城書簡：来る11日午後3時より中山妃御招につき倍随申し上ぐ可く〕	〔年欠〕5月8日	—	宗城	福羽大人	1通	墨書/巻紙		709
1 54	〔伊達宗城書簡：正風社兼題御再考願ひにつき〕	〔年欠〕7月17日	—	宗城	福羽先生榻下	1通	墨書/巻紙	正風社関係。	535
1 55	〔伊達宗城書簡：故三条西返悼題到来につき〕	〔年欠〕8月23日	—	宗城	福羽先生机下	1通	墨書/巻紙	三条西季知は1880年8月24日没。	630
1 56	〔田中栄秀書簡：服務規程第三条を犯らるる者は退職せしむとの條文に照し免職につき〕	〔明治27年〕7月20日	1894	田中栄秀	福羽子爵閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊高郡元角管新町 子爵福羽美静殿 蜜啓」、裏に「小石川丸山町屋敷 田中栄秀」・消印「武蔵中野/廿七年七月二十一日」あり）。	370
1 57 1	〔田中栄秀書簡：別紙の通只今内報有之候〕	〔明治27年〕12月21日6時35分	1894	栄秀	福羽子爵閣下 福羽逸人殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊高郡淀橋村元角管新町 子爵福羽美静殿 親展」、裏に「小石川丸山町亀井家 田中栄秀 十二月廿一日午後六時三十五分」・消印「武蔵中野/廿七年十二月二十二日」）。	381
1 57 2	〔飯田宏作書簡写：検事局に出頭したが予審判事不在につき明朝再び参上し中止命令を頼むつもり〕	〔明治27年〕12月21日午後6時25分受取	1894	飯田宏作	田中栄秀	1通	墨書/黒色罫紙	1-57-1封筒に同封。	381
1 58	〔田中栄秀書簡：裁判につき、御家の不利益となることなき見込み ほか〕	明治27年12月23日	1894	田中栄秀	福羽子爵閣下	1通(5枚)	墨書/黒色罫紙	封筒とも（表に「南豊高郡元角管新町 子爵福羽美静殿 御親展」・消印「武蔵中野/廿七年十二月二十四日」あり、裏に「小石川丸山町亀井家 田中栄秀」）。	374
1 59 1	〔田中栄秀書簡：12月7日・12日の手続き報告および東京地方裁判所・京橋区裁判所の判事・刑事名書上げ〕	〔明治28年〕1月24日	1895	田中栄秀	福羽子爵閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊高郡元角管新町 子爵福羽美静殿 親展」・消印「武蔵東京駒込/廿八年一月二十五日」あり、裏に「小石川丸山町 亀井邸 田中栄秀」）。	130

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
1 59 2	[福羽美静書簡：亀井茲明の不当なる偽造証書の訴訟につき]	[明治28年]1月25日	1895	美静	芳川〔顕正〕大臣閣下	1通	墨書/巻紙	1-59-1封筒に同封。手控えか。	130
1 60 —	[田中栄秀書簡：東京地方裁判所へ出頭の筈の所風邪の為診断書提出、病状につきほか]	[明治28年]2月6日 夕6時	1895	田中栄秀	福羽子爵閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊島郡元角管新町 子爵福羽美静殿」、裏に「小石川丸山町 亀井家 田中栄秀」）。	378
1 61 —	[田中栄秀書簡：病状その後快方に向かい異条ない旨今日医師より承り申候]	[明治28年]2月9日	1895	田中栄秀	福羽子爵閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊島郡元角管新町 子爵福羽美静殿」、裏に「小石川丸山町 亀井邸 田中栄秀 二月九日」・消印「武蔵中野/廿八年二月九日」）。	366
1 62 —	[田中栄秀書簡：異存無い旨小生より伯に委細申入承諾被致候]	[明治28年]2月22日	1895	栄秀	福羽子爵閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊島郡元角管新町 子爵福羽美静殿 仰親展」、裏に「小石川丸山町 亀井家 田中栄秀」・消印「武蔵中野/廿八年二月二十三日」あり）。下部一部破損。	364
1 63 —	[田中栄秀書簡：口頭弁論の末訴訟は不適當につき棄却との判決申渡を御通知]	明治28年2月28日	1895	田中栄秀	福羽子爵殿	1通	墨書/黒色罫紙		367
1 64 —	[玉乃世履書簡：来る12日午後3時より参堂の案内に接し多謝]	[年欠]5月10日	—	玉乃世履	福羽先生	1通	墨書/巻紙		705
1 65 —	[徳大寺実則書簡：山口県土族故村田清風・大津唯雪国家の為尽力切勞有之者にて金門下賜につき]	[年欠]8月15日	—	徳大寺実則	福羽殿	1通	墨書/巻紙	糊剥離・断裂。	704
1 66 —	[中井千尋書簡：閣下還暦を祝し高城近傍の有志で去る3月1日歌会を開催につき]	[明治24年]4月2日	1891	中井千尋	福羽尊大人閣下	1通	墨書/巻紙	鳥根県美濃郡高城村（現・益田市）は旧津和野藩領。福羽美静の還暦は満年齢で明治24年。	137
1 67 1	[中村正直書簡：古事記英訳亜細亜会社にて出版の品日本橋丸善にて売捌き]	[年欠]11月2日	—	正直	福羽様	1通	墨書/褐色便箋	「古事記英訳」は Basil Hall Chamberlain, "A Translation of the 'Ko-ji-ki', or Records of Ancient Matters," Transactions of the Asiatic Society of Japan, vol. 10 supplement, Yokohama, 1883. のことか。	699
1 67 2	[中村正直書簡：題字の語につき]	[年欠]11月2日	—	中村正直	福羽様	1通	墨書/赤色便箋		699
1 67 3	[中村正直書簡：拙筆の誤字を認め]	[年月日欠]	—	正直	福羽様	1通	墨書/黄色便箋		699
1 68 —	[中山忠能書簡：明宮御種痘の御側に從えず残念、御厚志に御礼]	[明治14年カ]5月9日	1881	忠能	福羽殿	1通	墨書/巻紙	明宮は1881年5月3日に初の種痘を行っている（岩壁義光補訂『大正天皇実録 補訂版 第一』ゆまに書房、2016年、21頁）。	514
1 69 —	[西周書簡：来る4月6日の郵船にて帰省、何か御托等あれば仰下れたく]	[明治14年カ]3月31日	1881	西周	福羽先生	1通	墨書/巻紙	西周は1881年4月に父・時義の危篤のため、津和野へ帰省している。	541
1 70 —	[西周書簡：今般の帰省につき結構之御品、愚父へも高調の御扇面の御恵投を謝す]	[明治14年カ]4月5日	1881	周	福羽先生	1通	墨書/巻紙	同前。	540
1 71 —	[西宮（西野）宣明書簡：旧冬来の病気の件、ほか]	[年欠]5月30日	—	西宮宣明	福羽君閣下	1通	墨書/赤色巻紙	西宮〔西野〕宣明（1802～1883）は水戸藩士・国学者。弘道館訓導、維新後は新政府のもとで山陵調査に従事。姓はもと西野のち西宮。	710
1 72 —	[西宮（西野）宣明書簡：来月八十賀庭相開くにつき]	[年欠]5月31日	—	西宮宣明	従四位福羽君閣下	1通	墨書/巻紙		447
1 73 —	[書簡：同県の好みを以て御憐憫を垂れ学資恩借を願う]	[年月日欠]	—	野津虎三郎〔嶋根県下隠岐国周吉郡加茂村〕	福羽公閣下	1通	墨書/褐色罫紙		156
1 74 —	[橋本実梁和歌：同慶新年]	—	—	実梁	—	1枚	墨書/状	「軒ことにひく注連なのはうちはへて 御代長かれといはふ諸人」。	708
1 75 —	[花房義質書簡：明治美術会からの来観招請につき、ほか]	[明治28年]6月11日	1895	花房義質	福羽子爵閣下	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「南豊島郡淀橋村角管新町百鉢十五番地 子爵福羽美静殿 親展」、裏に「築地三丁目四番地 花房義質」・消印「武蔵中野/廿八年六月十二日」あり）。	639

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
1 76	〔東久世通禧書簡：御美麗の御裁養の草花御恵投被下忝く、床頭賞観につき〕	[年欠] 2月5日	—	東久世通禧	福羽美静殿	1通	墨書/巻紙		518
1 77	〔東久世通禧書簡：昨日の御招き何分未扶癒につき御断〕	[年欠] 3月17日	—	通禧	福羽賢台	1通	墨書/巻紙		519
1 78	〔東久世通禧書簡：明日参上心得仕り候処用向出来出頭御断申入〕	[年欠] 5月11日	—	通禧	福羽様	1通	墨書/巻紙		521
1 79	〔東久世通禧書簡：今日は鍋島直彬より招、承諾につき〕	[年欠] 5月14日	—	通禧	福羽様	1通	墨書/巻紙		524
1 80	〔東久世通禧書簡：賢息之儀戴冠式済み御帰朝恐悦〕	[年欠] 9月6日	—	東久世通禧	福羽大人尊下	1通	墨書/巻紙		523
1 81	〔東久世通禧書簡：美事の栗子一籠御恵贈忝き〕	[年欠] 11月12日	—	東久世通禧	福羽美静様	1通	墨書/巻紙		520
1 82	〔東久世通禧書簡：来26日午後棋会出席につき〕	[年欠] 12月26日	—	通禧	福羽大人	1通	墨書/巻紙		522
1 83	〔土方久元書簡：御献言の趣は熟談熟考仕るべく候〕	[年欠] 1月29日	—	久元	福羽殿	1通	墨書/巻紙		550
1 84	1 〔土方久元書簡：御申越の件、諸方より物議多く十分注意なられたく願う〕	[明治27年カ]2月23日	1894	久元	福羽賢台	1通	墨書/薄墨巻紙	封筒とも（表に「子爵福羽美静殿 親展」・鉛筆書き込み「銀婚式ノ件」、裏に「子爵土方久元」）。5-48と関連。	687
1 84	2 〔土方久元書簡：御慶事名称の儀、銀婚の称の是非につき〕	[明治27年カ]3月7日	1894	土方久元	福羽先生	1通	墨書/巻紙	84-1封筒に同封。明治天皇の銀婚式（大婚二十五年祝典）は1894年3月9日に挙行。	687
1 85	〔土方久元書簡：来29日御小集には昇堂致兼候〕	[年欠] 4月27日	—	久元	福羽先生	1通	墨書/赤色巻紙		553
1 86	〔土方久元書簡：来21日御懇会午後5時より来賁被下聞敷哉相伺候〕	[年欠] 5月19日	—	久元	福羽先生	1通	墨書/赤色巻紙	糊剥離・断裂。	552
1 87	〔土方久元書簡：御起稿御書面正に落手〕	[年欠] 6月4日	—	土方久元	子爵福羽殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「子爵福羽美静殿 奉復」、裏に「土方久元」）。	547
1 88	〔土方久元書簡：来12日午後3時より参上の議は敬承、拝趣可仕候〕	[年欠] 7月9日	—	久元	福羽賢台	1通	墨書/青色罫付き巻紙		549
1 89	〔土方久元書簡：昨日来賁のところ不在は遺憾、团扇御恵投拝謝〕	[年欠] 8月21夜	—	久元	福羽賢台	1通	墨書/巻紙		555
1 90	〔土方久元書簡：天野の議其俣に打過候、東京府より申出の旨は宍戸より先日承知、ほか〕	[年欠] 9月7日	—	久元	福羽殿	1通	墨書/巻紙		548
1 91	〔土方久元書簡：怪我致し候え共聊の事にて明後日頃は出仕、天野氏の儀、ほか〕	[年欠] 9月8日	—	久元	福羽賢台	1通	墨書/巻紙		688
1 92	〔土方久元書簡：御申越二条承知仕候〕	[年欠] 9月16日	—	久元	福羽賢台	1通	墨書/巻紙		551
1 93	〔土方久元書簡：御内議改の筋は名代にては不宜候〕	[年欠] 10月21日	—	久元	福羽殿	1通	墨書/巻紙		554
1 94	〔土方久元書簡：御示教の趣敬承にて条公へ御都合相伺候、規則書拝受〕	[年欠] 12月9日	—	久元	福羽賢台	1通	墨書/巻紙		689
1 95	〔福岡孝弟書簡：長男福岡正部分家し商人となる者と御逢くだされたく願う〕	[年欠] 11月20日	—	孝弟	福羽先生	1通	墨書/巻紙		530
1 96	〔松方正義書簡：御細翰の趣逐一拝承仕候尚勤考相加へ近日中拝眉御答可申上候〕	[年欠] 11月1日	—	正義	福羽賢台	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「福羽美静殿 松方正義 親展 御早々」）	513
1 97	〔松平慶永書簡：正風社歌会来ル廿三日と九条・嵯峨両公申談取極につき〕	明治14年4月11日	1881	慶永	福羽先生	1通	墨書/巻紙	正風社関係。	457

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
1 98	— [松平慶永和歌：文をみて君かこゝろのふかみ艸恵の露にかゝるうれしき]	[年欠] 5月8日	—	よし永	福羽美静先生	1枚	墨書／状		695
1 99	— [松平慶永書簡：正風社歌会池田従二位催主にて26日に相成につき]	[年欠] 9月22日	—	慶永	福羽従四位殿	1通	墨書／赤色罫紙	正風社関係。	545
1 100	— [松浦詮書簡：来11日午後3時より参上に関し参料御礼につき御含置ありたく]	[年欠] 5月8日	—	詮	福羽美静殿	1通	墨書／巻紙		533
1 101	— [松浦詮書簡：過日の御懇情に対する礼状]	[年欠] 5月14日	—	詮	福羽殿	1通	墨書／巻紙		713
1 102	— [箕作麟祥書簡：本日は御催へ御招待に感謝、家内の事故有之にて御断申上度]	[年欠] 5月12日	—	箕作麟祥	福羽美静殿	1通	墨書／巻紙		694
1 103	— [壬生基修書簡：左大臣宮より小生も牡丹を拝見致すべく懇命を蒙り参上仕るべく]	[年欠] 5月4日カ	—	基修	福羽美静殿	1通	墨書／赤色罫付き巻紙	熾仁親王の左大臣就任期間は明治13年2月～明治18年12月。	528
1 104	— [四辻清子・高倉寿子書簡：此歌ろんおめづらしからず候へ共御庭前の柴にも仰付よとて思しめしさまにて給り候ま、御載になられ候よう]	[年月日欠]	—	典侍清子・同寿子	福羽美静殿	1通	墨書／一紙		468
1 105 1	— [毛利元徳書簡：むそじあまりひとつの賀のうたのよませられしに そのうたはよみいでかねたりしに このほどよみはべりしゆえに]	[年欠] 4月20日	—	うときばつ末 萩国	鶯花苑主のおんもとに	1通	墨書／巻紙	封筒とも（表に「福羽美静君」、裏に「毛利元徳」）。	543
1 105 2	— [毛利元徳和歌：御園の牡丹を見はへりて]	—	—	元徳	—	1枚	墨書／巻紙	105-1封筒に同封。	543
1 106	— [毛利元徳書簡：梅澤久次郎がこひしうてれうしにかきたれば]	[年欠]半頭支寸衛能八日（8月28日）	—	元徳	鶯花園のきみのおんもとに	1通	墨書／巻紙	封筒とも（表に「南豊嶋郡淀橋町角管村百鉢十五番地 福羽美静殿 自披」、裏に「高輪南町 毛利元徳」・消印「武蔵東京／廿六年五月二十日」あり）。	542
1 107	— [毛利元徳書簡：新年之佳を慶申述候、御祝歌御贈惠を奉謝候、愚詠御笑覽希候也]	[年欠] 1月7日	—	元徳	福羽君	1通	墨書／巻紙		467
1 108 1	— [森有礼書簡：元老院出頭の事、議論の成規等全く不案内又議案の細目心得方不調法に付]	[年欠] 1月27日	—	あり礼	福羽雅大人	1通	墨書／巻紙		336
1 108 2	— [森有礼書簡：福澤・中村等も会候様につき明日午後四時頃御出下されたく]	[年月欠] 29日	—	森有礼	福羽老台	1通	墨書／巻紙		336
1 109	— [山県有朋書簡：短冊尊意に任せ相汚申候、過日来眼疾にて殊更不出来にて御一笑くださるべく]	明治11年10月7日	1878	山縣朋 [有朋]	福羽議官殿	1通	墨書／巻紙	分類：「詠草類 保存モノ」。年は端裏書より。	582
1 110	— [楫取素彦・由利公正書簡：宮内省中に臨時編史局設立の議を宮内大臣に上申につき御報告]	明治26年2月14日	1893	楫取素彦・由利公正	福羽美静殿	1通(2枚)	墨書／赤色罫紙	封筒とも（表に「福羽美静殿 親展」、裏に「楫取素彦 由利公正」）。2枚目に賛成者48名の氏名一覧あり（福羽美静の名もあり）。	511
1 111	— [吉井友実書簡：今日観花宴兼約有て応命兼宜御了承下されたく]	[年欠] 5月14日	—	友実	福羽老台	1通	墨書／巻紙		698
1 112	— [柳赫魯・李允杲書簡：慰問之状に対する礼状]	[明治27年] 4月3日	1894	柳赫魯・李允杲	福羽美静大人	1通	墨書／巻紙	封筒とも（表に「東京府下南豊島郡淀橋町元角管村新町百八十五番地 福羽美静様侍史」、裏「東京麴町区有楽町一丁目五番地小暮方 山田唯一拝」・消印「武蔵中野／廿七年四月三日」あり）。	634
1 113	— [書簡：「八月廿一日貴社新聞に十二層記という一篇を掲載せり」、十二社(十二所)熊野神社の社名表記について]	—	—	四ツ谷 尚豊子カ	新聞社あて[カ]	1通	墨書／巻紙	十二所の文字について、和歌数首。十二社熊野神社は角管村（現・東京都新宿区西新宿）にある神社。サブシリーズ「5-5. 角管村・淀橋町」と関連。	712
1 114	— [書簡：写真代価につき]	[年欠] 4月21日	—	[不明]	福羽殿閣下	1通	墨書／巻紙		474

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
1 115	— [書簡：工部出仕之吉田次郎につき]	[年欠] 5月29日	—	[不明]	福羽大人	1通	墨書/巻紙	糊剥離・断裂。	711
1 116	— [書簡：御園の牡丹花盛開につき本日午後3時参邸の旨拝承]	[年欠] 5月12日	—	[不明]	福羽議官公閣下	1通	墨書/巻紙		714
1 117	1 [侍従書簡：清酒6本を今般御祝典にて人民より献上相来につき思食下賜候]	[年欠] 3月16日	—	上直侍従	子爵福羽美静殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「子爵福羽美静殿」、裏に「上直侍従」・印「宮内省」あり）。	707
1 117	2 [福羽美静書簡：清酒6本有難く頂戴にて早速御礼参上]	[年欠] 3月17日	—	福羽美静	当直侍従御中	1通	墨書/巻紙	1-117-1封筒に同封。礼状下書か。	707
1 117	3 [福羽美静和歌：賜りける酒をあたためさせてかたしけなくうれしく杯を挙げるをり]	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	1-117-1封筒に同封。「ことほきて君にささけしうま酒をわかちて賜ふあちのふかきよ」。	707
1 118	— [福羽美静書簡草稿カ：好古会につき]	[年欠] 4月17日	—	美静	鈴木弘恭殿	1通	墨書/巻紙	前欠。書簡草稿か。サブシリーズ「5-3. 好古社」と関連か。	180
1 119	— [大國隆正カ書簡：黒住一件につき]	[年欠] 正月26日	—	大國	千葉様	1通	墨書/赤色巻紙	分類：「詠草類 保存モノ」一括。台紙あり。	594
1 120	1 [網徳治書簡写：奉行会へ貸付の約定の金円につき督促、飯山正彦氏へ催促も支払せず]	明治32年8月25日	1899	網徳治 [本銀町三丁目九番地]	奉行会々長 福羽美静殿	1通	墨書/青色罫紙	右上に「写」とあり。	135
1 120	2 [網徳治宛て書簡写：飯山正彦氏方へ被申入候事可然と存候]	明治32年8月26日	1899	福羽	網徳治殿	1通	墨書/青色罫紙	右上に「写」とあり。	135
1 121	— [福羽美静書簡：内閣総辞職につき、内閣事状により総辞職は遺憾]	[年欠] 12月31日	—	美静	高嶋鞆之助殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも（表に「高嶋鞆之助宛復文」）。書簡草稿か。文中に樺山・松方・伊藤の名が挙がる。	702
1 122	— [福羽美静書簡：大谷秀実ほか級友と久しぶりに相会満足、よって明後31日旧友集会したく]	[年欠] 3月29日	—	福羽美静	井上佐伯かた	1通	墨書/巻紙	「井上」は井上隆蔵（瑞枝）か。	181
1 123	— [福羽文三郎書簡控：京都へ長州侯拝領之節、公武御中間の儀ひそかに恐れ入り、ほか]	[近世期]	—	[福羽文三郎]	—	1通	墨書/黒色罫紙	欄外に「文三郎控」とあり。文三郎は美静の通称。	195
1 124	— [福羽美静書簡草稿カ：好古会につき、方丈記おくりたまはりいとかたしけなうなむ、ほか]	—	—	[福羽美静カ]	—	1通	墨書/巻紙	サブシリーズ「5-3. 好古社」と関連か。	174
1 125	— [福羽美静書簡草稿：検定教科書につき]	—	—	美静	—	1通	墨書/巻紙	教科書の検定制は1886～1903年に実施。	179
1 126	— [福羽美静書簡草稿カ：一昨日旋風のため当所は惨状の至り、幸に当邸まぬかれ御安神下さるべく]	—	—	[福羽美静カ]	—	1通	墨書/青色罫紙		272
1 127	— [福羽美静書簡草稿：己国の道説かんとする要は…万世一系の皇位の尊きは世界にこれをしらしめて随てわか国体国教を意得せしめんとするにあり、ほか]	—	—	[福羽美静カ]	—	1通	墨書/巻紙		441
1 128	— [書簡草稿・控え：国粋云々と称する説を謝絶したことについての見解]	[年欠] 6月20日	—	福羽美静	[平松時厚]	2冊 (各5丁)	墨書/冊 (青色罫紙)	1冊は草稿（朱書修正および貼紙あり）で、もう1冊は控えか。冒頭：「貴家とは兼て懇交中の儀につき不取放一文を呈す」。	159

2. 履歴 (30点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
2 1	— [辞令] 任教部大輔	明治5年壬申3月14日	1872	太政大臣従一位三條実美宣 大内史正五位土方久元奉	従四位福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。右上に墨書「同年五月廿四日免」あり。	496

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
2 2	〔辞令〕御用滞在被仰付候事	[明治5年]壬申5月24日	1872	太政官	従四位福羽美静	1枚	墨書/状		563
2 3	〔辞令〕免本官〔教部大輔〕	[明治5年]壬申5月24日	1872	太政官	教部大輔福羽美静	1枚	墨書/状		493
2 4	〔辞令〕宮内省三等出仕被仰付候事	[明治5年]壬申7月27日	1872	太政官	従四位福羽美静	1枚	墨書/状		564
2 5	〔辞令〕皇子御葬式御用懸被仰付候事	明治6年9月19日	1873	宮内省	宮内省三等出仕福羽美静	1枚	墨書/状		494
2 6	〔辞令〕任二等侍講	明治8年1月25日	1875	太政大臣従一位三條実美奉	宮内省三等出仕従四位福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	501
2 7	〔辞令〕除服出仕	明治8年2月27日	1875	太政官	二等侍講福羽美静	1枚	墨書/状	同年2月17日に妻・久が歿。	489
2 8	〔辞令〕除服出仕	明治8年5月3日	1875	太政官	二等侍講福羽美静	1枚	墨書/状	同年4月16日に父・美質が歿。	486
2 9	〔辞令〕任議官兼二等侍講	明治8年7月22日	1875	太政大臣従一位三條実美奉	二等侍講従四位福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	503
2 10	〔辞令〕年給三千五百円下賜候事	明治8年12月7日	1875	太政官	議官兼二等侍講福羽美静	1枚	墨書/状		488
2 11	〔辞令〕為国憲取調委員	明治9年9月8日	1876	議長有栖川熾仁	議官福羽美静	1枚	墨書/状		498
2 12	〔辞令〕御用有之京都へ被差遣候事	明治10年7月3日	1877	太政官	二等侍講福羽美静	1枚	墨書/状		487
2 13	〔辞令〕御用相済婦京被仰付候事	明治10年7月26日	1877	行在所 太政官	二等侍講福羽美静	1枚	墨書/状		499
2 14	〔辞令〕宮内省御用掛被仰付候事	明治10年8月29日	1877	太政官	議官福羽美静	1枚	墨書/状		491
2 15	〔辞令〕免兼官〔二等侍講〕	明治10年8月29日	1877	太政官	議官兼二等侍講福羽美静	1枚	墨書/状		490
2 16	〔辞令〕文学御用掛被仰付候事	明治12年1月16日	1879	宮内省	宮内省御用掛議官福羽美静	1枚	墨書/状		495
2 17	〔通知〕東京学士会投票ヲ以テ先生ヲ會員ニ選挙セリ	明治12年5月28日	1879	東京学士会院会長福澤諭吉	福羽美静先生	1通	墨書/状	分類:「詠稿類 三」。朱印「東京学士会院」あり。	609
2 18	〔辞令〕東京女子師範学校摂理嘱任中為報酬一ヶ年金六百円贈胎候事	明治13年6月8日	1880	文部省	議官福羽美静	1枚	墨書/状		497
2 19	〔辞令〕任参事院議官	明治14年10月21日	1881	太政大臣従一位勲一等三條実美奉	元老院議官従四位勲二等福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	502
2 20	〔辞令〕一等官相当年俸四千五百円下賜候事	明治14年10月21日	1881	太政官	参事院議官福羽美静	1枚	墨書/状		504
2 21	〔辞令〕是迄東京女子師範学校勤務之処自今本省勤務被仰付候事	明治18年8月26日	1885	文部省	文部省御用掛福羽美静	1枚	墨書/状		492
2 22	〔位記〕叙正四位	明治18年10月1日	1885	太政大臣従一位大勲位公爵三條実美奉	従四位勲二等福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	507
2 23	〔辞令〕任元老院議官	明治18年12月22日	1885	内大臣従一位大勲位公爵三條実美奉	正四位勲二等福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	500
2 24	〔位記〕叙従三位	明治19年10月20日	1886	内閣総理大臣従二位勲一等伯爵伊藤博文奉	正四位勲二等福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	508
2 25	〔位記〕叙正三位	明治27年5月21日	1894	宮内大臣従二位勲一等子爵土方元奉	従三位勲二等子爵福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	506
2 26	〔位記〕叙従二位	明治37年3月25日	1904	宮内大臣従二位勲一等子爵田中光顕奉	正三位勲二等子爵福羽美静	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。	505

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
2 27	履歴〔天保2年～明治40年の福羽美静履歴〕	—	—	—	—	1綴 (17丁)	墨書/青色罫紙	明治37・40年の項目は加筆(清書は明治34年まで)。	375
2 28	〔福羽美静履歴断片〕	—	—	—	—	1枚	墨書/青色罫紙	明治3年8月22日「鹿島香取両社奉使被仰付」から明治4年6月27日「任神祇少副兼宣教次官」まで。	287
2 29	〔福羽美静肖像写真〕	—	—	K. Ogawa 〔小川一真〕	—	1枚	ガラス乾板	8.2×5.2 (cm)。茶封筒「御写真」に封入。2・30と同一画面。 同封①未使用懐中手帳(袖珍本)1冊。 同封②「竹の子のこぼし」(「明治二十六年のはる鶯花園のあるじ美静しるす」)「筆者 野村伝四郎」1枚。	356
2 30	〔福羽美静肖像写真〕	—	—	—	—	1枚	印刷(写真)/状	分類:「福羽様」。2・29と同一画面。	438

3. 日記・備忘録 (15点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
3 1	〔懐中日誌〕	慶應元年	1865	〔福羽美静〕	—	1冊(12丁)	墨書/冊(和綴じ、日記用罫紙、版心「和田蔵」)	7.0×18.2 (cm)。「出仕」・「病欠」など簡素な記述が大半。	300
3 2	〔日記(部分)〕	慶應2年	1866	〔福羽美静〕	—	1冊(3枚)	墨書/冊(黒色罫紙)	内容月日:正月元日～17日、2月朔日～29日。	139
3 2	〔日記(部分)〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1冊(5枚)	墨書/冊(黒色罫紙)	内容月日:6月朔日～7月17日。後ろ3枚は記述なし。	139
3 3	慶應三年丁卯 日次之内	慶應3年丁卯	1867	真弟居〔福羽美静カ〕	—	1冊(16丁)	墨書/横半帳	内容月日:9月朔日～28日、ほか追記あり。表紙に「従九月朔日」とあり。	79
3 4	日記	丁卯〔慶應3年〕	1867	真弟居〔福羽美静カ〕	—	1冊(20丁)	墨書/横半帳	内容月日:11月4日～20日、ほか追記あり。表紙に「丁卯十一月四日」とあり。	80
3 5	〔日記〕	戊辰〔慶應4年〕	1868	〔福羽美静〕	—	1冊(3丁)	墨書/横帳	内容月日:1月4日～3月27日。戊辰戦争に関わる記述あり。	78
3 6	当用手控	戊〔明治元年カ〕 12月	1868	福羽美静	—	1冊(20丁)	墨書/横半帳	内容月日:12月2日、正月1日～2月16日。表紙に「戊十二月」とあり。末尾に「先般攘夷と存帳」で始まる一文あり。	116
3 7	日簿	壬申〔明治5年〕	1872	美静	—	1冊(5丁)	墨書/冊(黒色罫紙)	内容月日:9月朔日～29日。表紙に「壬申八月ヨリ」とあり。「進講」・「陪食」・「神宮御祭」・「招魂社祭行」等の記事あり。	98
3 8	日記	癸酉〔明治6年〕	1873	〔福羽美静〕	—	1冊(30丁)	墨書/冊(黒色罫紙)	内容月日:10月1日～11月15日。「濱殿御共」・「天長節」のほかはほとんど記載なし。大部分は未記入。	128
3 9	〔日記〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1冊(3丁)	墨書/横帳	内容月日:12月12日～27日、ほか追記あり。	134
3 10	〔日記(断片)〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	内容月日:9月14～17日カ。「九月十四日辰刻仁保崎浦出帆」・「都久夫須麻神社」などの記述あり。横半帳の一部カ。	99
3 11	〔歌稿帳〕 座右本久	明治32年5月	1899	元々居主人〔福羽美静カ〕	—	1冊(36丁)	墨書/冊(袖珍本)	10.5×10.2 (cm)。表紙に「卅二年五月」とあり。記述は初めの9丁のみ。	680
3 12	〔表紙〕 日新録	明治33年3月	1900	福羽	—	1枚	墨書/状	表紙のみ。	198
3 13	備忘録	〔子年〕	—	木園〔福羽美静〕	—	1冊(16丁)	墨書/横半帳	内容月日:3月24日～6月朔日。表紙に「子五月」とあり。	115
3 14	座右小記	—	—	硯堂〔福羽美静〕	—	1冊(82丁)	墨書・朱書/冊(袖珍本、青色罫紙)	14.0×9.5 (cm)。美静の手帳カ。冒頭頁に目録として「家内誕生日/先代祭日/美静歴年記/沙汰/美静奉明」とあり(うち歴年記には天保2年～明治40年までの記述あり)。ほかに内容として、「好古社々員録」(明治14～19年)、「郵船株」および「本邸宅地畑地所」・「代々幡村大字代々木新町」ほかの書上あり(一部略図面もあり)。	453

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
3 15	〔小型洋風手帳：日記カ〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1冊	鉛筆書/小型群青色ノート	9.6×6.3(cm)。日記風の記述あり。表紙に「Notes」の刻あり。	444

4. 公職関係

4-1. 幕末維新时期 (12点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 1	行事略	安政4年巳10月	1857	—	—	1冊(8丁)	墨書/冊	冒頭：「年中之御行事神の御門の京都なる禁裏の御所の内天子百官相集ひ春たつ年のはしめより歳の終のゆふへまで其節々の御次第」。	481
4 2	人足賃銭払帳	文久2年壬戌閏8月	1862	津和野家中 福羽文三郎	—	1冊	墨書/横半綴	表紙に墨書「津和野分大阪まで」あり。	736
4 3	職原學要〔掌中職原學要大成〕	文久癸亥〔3年〕春2月〔序文〕	1863	〔速水房常、竹中知賢校訂増補〕	—	1冊(134丁)	印刷(木版、四周単辺無界)/刊本(袖珍本)	8.0×17.0×2.6 (cm)。資料名は自作の表紙より。奥付など欠。手製の簡便な箱入り。「凡例」によると、宝暦の頃に速水房常が抄出したものを原本とし、竹中知賢が校訂増補したもの。	686
4 4	文久三年夏ノ頃御仮建ト称スル事件	〔文久3年〕	1863	〔福羽美静〕	—	5枚	墨書/赤色罫紙	文久3年夏に孝明天皇が宮中御学問所に引き添えた大間に御仮建を設けて、公家や藩主・陪臣を集め意見質問などの交換をした経緯の記録。「御仮建」は京都学習院と関係するか。	194
4 5	〔人足賃銭払帳ほか帳面綴り〕	〔文久3年2～4月〕	1863	〔福羽文三郎ほか〕	—	1綴(4冊)	墨書/横半綴	横半帳4冊の綴り。内容①「人足賃銭払帳」(津和野福羽文三郎内小林兼右衛門、文久3年亥2月)。内容②「人馬賃銭払帳〔中仙道より〕」(亀井隠岐守内福羽文三郎、文久2年2月21日)。内容③「人足賃銭払帳〔亀井隠岐守東海道旅中迄石河金右衛門先触〕」(津和野福羽文三郎、亥3月3日)。内容④「人足賃銭払帳〔西宮より〕」(津和野福羽文三郎、文久3年4月朔日)。	114
4 6	〔人足賃銭帳ほか帳面綴り〕	〔元治元年〕	1864	〔福羽文三郎ほか〕	—	1綴(4冊)	墨書/横半綴	横半帳4冊の綴り。内容①「人足賃銭帳〔津和野分山口迄〕」(津和野藩福羽文三郎、子3月)。内容②「人足賃銭払帳」(津和野福羽文三郎、元治元年甲子5月)。内容③「人馬帳」(津和野澄川熊一、元治元年子8月)。内容④「人足帳」(津和野藩福羽文三郎、元治元年甲子8月)。	276
4 7	〔人足賃銭帳ほか帳面綴り〕	〔慶應3年〕	1867	〔福羽文三郎〕	—	1綴(3冊)	墨書/横半綴	横半帳3冊の綴り。内容①「人足賃銭帳」(福羽文三郎、卯9月)。内容②「人足帳」(津和野福羽文三郎、丁卯11月)。内容③「人足帳〔山口迄〕」(津和野福羽文三郎、卯12月)。	126
4 8	職制便覧	明治紀元歳次戊辰孟冬〔明治元年10月〕	1868	彦根 書物用所	—	1枚	印刷(木版)/状	藩治五局の表。	482
4 9	御貢獻物ニ付御進物并諸費金覚〔御用掛山階三位ほかへ礼物の書上〕	〔近世期〕	—	—	—	1冊(5丁)	墨書/冊		380
4 10	〔覚書〕	—	—	—	—	1冊(4枚)	墨書/横帳	2～4枚目破れ大。	154
4 11	諸色請取通	—	—	五十三番 御内用方	—	1冊	墨書/横半帳		127
4 12	明治元年御沙汰書御違書願届留	—	—	—	—	1枚	墨書/青色罫紙	「正月四日參與御役所へ御守衛御願書」の写し。	461

4-2. 神祇官・神祇省・教部省 (13点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 13	〔磯部伊雜宮并大蔵社の管轄につき外務省解答書〕	庚午〔明治3年〕 6月14日	1870	外務省	弁官御中	2枚	墨書/版心「外務省」野紙ほか	「別紙鳥羽藩伺書御下ケ相成一読仕候。僻逖之土民頑固之情実申立之趣無余義次第二相問候。就而は磯部伊雜宮并大蔵社共宇治神宮之管轄ニ候得共古昔ハ神宮神領中之末社と相考候間、神宮并渡会県令御沙汰之通被仰付可然候。此段伺書相添申上候也」。別紙伺書は添付なし。	292
4 14	御歴代御陵御祭日録	〔明治3年カ〕	1870	—	—	1冊(15丁)	墨書/冊(黒色野紙)	歴代天皇の御陵御祭日の一覧表。墓陵の名前、没年月、明治3年現在の経過年数、墓陵の所在地を記す。	462
4 15	海内敬神ヲ一ニシ教道ノ本原ヲ建ツ可キノ議	〔明治4～5年頃カ〕	—	神祇大少輔〔朱印「美静」「門脇」〕	外務省・大蔵省・兵部省・文部省・司法省・宮内省	3枚	墨書/版心「神祇官」黒色野紙	天照皇大神・伊勢神宮を中心とすべき旨の規則案。朱印「美静」は神祇大少輔の福羽美静、「門脇」は神祇少輔の門脇重綾。	242
4 16	即位新式抄	明治32年12月(再写)	1899	福羽美静(子爵)	—	13枚	墨書/青色野紙	かつて「神祇事務局権判事福羽美静」が明治の即位礼を新たに定めた経緯を述べた文章を、改めて抄述したものか。左端に枚数表示あるが、1～11・16・17があり12～15が欠。	249
4 17	〔即位式宣命に関する文書断簡〕	—	—	—	—	1枚	墨書/青色野紙	「週刊朝日」昭和21年7月28日号の表紙厚紙に両面貼り付け(内容は明治期)。表裏は同一内容と思われるが内容連続せず。	219
4 18	寛政造内裡 紫清両殿図	—	—	—	—	1枚	墨書・淡彩色/和紙貼り合せ	縦101.3×横80.6 (cm)。京都御所の図面。	569
4 19	大嘗宮之図	—	—	—	—	1枚	墨画・淡彩	縦52.5×横75.2 (cm)。封筒入り。「福羽」丸印あり。明治期の起こし絵図面(各建物を起こすと立体図面になる、付箋で名称・大きさ・素材などを記す)。	635
4 20	〔平安宮大内裏図〕	—	—	—	—	1枚	印刷カ	縦39.0×横27.1 (cm)。	636
4 21	〔皇室世数表〕	—	—	—	—	1冊(4枚)	墨書・朱書/冊	「自神武至今上世数六十八」「自神武皇統百二十一代」。紙縫り綴。第121代天皇は孝明天皇。	144
4 22	〔歴代天皇書上〕	—	—	—	—	1枚	墨書/黒色升目用紙	—	149
4 23	御代継々之次第	—	—	—	—	1枚	墨書/黒色野紙	「天之御中主神」ほか日本神話の神々を書き上げ分類したメモ。4-24に続くか。	228
4 24	〔神代から今上に至る天皇の書き上げ〕	—	—	—	—	9枚	墨書/黒色野紙	4-23の続きか。	227
4 25	福羽神祇少副家塾 教則	—	—	—	—	9枚	墨書/黒色野紙	冒頭:「人のこゝろと云ものは靈妙不思議なるものにて」。	240

4-3. 侍講・宮内省御用掛・文学御用掛 (11点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 26	避暑辞〔明治6年8月3日から天皇皇后宮ノ下行幸供奉の記録〕	〔明治6年8月〕	1873	〔福羽美静〕	—	1冊(3丁)	墨書/冊(青色野紙、水色紐綴じ)	冒頭:「わか天皇足柄縣相模国函山領なる宮の下温泉に皇后宮もろとも行幸ましましけり この時題を出して供奉の官人また其地方の輩の詩歌をめて御覧あらんとす 美静從事して行宮に候し詠する所を奉りぬ」。 「明治天皇紀」明治6年8月6日条に「又供奉官・足柄縣官等に「避暑」・「夕立」の二題を賜ひ、十日を期して詩歌を詠進せしめらる」とあり。	684

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 27	〔延遠館における天皇への上奏文〕	明治9年5月22日 延遠館において奏す	1876	福羽美静 (議官兼二等侍講)	—	3枚	墨書/黒色罫紙	「陛下。元老院にみゆきし議を視たまひ。かへるさ此延遠館において。議長有栖川熾仁親王の鑿をうけたまひ。臣等と席を同しうし給へり」。虫損あり。	72
4 28	〔和歌〕 新年同詠松不改色歌	〔明治10年〕	1877	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	分類:「詠草類 保存モノ」。 和歌1首。新年歌御会始の詠進歌草稿。題「松不改色」は明治10年の新年歌御会始勅題。	587
4 29	飯豊天皇ノ件	〔明治14～15年〕	1881	—	—	1冊(21丁)	墨書/冊	内容①「飯豊天皇ノ御事或ハ位ニ即キタマヒシトシ或ハ然ラストシテ一定ノ説無シ今諸書ノ説ヲ挙ルヲ左ノ如シ」(明治14年12月9日太政官へ出ス宮内省)。内容②「別紙宮内省上申飯豊青尊ヲ御代数ニ立ルノ議御下問ニ付古事記日本書紀ノ要ヲ摘録シテ意見ヲ左ニ陳ス」(修史館、明治15年1月10日)。内容③「飯豊天皇ノ御事客年上申スル所アリ然ルニ今修史館ニテ其説ノ当ラサル申ラ述ヘラレタリ因テ之カ答辞ヲナスヲ左ノ如シ」(宮内省答辞)。	74
4 30	〔飯豊青尊御代数ニ立ルノ議ほか綴〕	〔明治15～16年〕	1882	—	—	1綴(計44枚・挟込1枚)	墨書/綴(褐色版心「宮内省」罫紙ほか)	綴①「飯豊青尊御代数ニ立ルノ議」(「別紙宮内省上申飯豊青尊ヲ御代数ニ立ルノ議御下問ニ付古事記日本書紀ノ要ヲ摘録シテ意見ヲ左ニ陳ス」ほか修史館の報告書)。綴②「宮内省上申彦五瀬命日本武尊外五方並典仁親王御追尊ノ議館員審議ヲ遂ケ別紙ノ通及上陳」(修史館監事長松幹→内閣書記官、明治16年7月28日、矢野玄道の宮内卿宛て意見書など添付)、挟み込み1点「飯豊天皇を御代数に入奉る古書左之通」。	74
4 31	〔歌集〕 明治十六年御歌会始	明治16年	1883	—	—	1冊(5丁)	墨書/冊(褐色罫紙・版心「宮内省」)	明治16年の御歌会始における各人の歌を記したものの。勅題は「四海清」。福羽美静は点者を務めている。	683
4 32	〔詠歌集〕 十七年御歌会始	〔明治17年〕	1884	—	—	1冊(4枚)	墨書/冊(版心「宮内省」茶色罫紙)	勅題「晴天鶴」。歌の書き上げ。4枚目は「全日預撰歌」。紙縫り綴。	157
4 33	菟道皇太子御祭祀有之度義ニ付建言	明治17年11月	1884	磯田正敬(熊本県下肥後国八代郡八代町四十二番地土族、当時東京府下麻布区麻布六本木町二十番地寄留)	宮内卿伊藤博文	1冊(4丁)	墨書/冊(青色罫紙)	「仰願クハ速ニ 菟道皇太子ノ御陵墓若クハ御旧跡ニ就キ相当ノ御祭祀アラセラレ」たいとの建言。写シカ。	97
4 34	〔宮内省出張依頼: 明十八日午前十時令扶之内一名当省へ出張候様〕	—	—	書記官〔宮内省〕	〔正四位高野保建ほか計28名〕	2枚	墨書/青色罫紙(版心「宮内省」)	宮内省起案書。	71
4 35	〔御製ほか和歌書上〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「宮内省」茶色罫紙	御製・皇后宮・静寛院宮・轅仁親王・晃親王の和歌各1首の書き上げ。	50
4 36	叙位例内規	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「宮内省」茶色罫紙	版心「宮内省」茶色罫紙を4枚貼り合せ。1枚目冒頭欄外に「福羽」とあり。	362

4-4. 元老院議官・参事院議官 (40点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 37	〔明治九年頃道路制度についての草稿断片〕	〔明治9年〕	1876	—	—	1枚	墨書/版心「宮内省」茶色罫紙	分類:「詠稿類 三」。 朱書添削多数あり。	608
4 38	建議舛稿	明治10年3月28日	1877	筒井明俊(山形県一等属)	大久保利通(内務卿)	1冊(25丁)	墨書/冊(青色罫紙)	地方の実際に基づく建議5件。①判任地方官の待遇、②区長・戸長の選任方法、③民費節減、④区画改正、⑤諸規則案文(属官登用例、区戸長以下登用例、考課例、退隠例、惣代人選挙規則、惣代人会議規則)。	451

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 39	明治十年職員録〔官員名鑑〕	明治十年十一月十六日 御届	1877	編輯兼出版人 神崎正誼/出版人 山口安兵衛/発行人 北島茂兵衛	—	1冊(引目8丁+本文208丁)	印刷(木版、四周単辺無界)/刊本(袖珍本)	8.3×19.0×3.3 (cm)。明治十年1月官等改正後の官員名鑑。資料名は自作の表紙より。	685
4 40	〔犬追物陪覽御沙汰書の写し〕	明治十二年十一月二十五日	1879	徳大寺宮内卿	福羽議官	1枚	墨書/褐色野紙(版心「宮内省」)	「来廿七日午前八時三十分御出門吹上御苑へ行幸」。題「犬追物」の歌の書付あり。年月日は内容年代。	47
4 41 1	〔府県別の官林・民林箇所反別表〕	〔明治十四年〕	1881	—	—	1冊(12丁)	墨書/冊(版心「太政官」朱色野紙)	官林：明治十四年十二月三十一日調・総計82,896箇所(未詳3,049箇所)・5,363,552町4反。民林：明治十四年下半期調・総計6,539,736箇所・6,607,443町1反。	83
4 41 2	日本全国面積表	—	—	—	—	1冊(4丁)	墨書/冊(版心「内務省」茶色野紙)	旧国ごとの反別表。合計：86ヶ国・3856万3718町9反7畝18歩。「凡例 此表ハ伊能勘解由ノ実測図ニヨリ調査シタル面積方里ヲ以テ算出シタル反別ナリ」とあり。	83
4 41 3	全国反別方里概数表	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「内務省」茶色野紙	地目(田・畑・宅地・山林・原野・雑種地)の官有・民有ごとに反別と方里を記した表。	83
4 42	審理内規 附明治十四年第九拾壹号官達	〔明治十四年〕	1881	—	—	2枚	墨書/版心「太政官」青色野紙	参事院における、府県から差し出された裁定を請う具状書の審理方法についての内規。明治十四年第九十一号官達は、参事院設置・審理局廃止による審理機関変更についての達。野紙2枚を貼り合せ。表紙に「福羽所用」とあり。	282 218
4 43	官員年表例言〔草稿〕	〔明治十四～十八年頃カ〕	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/茶色野紙	冒頭：「該表ハ初メ維新以降本年ニ至ルマテ各年官吏ノ全数ヲ掲出シ以テ實際ノ増減ヲ比較セントス」。文中に「統計院」とあることから、明治十四～十八年頃作成か。	255
4 44	〔御有地設置に関する意見書写し〕	明治十五年九月	1882	大森鐘一	—	3枚	墨書/青色野紙	後の御料地(皇室財産)に関する内容。	160
4 45	〔参事院の森林法取調掛ほかの名簿断簡〕	〔明治十五～十六年〕	—	—	—	1枚	墨書/版心「参事院」朱色野紙	野紙2枚を貼り合せ。森林法取調掛の議官・議官補の名前一覧(「十五年七月一日何済」、議官は山尾庸三・福羽美静・蜂須賀茂韶、後欠)と、「十六年五月八日報告書」の調査委員の名前一覧(議官は山尾庸三・福羽美静・安場保和・尾崎三良、後欠)。	283
4 46	〔帝室山林大奉行所関係書類〕	—	—	—	—	10枚	墨書/版心「農商務省」朱色野紙	いずれも野紙2枚を貼り合せ。うち1枚は版心「太政官」野紙。冒頭に目次があり、帝室山林に関する23の条例・事務章程・規則・心得などが挙げられているが、その内容が全てある訳ではない。断簡か。	275
4 47	〔土地関係書類の断簡〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「太政官」朱色野紙	野紙2枚を貼り合せ。官有地の細区分ごとの反別を書き上げ。	279
4 48	〔英国の帝室直轄の領属地に関する著作抜粋翻訳文〕	—	—	—	—	1冊(4枚)	墨書/冊(版心「参事院」茶色野紙)	内容①「[コトン]」氏著英国領属地略論。内容②「[エモス]」氏著英国憲法	54
4 49	〔書類断簡〕	—	—	—	—	4枚	墨書/状	反故となった書類断簡か。いずれも野紙2枚を貼り合せ。版心「参事院」野紙に「皇有地御有地の名称について」等を記したもの、版心「陸軍省」野紙で「封爵」に関する漢文、等あり。	280
4 50	内閣ニ属スル顧問局ヲ置キ国体ニ関スル事件ヲ調査アルヘキノ議	明治十六年1月	1883	福羽美静(参事院議官)	三条実美(太政大臣)	1冊(4丁)	墨書/冊(版心「太政官」茶色野紙)	「内閣顧問局ヲ置キ数輩ノ学者ヲ選召シ我国体ニ関シテ新施或ハ古復スヘキ須要ノ諸件ヲ調査セシメラレンヲ望ム」。	62

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 51	— 京都禁関御保護建議〔正本〕	明治16年1月	1883	岩倉具視	内閣御中	10枚	墨書/状	平安京保存についての意見書。「三大礼執行ノ事」「桓武帝神靈奉祀ノ事」「伊勢神宮并神武帝遥拝所ノ事」「賀茂祭旧儀再興ノ事」「石清水祭(現今ノ男山祭)旧儀再興ノ事」「白馬節会再興ノ事」「大祓ノ事」「三大節拝賀ノ事」「宮闕ノ近傍ニ洋風ノ一館ヲ築造スル事」「宝庫築造ノ事」「宮殿并御苑ニ関スル事」「二条城ヲ宮内省ノ所管ト為ス事」「留守司ヲ置ク事」「社寺分局ヲ置ク事」の条目あり。452が草稿または写し。	243
4 52	— 京都禁関御保護建議〔草稿または写し〕	明治16年1月	1883	岩倉具視	内閣御中	1冊(10丁)	墨書/青色罫紙	451が正本。	478
4 53	1 診断書 福羽美静(倭麻質斯神経性頭痛)	明治17年2月19日	1884	伊東方成〔麴町区永田町一丁目十七番地〕	〔福羽美静〕	1綴(1枚)	墨書/青色罫紙	453-1・2は一綴り(各1枚)。倭麻質斯(リュウマチス)。	153
4 53	2 療用引入届書〔診断書之通り引入療養御届〕	明治17年2月19日	1884	参事院議官福羽美静	参事院御中	1綴(1枚)	墨書/青色罫紙	453-1・2は一綴り(各1枚)。	153
4 54	— 〔案内状〕 皇帝皇后両陛下下来ル廿五日午後二時浜離宮御苑ニ於テ観覧会催ニ付延遼館ヨリ参入可有之旨被仰出候	明治17年4月25日	1884	宮内卿伊藤博文	参事院議官福羽美静殿	1通・1枚	印刷(活字)・墨書/菊御紋付き桜模様囲みカード	封筒とも(表に「参事院議官福羽美静殿」)。フロックコート着用。紙片「当日雨天ニ候ハ、翌廿六日御催同日雨天ナレハ之ヲ止ム」あり。	84
4 55	— 士族取扱方意見書〔草稿〕	明治17年6月	1884	福羽美静(参事院議官)	—	1冊(8丁)	墨書/冊	朱書訂正あり。表紙左上に墨書「第二タネ本 此分扣也」あり。456が正本。457が写し。	484
4 56	— 士族取扱方意見書〔正本〕	明治17年7月	1884	福羽美静(参事院議官)	三條実美(太政大臣)	10枚	墨書/状	「士族取扱ノ方法ヲ設ケ、此ノ如キノ弊勢ヲ挽回セン」ト、実ニ目下ノ要務ト為スヘシ、其方法タルニシテ足ラサル可シト雖モ其要領ノ順序ハ先ツ全国ノ士族ヲ挙ケテ宮内省ノ直轄トナシ省中ニ士族局ヲ置キ凡テ華族ニ準シテ至当ノ取扱ヲ為スニ在リ」。455が草稿。457が写し。	245
4 57	— 士族取扱意見書〔写し〕	—	—	—	—	5枚	墨書/版心「参事院」赤色罫紙	後欠。朱訓点あり。演説原稿か。455が草稿。456が正本。	207
4 58	— 〔皇朝兵制に関する意見書〕	—	—	—	—	1冊(4丁)	墨書/版心「太政官」朱色罫紙	徴兵制等に関する意見書。著者不明。内容:「而シテ士ハ猶族称ヲ存シ未タ全ク尚武ノ風ヲ失ハス今ニシテ再ヒ常職ヲ与ヘ専ラ節義ヲ以テ之ヲ磨励セハ〔中略〕彼ノ三民ノ氣概ナキ者ニ比セハ其兵力相倍蕪スルヤ疑ヲ容レズ」	76
4 59	— 湯治御暇願〔持病相発、熱海温泉へ入浴療養二週間御暇〕	明治18年3月16日	1885	参事院議官福羽美静	太政大臣公爵三條実美殿	1通	墨書/状	朱印「内閣書記官局 批第三二号」あり。折り返しの小口側端に朱書「甲四一」あり。奥書として朱書「願ノ趣聞届候事 三月十七日」・朱印「太政大臣三條実美」あり。	737
4 60	— 出発御届〔熱海温泉へ浴養御暇願済、本日出発〕	明治18年3月17日	1885	参事院議官福羽美静	太政大臣公爵三條実美殿	1枚	墨書/状	右上に朱書「控」あり。	60
4 61	— 復命書〔写し〕	明治18年5月	1885	落合济三(参事院議官補兼参事院書記官)	福岡孝弟(参事院議長子爵)	1冊(14丁)	墨書/冊(版心「参事院」朱色罫紙)	冒頭:「今回大坂京都二府和歌山滋賀福井愛知四県巡回ノ命ヲ奉シ各地ノ景況左ニ上陳ス」。	112
4 62	— 陸軍省伺砲台城堡地買上方ノ件ニ付愚見	明治18年4月	1885	白倉通倫(書記生)	福羽議官・安場議官	1冊(3丁)	墨書/版心「太政官」朱色罫紙	「按スルニ陸軍省ノ請ノ如ク公用土地買上規則ニ砲台城堡ノ地ニ限り券面地価ニテ買上クルト云フノ明文ヲ掲ケサルモ其主旨ヲ採用シ単行布告ヲ以テ此旨ヲ発令セラル、ニ及ハ、該省ノ請求ヲ全フシ該規則ノ全体ニモ関セス又タ他ノ官用地ニモ影響ヲ及ボサスシテ頗ル穩當ノ結了ヲ見ルニ至ルヘシ」。	277

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 63	日本礼式ハ立礼ヲ用キ座礼ヲ廃スル案	明治18年6月15日	1885	大島圭介 述	—	1冊(8頁)	印刷(活字)/冊	「坐礼因襲ノ罪ニシテ人工ヲ以テ天然ノ容姿ヲ毀傷セシモノナリ(中略)希ハクハ公私共ニ立礼ヲ根本ト為シ速ニ坐礼ノ弊習ヲ廢シ一般國人ノ体勢ノ改良ヲ謀リ以テ後日ノ病根ヲ断ムコトヲ(中略)更ニ富国強兵ノ大計ニ関ス。『東京学士会院雑誌』7編ノ3(1885年8月)・『大日本私立衛生会雑誌』29号(同年10月)に掲載あり。	448
4 64	〔舍人親王千百五十年を祀る文〕	明治18年12月13日	1885	福羽美静(参事院議官正四位勲二等)	—	1通	墨書/巻紙	封筒入り。	573
4 65	官報 第六千六百拾七号	明治21年11月17日	1888	内閣官報局	—	1冊(12頁)	印刷(活字)/冊(折綴じ)	勲章佩用式(勅令第76号)ほか掲載あり。	104
4 66	〔官報号外綴:大日本帝国憲法・皇室典範ほか〕	明治22年2月11日	1889	内閣官報局	—	1綴(3冊)	印刷(活字)/綴		509
4 67	親属図解・姻属図解・傍系親図解	〔明治23年6月〕	1890	—	—	1冊(3枚)	墨書/冊	親族続柄の図解。1枚目右上に墨書「廿三年六月民法調用」・朱印「福羽」あり。	558
4 68	〔元老院「日本国憲按」の条文資料断簡〕	—	—	—	—	7枚	墨書/版心「元老院」罫紙	「日本国憲按」の条文案と対応する欧米各国の参照法令条項を記す。いずれも罫紙2枚を貼り合せ。内容は、「第一篇」の「第一章 皇帝」(全11条)・「第二帝(マ) 帝位継承」(全6条)・「第三章 皇帝未成年及其摂政」(第1~7条の途中まで)、平等権の条項(第2~4条、篇・章は不明)、「第二章 元老院及ヒ其権利」の前後(篇は不明)、「第四篇」の「第一章 立法権」の前後があり、他に「日本国憲按」(上段)と「国憲」(下段)の対照表も1枚あり(後欠)。	273
4 69	〔元老院「日本国憲按」の条文資料断簡〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「元老院」罫紙	罫紙2枚を貼り合せ。4-68と同様の文書で、内容は、出版・信仰・集会・結社に関するもの(第13~16条、篇・章は不明)。	350
4 70	書目〔元老院「日本国憲按」の典拠書目〕	—	—	—	—	10枚	墨書/版心「元老院」罫紙	「王位相続」「国王ノ歳入」「国王ノ太保」「摂政ノ職」「国王即位ノ礼」「王権」「参議院及各省」についての、欧米各国の参照法令条項を記す。	274
4 71	建議案 開拓ノ事業速ニ実効ヲ望ムノ議	—	—	—	—	8枚	墨書/版心「参事院」朱色罫紙	朱訓点あり。北海道開拓の促進に関する建議。	264
4 72	〔佐藤弘毅履歴書〕	—	—	—	—	2枚	墨書/状	紙2枚を貼り合せ。埼玉県士族で嘉永4年7月13日生の佐藤弘毅の履歴書。内容年代は明治6~16年。明治15年2月4日に任参事院書記生。	188
4 73	〔「吉凶贈答申合條款」・「吉凶ノ贈答意見」ほか書類断簡〕	—	—	—	—	5枚	墨書/版心「参事院」朱色罫紙ほか	いずれも罫紙2枚を貼り合せ。	270
4 74	〔「代言人ノ業ニ区町村費ヲ賦課シタル件ニ付司法部ノ問ニ答フル意見」ほか書類断簡〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「参事院」朱色罫紙ほか	罫紙4枚を貼り合せ(うち2枚が版心「参事院」、1枚が版心「太政官」、1枚が版心「文部省」)。	267
4 75	〔統治政体に関する書類断簡〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「参事院」褐色罫紙	罫紙2枚を貼り合せ。前後欠。	216
4 76	〔民法・商法等に関する用語の書上〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「元老院」罫紙	罫紙4枚を貼り合せ。何らかの文書の目録か。	344

4-5. 東京女子師範学校摂理(12点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 77	小学唱歌集 第二編	明治16年6月刊行 〔明治16年3月28日出版届〕	1883	文部省音楽取調掛編纂/文部省蔵版々権所有	—	1冊(目次+17丁)	印刷(木版、四周短辺無界)/刊本(和装本)	表紙に墨書「第七十三号」あり。目次冒頭に朱印「東京女子師範学校図書館印」あり。	483

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
4 78	明治十七年四月三十日現員調〔東京女子師範学校〕	明治17年4月30日	1884	—	—	1冊(7丁)	墨書・朱書／札(版心「東京女子師範学校」青色罫紙)	御用掛：校務嘱託 福羽美静、長：那珂通世、ほか教諭・御用掛・助教諭・女児小学校訓導・書記・雇員の氏名・俸給・職名(担当教科等)の一覧。	142
4 79	〔東京女子師範学校付属幼稚園改築願〕	明治17年10月	1884	那珂通世(東京女子師範学校校長)	大木喬任(文部卿)	1綴(計4枚)	墨書／綴(版心「東京女子師範学校」赤色罫紙ほか)	添付①「幼稚園改築其他費用概算」(計金2万4千6百円)。添付②校地図面。添付③校舎内図面。	44
4 80	星野泰俊翁伝	明治27年3月	1894	鶯花園のあるじ 福羽美静	—	2枚	墨書／朱色原稿用紙	本文によると、星野泰俊は、明治13～19年に東京女子師範学校の教員で、明治22年8月15日歿。末尾：「予交はること多年なりしよしみによりその門生諸氏のもとめに応じこゝにその伝をしるす」。	239
4 81	女子修身〔講話原稿〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1冊(4丁・挟込1枚)	墨書／冊(青色罫紙)	括り紐あり。冒頭：「今日は女子の修身に関する談話約束しました」。	55
4 82	高蹊女子家訓〔書写〕	—	—	〔福羽美静筆写〕	—	1冊(9丁)	墨書／冊(青色罫紙)	冒頭欄外右上に朱書「写」あり。書写元の文書は、年代：「寛政第四壬子仲秋日」、作成：「六十翁 岡田子高蹊」、受取：「於石殿」「於政殿。冒頭：「よめ入することを帰るといふは夫の家をわがいへとしてわが生まれたる家はまことのいへにあらずといふこゝろなり」。伴高蹊(1733～1806)は、江戸後期・京都の歌人・国学者。483の文中で引用。	204
4 83	女子修身大意〔演述草稿〕	—	—	福羽美静演述	—	1冊(4丁)	墨書・朱書／冊(青色罫紙)	朱書修正多数あり。文中で「高蹊女子家訓」(482が書写)を引用。資料名と作成者は冒頭欄外より。冒頭：「女子修身は節操を第一とす然れともその節操を磨かんとするは平日の業状にあり」。	205
4 84	修身 女子修身大意	—	—	子爵福羽美静講述	—	1冊(2丁)	墨書／冊(青色罫紙)	朱書訂正数か所あり。冒頭：「女子修身の事は追々演説をり 尚ほ人たるもの今日心得居て男子女子に限らず修身の要用たる」。	213
4 85	〔教育修身に関する私見13ヶ条〕	—	—	〔福羽美静カ〕	—	1冊(7丁)	墨書／半紙	—	51
4 86	〔女徳順序に関する覚書〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書／状	「先入之注意」「言語動作」「小大勤勉」「家事整理」「力ある和合」の5項目が記される。	37
4 87	〔幼稚園用机・腰掛仕様図表〕	—	—	—	—	1綴(計4枚)	墨書／綴	机・腰掛の寸法表1枚・机仕様図面2枚・腰掛仕様図面1枚。	445
4 88	〔校舎図面(部分)〕	—	—	—	—	1枚	墨書・朱書ほか／状	墨書「本校講堂」・朱書「遊嬉室」・黄色書「化学教場」「化学実験室」あり。	151

4-6. 内国絵画共進会出品審査御用掛 (2点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
4 89	内国絵画共進会褒賞授与式順序	明治15年11月13日	1882	—	—	1冊(3枚)	墨書／冊(版心「農商務省」茶色罫紙)	座席表図面の添付あり。	53
4 90	〔「新撰画鑑」序文〕	明治17年3月	1884	参事院議官従四位勲二等福羽美静しるす	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)／状	分類：「家に保存するもの」。「新撰画鑑」は美術雑誌で、初巻一は1884年4月に農商務省博覧会掛蔵版、精版会社印刷。	399

4-7. 宮内省編纂局編集委員長 (32点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
4 91	建議写 国体及政体取調ノ事	明治16年2月	1883	岩倉具視	三条太政大臣・有栖川左大臣・井上参議	7枚	墨書／状	1枚目右上に朱書「二月十三日内写 美静」あり。末尾：「自今英仏其他何国ヲ問ハス総テ外人ヲ雇入ル、ニ当テハ必ス此例ヲ用テ先ツ本邦ノ体ヲ知ラシメ然ル後ニ其職ニ従事セシムヘシ是レ亦旧ニ泥ミ新ニ癖スルノ弊ヲ除カント欲スルノ意ノミ冀クハ諒燭アランヲ」。	263

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 92	〔後亀山院天皇法要 関係一括〕	〔明治16年〕	1883	—	—	4枚+1冊	墨書・朱書/版心「宮内省」青色罫紙・版心「内務省」赤色罫紙・版心「式部寮」赤色罫紙・冊(版心「宮内省」茶色罫紙)	後亀山天皇の崩御日等についての調査記録。「後亀山天皇崩日質疑」(明治16年7月、塚本明毅→福羽議官)、満濟准后日記(応永31年)ほか。	303
4 93	〔大政紀要の各編目録および進捗表〕	〔明治16年12月〕	1883	—	—	1冊(14丁)	墨書・朱書/冊(版心「宮内省」褐色罫紙)	各編目録の下部に○または△の朱書あり。冒頭に「○符八十六年十二月納本済済(ママ) △符八同年十二月廿四日納本済」とあり。	58
4 94	進大政紀要表〔写しカ〕	〔明治16年12月〕	1883	〔福羽美静・西周〕	—	2枚	墨書/青色罫紙	漢文。1883年12月11日に明治天皇に提出された(『明治天皇紀』同日条)。	63
4 95	大政紀要稿本上進ニ付建議	〔明治17年カ〕	1884	〔福羽美静〕	—	1冊(5丁)	墨書/冊(版心「宮内省」褐色罫紙)	大政紀要の刊行・洋訳等を求める建議。朱書訓点および修正あり。	48
4 96	〔大政紀要の編纂氏名一覧〕	—	—	—	—	3枚	墨書/青色罫紙	総裁：岩倉具視、編修事務主幹編修委員長：福羽美静、編修委員長：西周、ほか編修委員・編修御用取扱の氏名一覧。	65
4 97	〔大政紀要原稿：上編 官職 鎌倉幕府〕	—	—	—	—	32枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第四回ニ当ル」あり。	29
4 98	〔大政紀要原稿：上編 官職一〕	—	—	—	—	25枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右端に朱書「局写ノ分」あり。	30
4 99	〔大政紀要原稿：上編 教育〕	—	—	—	—	14枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「不全」、左下に朱印「朝井」あり。後欠か。	26
4 100	〔大政紀要原稿：上編 総記五〕	—	—	—	—	32枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙ほか	1枚目右上に朱書「原」あり。朱書訂正・句点あり。	25
4 101	〔大政紀要原稿：上編 総記七〕	—	—	—	—	19枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「旧写第二 校合ノ上改ノ事」あり。	22
4 102	〔大政紀要原稿：上編 総記七〕	—	—	—	—	19枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「旧写 校合ノ上改ノ事」あり。	23
4 103	〔大政紀要原稿：上編 法令一 上古〕	—	—	—	—	9枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙ほか		21
4 104	〔大政紀要原稿：下編 法令三 監禁〕	—	—	乙部編纂委員村岡良弼稿	—	4枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回」、右端に朱書「局写ノ分」あり。	19
4 105	〔大政紀要原稿：下編 官職 地方行政〕	—	—	—	—	14枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回」あり。	11
4 106	〔大政紀要原稿：下編 官職 陸軍武官〕	—	—	—	—	9枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回写掛ケ」、右下に墨書「西村 紙数済」・朱印「朝井」あり。	31
4 107	〔大政紀要原稿：下編 官職五〕	—	—	—	—	11枚	墨書/版心「宮内省」褐色罫紙ほか	1枚目右上に朱書「二回写了 第三回ニ備フ」、右下に朱書「吉田」あり。	20
4 108	〔大政紀要原稿：下編 官職六 徳川幕府 職制一〕	—	—	—	—	4枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「不全」あり。後欠。朱書句点あり。	309
4 109	〔大政紀要原稿：下編 教育一 学政〕	—	—	—	—	34枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回」あり。	12
4 110	〔大政紀要原稿：下編 工業三 駅伝〕	—	—	—	—	12枚	墨書/版心「宮内省」褐色罫紙	朱書訂正・訓点あり。	14
4 111	〔大政紀要原稿：下編 工業四 郵便〕	—	—	—	—	26枚	墨書/版心「宮内省」褐色罫紙	1枚目右上に朱書「第二回写ナリ」、右下に朱書「門川」あり。	13
4 112	〔大政紀要原稿：下編 工業五 船舶〕	—	—	—	—	24枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回」あり。	28

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 113	— [大政紀要原稿：下編 財政 国債]	—	—	—	—	13枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回」・墨書「校合済」あり。	16
4 114	— [大政紀要原稿：下編 法令一 刑制]	—	—	—	—	42枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「第三回写掛」、右下に墨書「四十一枚」「二十時ノ半」・朱印「櫻井」あり。	15
4 115	— [大政紀要原稿：下編 総記六 後三条帝及白河帝ノ親政]	—	—	—	—	8枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「旧写」「校合ノ上改ノ事」、右下に墨書「検査済」・朱印「櫻井」あり。	17
4 116	— [大政紀要原稿：下編 総記六 後三条帝及白河帝ノ親政]	—	—	—	—	8枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「旧写第二 校合ノ上改ノ事」あり。	18
4 117	— [大政紀要原稿：下編 総記十四]	—	—	—	—	44枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に朱書「旧写」「校合ノ上改ノ事」「十四」あり。	24
4 118	— [大政紀要原稿：雑編 仏教三 仏教沿革]	—	—	—	—	52枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	1枚目右上に付箋で朱書「現六」あり。	27
4 119	— [大政紀要原稿：断簡]	—	—	—	—	2枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	江戸時代前期（慶長期）の儒学に関する内容。右下に頁数「2」・「3」あり。前後欠。4-120の前段か。	312
4 120	— [大政紀要原稿：断簡]	—	—	—	—	11枚	墨書/版心「大政紀要」青色罫紙	江戸時代前期（慶安～延宝期）の儒学に関する内容。右下に頁数「15」～「25」あり。前後欠。4-119の後段か。	311
4 121	— [大政紀要原稿カ：断簡]	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「宮内省」褐色罫紙	明治維新期の駅通に関する内容。朱書訂正多数。	316
4 122	— [修正箇所指摘意見]	—	—	—	—	2枚	墨書/版心「宮内省」褐色罫紙	「天智天皇ノ条」「孝謙天皇天平宝字元年ノ条」「元禄三年徳川氏昌平校ヲ建て諸藩往々学校ヲ設クルノ条」「天保九年水戸弘道館ヲ建ルノ条」についての指摘意見。	314

4-8. 貴族院議員 (6点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
4 123	— 建議	明治24年1月14日	1891	福羽美静（従三位子爵）	山縣有朋（内閣総理大臣伯爵）	5枚	墨書/状	植民省設置等の建議書。1枚目右上に「扣」とあり。中欠。4-124が草稿。	247
4 124	— 従三位子爵福羽美静氏より内閣へ出されし建議書の大意（草稿）	明治24年1月15日	1891	福羽美静（従三位子爵）	—	1冊(3枚)	墨書・朱書/冊	植民省設置・衆議院の会計予算改定・省局存廃官制改革に関する建議書の草稿。4-123が正本の一部。	572
4 125	— 自喜〔貴族院議員中の皇典学者につき書付〕	明治25年6月17日	1892	美静	—	1枚	墨書/状	分類：「家に保存するもの」。文中：「小中村〔清矩〕は考證学者なり 千家〔尊福〕は本居流より大國の流を汲し人なり 丸山〔作楽〕氏は専ら平田流なり」。	413
4 126	— 衆議院議員宿所姓名党別表〔毎日新聞附録 第7520号〕	明治29年1月8日	1896	〔毎日新聞社〕	—	1枚	印刷（活字）/状	分類：「福羽様」。裏面に「貴族院議員席次表」（73番に福羽美静）と「衆議院議員席次表」の図面あり。	439
4 127	— 第十回帝國議会 貴族院議員席次表	明治29年12月24日印刷	1896	株式会社 東京築地活版製造所石印	—	1枚	印刷（石版）/状	73番に福羽美静。	739
4 128	— 貴族院議員の氏名宿所表	—	—	福羽〔美静〕	—	1冊(21丁)	墨書/冊（青色罫紙・袖珍本）	貴族院議員の住所・氏名の一覧表。福羽美静が貴族院議員であった1890～97年頃の作成か。	485

5. 詩歌 (190点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 1 1	[古歌色紙・古今和歌集詠人不知 940「あはれてふ…」]	—	—	[伝以心庵殿重雅親王]	—	1枚	墨書/金彩下絵色紙	本紙裏面に極札あり(表「以心庵殿重雅親王 あはれてふ 印」裏「色紙 戊子五 割印」)。はがし痕あり。5-1-1・2は包紙「寿」一括。	667
5 1 2	[古筆切・花/紅葉/述懐/蔵書/春二十首]	—	—	[伝久我殿廣通]	—	1枚	墨書/横切	極札あり(表「久我殿廣通公 花 照月も切印」裏「横切 辛巳十一 割印」)。5-1-1・2は包紙「寿」一括。	667
5 2 —	[新拾遺集切「秋山ハ…」]	—	—	[伝二条為右]	—	1枚	墨書/切紙	極札あり(表「二條家為右朝臣 秋山「(虫欠損)裏「切 壬午十(了意)」紙上書き「呈進 二条家為右朝臣之歌裂」。	668
5 3 —	万葉仮字遺	[安永5年丙申仲夏]	1776	京師 出雲寺文治郎・山本平左衛門 粹/浪華 渋谷與左衛門 行	—	1冊	印刷(木版)/折本	分類:「福羽様」。 奥書冒頭:「是ハ日本紀万葉和名などの古書に拠て和歌にしたしき仮名をえり」。	437
5 4 —	福羽美静主のもの学ひに都にのほる家夫のはなむけしくによみておくる歌并かへしうた	[嘉永6癸丑2月1日]	1853	岩手盛雄〔福羽美静筆写カ〕	—	2枚	墨書/青色罫紙	一枚目の欄外右上に墨書「嘉永六癸丑二月一日也」とあり。冒頭:「はしけやし福羽の君い皇の神の御国の上つ代の書の学ひを真心にふかく志たひて鄙すかる宮子にのほり学ひすと春の三月の粹弓すゑ振おこし」。	654
5 5 —	[歌集] 遷幸ををがみてよめる歌	[安政2年]	1855	—	—	1冊	印刷(木版、毛筆体)/折本	「安政二年十一月二十三日 新造内裏へ 遷幸ならせたまひけるを見たてまつりてよめる歌」。野之口(大国) 隆正・福羽美静らの歌あり。	679
5 6 —	[高砂住之江の松を見ての長歌と反歌]	安政6年	1859	野々口隆正	—	2枚	墨書/冊	1紙に「木園」の朱文方印あり。	4
5 7 —	[野々口(大国) 隆正の和歌・漢詩等の記録]	—	—	[福羽美静]	—	1冊(10丁)	墨書/冊(青色罫紙)	「御医三角紀伊守主」、「詠嵐山櫻歌並短歌」、播磨国高砂神社についての長歌(安政6年)、「女誠」(文久2年11月)、ほか。	109
5 8 —	[平田篤胤の碑文草稿カ]	慶応2年5月22日	1866	[福羽美静]	—	1枚	墨書/状	分類:「詠稿類」。 冒頭和歌:「ひむかしの大樹のもとのかかたり四方の木学のことやめて、きけ」	615
5 9 —	[玉松真弘(操) 明治元年作の七言絶句二首]	[明治元年]	1868	—	—	1枚	墨書/切紙	分類:「詠草類 保存モノ」。	581
5 10 —	東京即事〔大國隆正漢詩〕	[明治3年]	1870	七十九翁隆正	—	1枚	印刷(木版)/状	右下に「福羽家蔵」とあり。大國隆正の79歳は明治3年。	152
5 11 —	[書付・和歌:慶應の末にわかちた蔵書千代のすみか再見の折に]	明治4年〔こは明治の四とせの度也〕	1871	[福羽美静]	—	1枚	墨書/状	「千世の住処」は津和野藩校養老館の国学教授・岡熊臣による著書で、学習院大学図書館福羽文庫にも所蔵あり。和歌:「いのちありてけふまたかれるをかしさに 君におくりし千代のすみかを」。末尾:「こは明治の四とせの度也 東京におりて」。	647
5 12 —	歌題歳時表 完	明治6年癸酉10月上梓	1873	登山学舎編輯/福羽家塾蔵版/売弘所金花堂佐助	—	2冊	印刷(木版)/折本	同一2冊。うち1冊には包紙とも(朱印「定価六匁」あり)。太陽暦の歳時十二ヶ月に旧暦の対月を記したもの。序文末尾:「歌会出題の便ならんことを要するものなり」。	568
5 13 —	明治六年十一月一日飯田年平本居豊頼等催主にて稲葉権大教正の邸に歌会をなし荷田東満加茂真淵本居宣長の三大人の祭筵に誦しける辞	[明治6年11月1日]	1873	福羽美静也	—	1冊(7丁)	墨書/冊(黒色罫紙)	冒頭:「懸巻もかしこきけふの神床にませまつりをきまへりていつきまつる荷田のうし岡部のうし本居のうしみたりのうしたちのみたまのまえの此つとひにかしこみまをさく」。	82
5 14 —	明治九年丙子略暦	明治9年	1876	美静	—	1枚	印刷(木版)/状	分類:「詠草類 保存モノ」。 「まなへ人 世の入学はよみかきと 心くはりのあやそ花なる」。葉状の画(彩色)あり。 8-2-3(明治七年太陽略暦・明治八年太陽略暦)と関連。	585

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 15	— 福羽別荘歌会集	明治9年5月14日	1876	—	—	1冊(5丁)	墨書/冊(黒色罫紙)	「兼題庭新樹」「通題新竹」「探題籬山吹」。参加者は毛利元徳・亀井茲監・近藤芳樹・井関美清・渡忠秋・松平忠敏・真鍋安信・福羽美静。	81
5 16	— [和歌] 西南にことありけり日東京にととまりあつて花の頃よみける歌/黒田参軍熊本城に入て谷少将と会しけるよしをきゝて	[明治10年]	1877	美静	—	1枚	墨書/状(折紙)	分類:「詠草類 保存モノ」。 和歌2首。西南戦争は1877年2～9月。	579
5 17	— 伊達自得翁を悼む文	明治10年5月	1877	議官兼二等侍講従四位福羽美静	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色罫紙)	文末の歌:「仰くかな 清し尊し夕日の岡 しける若葉にみたまかくして」。 伊達自得(千広、1802～1877)は歌人・国学者、旧和歌山藩士、陸奥宗光の実父。	40
5 18	— [福羽美静の和歌書上]	[明治10年6月ヵ]	1877	—	—	1冊(4丁)	墨書/冊(青色罫紙)	末尾に墨書「右ハ美静書上し歌を写さしめたり岡兄[内]筆者 十年六月」あり。	302
5 19	— [和歌詞書: 明治十四年九月廿三日三条公より頼撰虫之画さん 画は住吉廣賢也后宮献上之よし也]	明治14年9月23日	1881	美静	—	1枚	墨書/状	「きく人に押撰はれてむしもいま すむようれしとおもひしらん」。	648
5 20	— [東照宮広前法楽世吉連歌]	明治16年1月11日	1883	—	—	1枚	墨書/大奉書折紙	従三位徳川家達以下三家三卿親藩譜代当主など43名。	150
5 21	— [和歌] 小野湖山翁はいま恩賜の栄を得たり これ其すくれたる学意のほまれなるへしとおもへは	[明治16年ヵ]	1883	美静	—	1枚	墨書/状	左上に「扣」とあり。和歌1首。 小野湖山が明治16年に明治天皇より硯を下賜されたことを祝したもののか。	666
5 22	— 師のおもかけ [大國隆正の歌集草稿]	明治17年 [序文]	1884	美静	—	36枚	墨書/状(冒頭2枚以外は四周短辺の用紙)	表題横に墨書「順序を正しくして本出を必るべきものなり」あり。「春」「夏」「秋」「冬」「雑」「文」に分かれる。序文冒頭:「この一冊は美静わかゝりし折わか師隆正翁のもとにありし日 師の人々にかきて与へられしを其時々につしおきしをとりいて、佐伯利麿をしてうつさしめつものなり」。	163
5 23	— [東照宮広前法楽世吉連歌]	明治17年1月11日	1884	—	—	1枚	墨書/大奉書折紙	従三位徳川家達以下三家三卿親藩譜代当主など43名。	77
5 24	— 競馬場に御幸まし/ける日しるし侍ける文	明治17年11月1日	1884	美静	—	1冊(4丁)	墨書/冊(緑色紐綴じ)	紙に彩色あり。朱書訂正多数あり。文中の和歌:「志のはすの池の鏡にうつしつ光そふよの葉をみるかな」。 『明治天皇紀』明治17年11月1日条に「共同競馬会社、上野不忍池畔の競馬場竣成せしを以て、本日より三日間、開場式を兼ねて秋季競馬会を行ふ」とあり。	655
5 25	— [和歌] クールヘイ提督澎湖島の軍艦中にみまかれりときゝて	[明治18年]	1885	美静	—	1枚	墨書/状	フランス海軍のクールベ提督は1885年6月11日に歿。「ととろきし名はありながら鳥かけの 浪と消にし人そかなしき」。	658
5 26	— [和歌] 華族女学校の開校式にのそみて	[明治18年11月13日]	1885	美静	—	1枚	墨書/状	「世をまもるますらたけをの母刀自も この御館よりいてやそふらん」。華族女学校開校式は1885年11月13日挙行。	657
5 27	— [和歌] 十八年十二月十九日のよ はつ雪ふりければ 其晩雪をみて	明治18年12月19日	1885	美静	—	1枚	墨書/状	「ねすてみし秋の月にもまさるかな 白妙てらす雪の曙」。	664
5 28	— [手記: 明治二十年八月三日の納涼の集会につき]	明治20年8月	1887	硯堂老樵 [朱印「菘華園」]	—	1通	墨書/巻紙		670
5 29	— [和歌] 雪埋松	[明治21年]	1888	美静上	—	1枚	墨書/状(一紙)	分類:「詠草類 保存モノ」。 和歌1首。題「雪埋松」は明治21年の新年歌御会始勅題。	595
5 30	— [長歌] 年中行事歌	明治21年紀元節	1888	福羽美静作	—	2枚	印刷(活字)/状	同一2枚。十二月の年中祭祀をうたったもの	466

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 31	〔和歌・書付：羽村堰・青梅を周遊して〕	明治21年9月6日 しるす	1888	美静	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭：「このほと東京玉川上水の水源なる羽村の堰を見にゆきて」。	672
5 32	〔和歌・書付〕 宮城御移転を祝しまをして	〔明治21年ヵ〕	1888	美静	—	1枚	墨書/巻紙（竹の墨画）	明治宮殿の落成（1888年10月）を祝したものか。文中：「本邦太古の制度は御一代毎に宮を所をかへて造らせたまへり」。	676
5 33	〔長歌〕東雄先生の三十年祭におもひさ、けたる歌	明治22年10月27日	1889	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書/状（一紙）	端裏に墨書「扣」あり。冒頭：「うたよめは人をみちひき ふみかけは人ををしへて」。「東雄先生」は佐久良東雄か。	682
5 34	〔和歌・書付〕 弾琴亭の斧はしめしたるとき	明治23年2月8日	1890	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/巻紙	「斧はしめそれたにうれし楽しくも ひきてくらさんやと、しおもへは」。	614
5 35	日本歴史歌 附録国体問答〔草稿〕	〔明治23年4月〕	1890	福羽美静作	—	1枚	墨書/状	台紙に原稿の紙を貼り付け。末尾の奥付情報は、明治23年4月出版、著者兼出版人は「東京府華族福羽美静」、発行人は空白。	743
5 36	〔長歌〕 帝国名誉録の序にとよめる長歌	〔明治23年〕	1890	福羽美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書/状	分類：「詠稿類」。 左上に墨書「扣」あり。訂正の書き込みあり。冒頭：「世の人のよき名をしるは よのなかによき事つくす」。『帝国名誉録』（帝国名誉会、1890年9月刊）に掲載。	612
5 37	福羽大人賀会実況	明治24年3月	1891	七十一齡 永富弘道 謹記	—	1枚	墨書/画仙紙	冒頭：「明治廿四年子爵福羽大翁還暦の寿辰に相当するを以て聊に其衷を表さばやと中井千尋氏の発議に由りて美濃郡内翁の眷顧を蒙りし有志輩即ち三月一日を以て歌会等高角山下山縣亭に開く」。	297
5 38	〔福羽美静還暦祝い関係書類・短冊等一括〕	〔明治24年3月18日〕	1891	—	〔福羽美静〕	1冊・38枚 ほか	墨書/切紙・短冊・封筒ほか	1891年3月18日歌会（会主：桑原秀久・山田正英）、兼題「福羽大人の還暦の御賀を祝し奉る」同当座通題「寄松祝」短冊を認めた詠進者の姓名録および詠進短冊ほか。姓名録に記載された祝賀和歌の詠進短冊ほかを一括。	1
5 39	〔美静還暦記念の扇面説明文〕	明治24年6月	1891	〔福羽美静〕	—	1枚	印刷（木版）/状	分類：「家に保存するもの」。 扇面の枠内に美静の肖像画と和歌あり（着色）。「予ことし還暦の齢なればとあひしれる人々より祝吟を贈らるるあり 甚これをよろこへり 此ほと嗣子福羽逸人あるして上野公園なる桜雲台に親戚故旧を招請し予か祝盃を挙げるに予吟して曰くとし毎に人の齢を祝ひ来てけふ祝はる身とはなりにき」。	421
5 40	〔故三条実美公の秀逸の一首を同好に願つ〕	明治24年6月4日	1891	旧友会の一員 福羽美静しるす	—	2枚	印刷（活字）/状	同一2枚。「明治廿三年五月廿八日旧友会のむしろにまかりて わするなよ国の為にはおのか身をありともしらてありしそのよを 実美」。福羽の歌「去年までは共にかたりし君を今ことしは神とまつるかなしさ」も記載あり。	464・758
5 41	賀〔還暦を賀す和歌〕	〔明治24年〕	1891	〔福羽〕 千代子上	—	1枚	墨書/状	美静の還暦か。	296
5 42	〔和歌短冊〕 福羽大人の還暦を祝ひ侍りて	〔明治24年〕	1891	奥井簡藏	〔福羽美静〕	1枚	墨書/紅地天地金短冊	包紙とも（墨書「祝詞 奥井寛藏」）。	465
5 43	〔和歌短冊綴り〕 羽大人の御還暦之御賀を祝ひ奉りて	明治24年	1891	〔和民（雲州日野清三郎）ほか計26名〕	—	1枚+1綴（25枚）	墨書/砂子金散し短冊	美静還暦を賀して呈上された短冊25葉一綴り。	183
5 44	〔和歌詠草〕 還暦御祝ニ被召て	〔明治24年ヵ〕	1891	—	—	1枚	墨書/切紙	「かきりなく君かよわひはいく千世と 一しほまさる鶴の一こゑ」。	146
5 45	〔通題「寄石祝」和歌、歌会詠進短冊〕	〔明治24年ヵ〕	1891	—	—	1綴（64枚）+2枚	墨書/1綴（短冊）・短冊	歌会の通題「寄石祝」を詠んだ、石見国美濃郡在住の人々の和歌短冊の綴り。短冊裏面に詠進者の居住地詠進者名あり。	185
5 46	〔和歌〕 福羽大人元々居に年を迎えて田舎よりうれしき云々の御詠に情を動かして	明治25年1月	1892	盛貞	—	1枚	墨書/梅花模様赤色8行野紙		669

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
5 47	〔長歌〕 徳育一調	明治25年9月	1892	硯堂福羽美静作	—	1枚	印刷（活字）／状	分類：「家に保存するもの」。 左下に「麴町拾丁目岡本活版所印刷」とあり。『少年園』96号（1892年10月）・『幼年雑誌』2巻21（1892年11月）に転載あり。	410
5 48	〔長歌〕 徳育一調	明治25年9月	1892	硯堂福羽美静作	—	36枚	印刷（活字）／状	5-47と同一36枚。	376・642
5 49	〔和歌〕 廿六年九月十日夜執筆	明治26年9月10日 夜執筆	1893	美静	—	1枚	墨書／状	「よにあらぬ身とはなるともきえはせし 君と国とをおもふまこゝろ」。	650
5 50	〔和歌〕 心をつねに帝室につくし業を国家にのほし……	明治26年の12月22日筆とりし	1893	美静老人	—	1枚	墨書／巻紙	分類：「詠稿類」。 「なる事もます／＼つよくなれる世を みるこそ人の楽しみとしれ」。	611
5 51	〔「文武高名録」和歌序の控え〕	〔明治26年〕	1893	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書／状（褐色無界の用紙・版心「文武高名録」「卷之」「英山蔵」）	分類：「詠稿類」。 左上に墨書「扣」あり。「よき名をもあとをも世々にのこせ人 身はかきりあるものとさとりて」。 新井朝定編輯『文武高名録』（1893年刊）に掲載。	617
5 52	千代子に愛菊といふ号を与ふることは	〔明治26年カ〕	1893	祖父六十三翁硯堂のあるし美静	—	1枚	墨書／褐色罫紙（特許罫紙商會発行）	分類：「詠稿類」。 千代は美静の孫・逸人の子（1876年5月生）。末尾の和歌：「菊のはなめて、かさして千代の名の 長きさかえを身に励みてよ」。	618
5 53	五十音頭字教訓歌	明治27年1月	1894	硯堂主人 福羽美静	—	1冊（6頁）	印刷（活字）／冊	分類：「家に保存するもの」。 裏表紙左下に「麴町十丁目岡本活版所印刷」とあり。裁断ミスあり。末頁：「この五十首のうたハ幼年の人にをしへおきてをり／＼頭字をもちて問試みをなし記憶をたしかめおき其とし長するに随ひ物毎に考へ合はせて其益徳を得せしめんとおもひてつくれることなり」。	427
5 54	五十音頭字教訓歌	明治27年1月	1894	硯堂主人 福羽美静	—	1冊（6頁）	印刷（活字）／冊	5-53と同一（裁断ミスなし）。	643
5 55	小かね井の花をみることは	明治27年の春	1894	鶯花園のあるし 美静拜	—	1枚	印刷（木版、毛筆体）／状	分類：「家に保存するもの」。 和歌部分：「うゑしその人のいさをもあらはしてます／＼句ふこかね井のはな これみてもよきわさを世にのこさんと 句ふ心もおこせ人々」。	414
5 56	〔和歌〕	明治27年5月17日	1894	〔朱印「福羽」〕	—	1枚	墨書／状	分類：「詠草類 保存モノ」。 「やめし事ふた、ひおこす道はなし 文通あるも無益なるらん」。	589
5 56	〔和歌〕 寄海祝	〔明治27年カ〕	1894	六十四翁 美静	—	1枚	墨書／状	分類：「詠草類 保存モノ」。 「かきりなきこのうなはらはは雄々しくも 世わたる人のかかみなるらん」。	589
5 56	〔和歌〕	—	—	〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書／状	分類：「詠草類 保存モノ」。 「人多く世話はしたれとなりた、ぬ人多ければこりてやめけり」。	589
5 57	〔長歌〕 原田の武勇	明治27年秋日	1894	正三位子爵 福羽美静	—	1枚	印刷（活字）／状（褐色）	分類：「家に保存するもの」。 冒頭部分：「平壤城の戦に 日本武人の働の すぐれしことは数多あり 中にも原田の重吉氏 殊にすぐれし其武勇」。 凱旋城土編『抜群勇士原田重吉』（求光閣、1894年）ほかに転載あり。原田重吉は陸軍軍人で、日清戦争中の平壤の戦いに於て、玄武門を先駆けて開門した功績で金鷄勳章をもらった。	411
5 58	〔長歌〕 原田の武勇	明治27年秋日	1894	正三位子爵 福羽美静	—	13枚	印刷（活字）／状（褐色）	5-57と同一13枚。	751

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 59	〔大國隆正著『古伝通解』一之巻の出版を喜ぶ〕	〔明治27年11月〕	1894	美静	—	1枚	墨書/巻紙	「その第一巻をいま明治廿七年十一月出版して世に出すことゝなり」。末尾に和歌1首あり(修正多数)。大國隆正著・福羽美静校『古伝通解』一之巻は1894年11月発行。	391
5 60	〔和歌〕皇軍連戦連勝すてに旅順口をも占領しけるよし謹而これを賀し奉る	明治27年11月25日奉呈	1894	正三位勲二等子爵福羽美静上	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 「よそまでもうちてをさめてみる俺は君と民との力なりけりうれしきは海ちくかちの軍人 国の光をよそにみせつ、」。	398
5 61	〔和歌〕皇軍連戦連勝すてに旅順口をも占領したるよし謹而これを賀し奉る	明治27年11月25日奉呈	1894	正三位勲二等子爵福羽美静上	—	5枚	印刷(木版、毛筆体)/状	5-60と同一5枚。	722
5 62	〔和歌〕明治二十七年十二月九日東京なる上野公園にて祝捷会の催しありける日そのあたりのにきはしさをみて	明治27年12月9日	1894	元々老人美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 「人のなみ人のやまみな声ありてよろつ代よはふけふのみやこ路」ほか2首。	404
5 63	〔和歌〕明治二十七年十二月九日東京なる上野公園にて祝捷会の催しありける日そのあたりのにきはしさをみて	明治27年12月9日	1894	元々老人美静	—	2枚	印刷(木版、毛筆体)/状	5-62と同一2枚。	720
5 64	〔和歌草稿〕去年今年の軍人中戦死者の霊を東京なる靖国神社に合祭し、いま十二月十五日より十八日にいたり大祭執行 行幸行啓の式式を行はせらるゝをかしこみし	〔明治28年12月15日より18日にいたり〕	1895	美静	—	1枚	墨書/巻紙	修正多数あり。「国のため身をつくしつるますらを、君かまつらすけふのたふとさ」ほか1首。	360
5 65	〔和歌草稿〕	〔明治28年〕	1895	〔福羽美静〕	—	7枚	墨書/状	「明治二十八年のとのし始めによみ侍ける」「竹の子を」「藤」ほか紙片7枚。	175
5 66	歌学入門	明治28年1月1日発行	1895	著者 故大國隆正/ 相続人発行者 大國照正/ 校者 福羽美静/ 印刷者 八尾新助	—	1冊(24頁)	印刷(活字)/刊本(紫色紐綴じ)	巻頭に福羽美静作図の歌会の席の絵あり。本文冒頭:「うたは心と詞と調とこの三あひてなるものなり」。	472
5 67	〔和歌〕山〔東〕角灯台をとり得しときの趣を	〔明治28年2月カ〕	1895	〔福羽美静〕	—	2枚	墨書/状	2枚は同内容だが異文。「とり得つるそのともし火のうてなよりしめすもうれしひの丸のはた」。	176b
5 68	〔『皇風集』序文の草稿〕	明治28年11月	1895	硯堂のあるし 福羽の美静	—	5冊	墨書/冊(3冊:赤色罫紙、1冊:青色罫紙、1冊:禁水紙)	諏訪忠元編『皇風集』(1896年2月刊)の序文。いずれも修正の書き込みない付箋あり。冒頭:「ある日諏訪忠元ぬしわか庵をとひてかたりけらくこの頃一の歌集をつくりて世にいたさんとすその序文一言かきてよと」。	46・298
5 69 1	菊の花ふさ〔明治28年11月17日に鶯花園(福羽邸)で催された小集の記録〕	〔明治28年11月17日〕	1895	鶯花園の主人 美静 するす	—	1冊(4丁)	墨書/冊(青色罫紙)	台湾より柯秋潔・朱俊英を加部巖夫が招く。末尾に朱書「此外詩歌又執筆アリ附録として辻子生輯集ス」あり。5-69-1~3は括り紐で一括。	113
5 69 2	菊の花ふさ附録	〔明治28年11月17日〕	1895	福羽門下辻子順三郎 輯	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色罫紙)	扇面などの詩歌を書き上げたもの。5-69-1~3は括り紐で一括。	113
5 69 3	台湾処分考	明治28年11月	1895	元々居老人美静 述	—	1冊(8丁)・1枚	墨書/冊(青色罫紙)	墨書「福羽先生の台湾論を乞てこゝに附す」とある紙片あり。5-69-1~3は括り紐で一括。	113
5 70	〔和歌〕扇草稿 君か代百首の中	〔明治28年カ〕	1895	元々居のあるし 六十五翁 美静	—	1枚	墨書/状	福羽美静の65歳は明治28年。「夕すゝみ すゝみなからも 君か代のみかけおもひてものかたれ人」ほか7首。	716
5 71	〔和歌〕明治二十九年のとのし始めに ことしは台湾島もわか国に入りてのはしめてのことなれば	明治29年	1896	美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状(赤色)	分類:「家に保存するもの」。 「ことしよりたかさこしまのしま人も こゑうちそへてけふ祝ふらん」。	408
5 72	〔和歌〕明治二十九年のとのし始めに ことしは台湾島もわか国に入りてのはしめてのことなれば	明治29年	1896	美静	—	3枚	印刷(木版、毛筆体)/状(赤色)	5-71と同一3枚。	651・724

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 73	〔長歌〕 花のいさめ	[明治29年4月12日]	1896	元々居老人	—	1枚	印刷(活字)/状(赤色)	分類:「家に保存するもの」。 左下に「麴町拾丁目岡本活版所印刷」とあり。冒頭:「明治の廿九年なる 四月のそれよ十二日 この東京をたちいて、花の小金井櫻狩り」。	403
5 74	〔長歌〕 花のいさめ	[明治29年4月12日]	1896	元々居老人	—	1枚	印刷(活字)/状(赤色)	5-73と同一。	644
5 75	〔長歌〕 花のいさめ	[明治29年4月12日]	1896	元々居老人	—	1冊(3丁)	墨書/冊(青色野紙)	5-73-74(活字印刷)と同文。	203
5 76	小金井花見の記	[明治29年4月12日]	1896	—	—	1冊(5丁)	墨書/青色片面11行野紙	冒頭:「明治廿九年四月十二日福羽大人にいざなはれて小金井の花みにゆき」。	202
5 77	〔和歌〕 人の世にあるもとより父母の恩ふかし その身人にしらるゝことなり なほ家声を興すことなとみなこれ父母の恩の至れるなり また老をやしなふ身となりて一年寿を長うすれば一年おやの恩を大にすることなり おのれこれをおもひていま一吟を得たり	明治30年8月24日	1897	六十八翁 美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 「父母の恵の数をなほまして ことしも祝ふ老のうまれ日」ほか2首。	396
5 78	〔和歌〕 人の世にあるもとより父母の恩ふかし その身人にしらるゝことなり なほ家声を興すことなとみなこれ父母の恩の至れるなり また老をやしなふ身となりて一年寿を長うすれば一年おやの恩を大にすることなり おのれこれをおもひていま一吟を得たり	明治30年8月24日	1897	六十八翁 美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	5-77と同一。	715
5 79	棟梁式の菊花をめて、	明治30年11月	1897	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 「力あるひとと菊のものに花 これもや人のをしへなるらん」。菊花の寸法および絵入り。	397
5 80	棟梁式の菊花をめて、	明治30年11月	1897	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	5-79と同一。	717
5 81	神宮御鎮座千九百年の御まつりに〔扇面和歌草稿〕	[明治30年]	1897	正三位勲二等子爵福羽美静	—	1枚	墨書/扇面	分類:「詠稿類」。 伊勢神宮の鎮座千九百年奉祝祭は明治30年3~5月に執行。「尊としや伊勢の神垣千とせ経て また千とせにもちかつきにけり」。	621
5 82	〔和歌〕 一本菊	明治31年11月	1898	元々老人六十八翁 美静拝	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 左下に朱丸印「福羽 読書堂」あり。「ひとともに、はな千花匂はせて さかり久しきみよの秋菊」。	401
5 83	唱歌〔心の花・人は智慧・天地の宝〕	明治31年	1898	硯堂福羽美静作	—	1枚	印刷(活字)/状	分類:「家に保存するもの」。 「心の花」「人は智慧」「天地の宝」の3首あり。	409
5 84	唱歌〔心の花・人は智慧・天地の宝〕	明治31年	1898	硯堂福羽美静作	—	3枚	印刷(活字)/状	5-83と同一3枚。	335・377・645
5 85	〔和歌〕 奠都三十年祝賀	[明治31年]	1898	美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体、朱色)/状	「のとかにも けふみそとせの春はきぬ ひらけそふ世の花のみやこち」。東京奠都三十年祭は明治31年4月10日に挙る。	88
5 86	〔和歌〕 奠都三十年祝賀	[明治31年]	1898	美静	—	4枚	印刷(木版、毛筆体、朱色)/状	5-85と同一4枚。	753
5 87	〔和歌〕 としのはしめに	[明治31年カ]	1898	美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状(水色、赤色野あり)	分類:「家に保存するもの」。 「去年ことしかはらぬふしのしら雪も けさはのとかにみえわたるかな」。	422
5 88	〔和歌〕 ある梅園にて	[明治31年カ]	1898	美静	—	4枚	印刷(木版、毛筆体、朱色)/状	同一4枚。「さきにけりこの梅園をみな訪れへといふかあらぬか鶯の声」。	652・719

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 89	— うぐひすをきゝて	[明治31年カ]	1898	六十七翁元々学人 美静しるす[印「美静」]	—	1枚	印刷(木版、毛筆 体)/状	分類:「家に保存するもの」。	400
5 90 0	[和歌・書付一括]	—	—	—	—	(計9枚)	—	分類:「詠稿類」。 5-90-1～9一括。すべて同形(14.0×10.5cm)9枚。	624
5 90 1	[和歌] 皇太子妃殿下に奉りける賀詠	—	—	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「鶴亀の千代よろつよをうたはれてのほる高き君 かめてたさ」。	624
5 90 2	[書付] 津田梅子の君 渡辺筆子の君に申 す	明治31年6月3日	1898	福羽美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	冒頭:「此度参列之事は国を願はすの道にしてす なはち君等の名誉なり」。アメリカで開催された 万国婦人倶楽部に日本代表として出席する津田梅 子と渡辺(石井)筆子を送る詞。	624
5 90 3	[和歌] 七十を賀して	[明治33年カ]	1900	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「わかこゆるむそちハ春の中はやま けふな、そち を祝ふめてたさ」。福羽美静の70歳は明治33年。	624
5 90 4	[和歌] 羽田野柴木園老人か世にありし ときの一冊を見て	—	—	美静	—	1枚	墨書/状(金砂子)	「わか国のみちふみのほるはしたてと 君かのこ し、ふみのめてたさ」。「羽田野柴木園老人」は国 学者の羽田野敬雄(1798～1882)か。	624
5 90 5	[和歌] 碁を囲みけるをり にはの蛙のな きけるを	—	—	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「かついしの春にあはせてなきにけり あめのこと しるにはの蛙も」。	624
5 90 6	[和歌] あしはやまひありけるとしの元 旦に	—	—	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「ゆくとしをおくりむかへてわかふる あしはや まひはしらす顔なる」。	624
5 90 7	[和歌] あめ晴ける元旦に	—	—	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「ふりしきるあめにとしをは送らせて むかふる空 のけふののとけき」。	624
5 90 8	[和歌]	—	—	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「あまつ日をあふきまつりてすへらわか てる日 の本の国のたふとき」。	624
5 90 9	[和歌] 近隣火事のをり	—	—	美静	—	1枚	墨書/小色紙(金 砂子)	「やけて来るとなりつゝきの火をわれに 入れしと 留めし防夫をたれ」。	624
5 91	— [長歌] 学生軍人唱歌 大帝国	明治32年1月印行	1899	福羽美静作/福羽読 書堂 [印刷カ]	—	1枚	印刷(活字)/状 (赤色)	分類:「家に保存するもの」。 冒頭:「日本帝国大帝国 神の御世より受継て 君 の位をそなへます」。	405
5 92	— [長歌] 学生軍人唱歌 大帝国	明治32年1月印行	1899	福羽美静作/福羽読 書堂 [印刷カ]	—	2枚	印刷(活字)/状 (赤色)	5-91と同一2枚。	638
5 93	— やまとの色	[明治32年8月]	1899	元々居老人 美静	—	1冊(7丁)	印刷(木版、毛筆 体)/冊(赤色野 あり、緑色紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。 冒頭:「やまのかしはらの神宮にゆかりある名 所とも十六景をよめるうたの名つけてやまとの色 といふ」。「附録 美静近詠 明治三十二年八月 執筆」あり。	425
5 94	— [唱歌] 学生軍人唱歌 大帝国	明治32年	1899	福羽美静作	—	1枚	墨書/青色野紙	冒頭:「日本帝国大帝国 神の御世より受継て」。	230
5 95	— [和歌] 大君にさ、けしいのちなからへ てけふ七十路をむかふうれしさ	[明治33年カ]	1900	[福羽美静]	—	1枚	墨書/青色小型野 紙	福羽美静の70歳は明治33年。「おやと師と友のめ くみを思ふかな 老をたのしむ今の我身は」。	341
5 96	— [和歌] 大御まここの君のうまれさせ たまひけるを賀し奉りてよめる	[明治34年カ]	1901	正三位勲二等子爵福 羽美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂 子)	「鶴も舞ひ亀もおとりて祝ふらん けふ御うまれの 君かめてたさ」。迪宮(昭和天皇)の誕生(1901 年4月29日)を祝ったものか。	665
5 97	— 近詠の二三	明治35年1月	1902	美静老人	—	1冊(4丁)	印刷(木版、毛筆 体)/冊(赤色野 あり、緑色紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。	406
5 98 0	[和歌色紙一括]	—	—	—	—	(計5枚)	—	分類:「詠稿類 三」。 5-98-1～5一括。	605
5 98 1	[和歌] 元旦あめはれたれば	—	—	美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂 子)	「ふりしきるあめにとしをはおくらせて むかふる はれのけふの、とけさ」。	605
5 98 2	[和歌] あめはれたるとしの元旦に	—	—	美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂 子)	「ふりしきるあめにとしをはおくらせて むかふる けさのそらの、とけさ」。	605

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 98 3	〔和歌〕 国教	—	—	美静〔朱印「七十六美静」〕	—	1枚	墨書/色紙(青雲打雲)	「日のもとのをしへは高し八百万 神てふかみのもとをつたえて」。	605
5 98 4	〔和歌〕 花籠の花を見て	—	—	美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂子)	「さま/＼の色をそなへしはなかこの〔は〕さかえゆく世のすかたなるらん」。	605
5 98 5	〔和歌〕 新年海	〔明治36年〕	1903	美静	—	1枚	墨書/色紙(赤地に金雲)	抹消線あり。「くるとしのけふのけふとて浦なみのしつけさまさることのうれしさ」。題「新年海」は明治36年の新年歌御会始勅題。	605
5 99 —	〔書付〕 看花一言	明治36年4月8日	1903	〔福羽美静〕	—	1冊(8丁)	墨書/冊(青色罫紙)	分類:「家に保存するもの」。 明治36年4月8日に東京市中の景況、上野・神田・九段坂などの花を車で見て周っての所感文。文中には上野の西郷隆盛像を見て、西郷や島津斉彬についての感慨あり。末尾に歌3首あり。	412
5 100 —	〔和歌〕 贈太政大臣岩倉公の二十年祭に	〔明治36年7月20日〕	1903	美静	—	1枚	墨書/色紙	岩倉公二十年祭は明治36年7月20日に挙行。「力ある御世にと君かいそしめしむかしをけふはおもひいてつゝ」。	337
5 101 —	〔書付・和歌: 出征中の孫真城よりの書簡を見て〕	明治37年12月	1904	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/青色罫紙	冒頭:「出征第一軍騎兵中尉にてわか孫なる真城より書簡を送りける」。和歌「それよろしそまたよしとはからずも輝しとてよむ老のをかしさ」。	442
5 102 —	〔和歌〕 明治三十八年一月 慶賀	明治38年1月	1905	七十五老人 美静	—	1枚	印刷(写真版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 日露戦争の旅順陥落を詠んだ歌。「海の外のたよりはそれとかち軍はなもことしはさきまざるらん」。『大八洲雑誌』223巻に転載あり。	407
5 103 —	〔和歌〕 明治三十八年一月 慶賀	明治38年1月	1905	七十五老人 美静	—	1枚	印刷(写真版)/状	5-102と同一。	637
5 104 —	〔長歌〕 日本歴史歌	明治39年	1906	福羽美静先生作	—	1冊(3丁)	墨書/青色小型罫紙	冒頭:「一天四海をしるしめす 日本帝位のそのはじめ 神武天皇日向より 西国中国うちなびけ」。	342
5 105 —	〔和歌〕 月前萩	〔明治39年カ〕	1906	美静〔朱印「七十六美静」〕	—	1枚	墨書/状	福羽美静の76歳は1906年。和歌1首。	357
5 106 1	〔和歌短冊〕 福羽老大人喜字の祝によみ奉つる	〔明治40年〕	1907	秋村	—	1枚	墨書/短冊(天藍地紫金砂子)	「石見のや高津の山の高、れとなほこそいのれ君がよはひを」。5-106-1・2は「祝詞」と表書きの包紙一括。	571
5 106 2	〔和歌色紙〕 七十七賀に	〔明治40年〕	1907	久子	—	1枚	墨書/色紙(絹目地金砂子散し)	「うらやすくちとせの坂もこえぬへしまれなるよはひとく過し君」。5-106-1・2は「祝詞」と表書きの包紙一括。	571
5 107 —	〔和歌〕 喜	〔明治40年カ〕	1907	美静〔朱印「喜美静」〕	—	12枚	印刷(毛筆体)/状	同一12枚。喜寿の歌か。「人もなす老の遊びの作り文字 御代をよるこふとしのはつ空」。	450・749
5 108 —	後楽園記	—	—	青山延光詩	—	1冊(6丁)	墨書/冊(半紙)	漢詩文。見出し「初冬遊後楽園十首」・「暮春遊後楽園二十首」・「仲冬與家君及栖川儒官牧園君遊後楽園因賦二十四韻」・「後樂園即事」・「後樂園雪中作」あり。朱書訓点・傍点あり。	85
5 109 —	〔和歌〕 独逸国か膠州湾をしめしより他の国々みな要求の心をあらはしたりおのれはかの威海衛などにある身にはあらねとおもふことありてよめる	—	—	元々主人	—	1枚	印刷(蒔菫版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 「ますらをかつげにしあとをみなふみて 来る人多くなるかうれしさ」ほか。	435
5 110 —	〔和歌〕 独逸国か膠州湾をしめしより他の国々みな要求の心をあらはしたりおのれはかの威海衛などにある身にはあらねとおもふことありてよめる	—	—	元々主人	—	1枚・2冊	印刷(蒔菫版、毛筆体)/状・冊	5-109と同一1枚、同文2冊。	718
5 111 —	詠人道歌并短歌	—	—	美静	—	1冊(2丁)	印刷(木版、毛筆体)/冊	分類:「家に保存するもの」。 冒頭:「尊きはひとにそ有けるうれしきは人にそ有ける」。	417

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 112	〔和歌〕秋祝	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「詠稿類 三」。 右下に朱丸印「福羽 読書堂」あり。「そめ出しもみちかもとの秋風にひくもうれしとよしの声」。	606
5 113	〔和歌〕秋祝	—	—	〔福羽美静〕	—	22枚	印刷(木版、毛筆体)/状	5-112と同一22枚。	349-723
5 114	〔和歌〕月見の夜くもりければ	—	—	美静	—	1枚	印刷(毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 右下に朱丸印「福羽 読書堂」あり。「ぬけて、みなのは今宵の月かけもくものあなたはさやけかるらん」。	416
5 115	〔和歌〕月見の夜くもりければ	—	—	美静	—	8枚	印刷(毛筆体)/状	5-114と同一8枚。	721
5 116	〔和歌〕花のうたよみける中	—	—	美静	—	1枚	印刷(毛筆体)/状	分類:「詠稿類 三」。 右下に朱丸印「福羽 読書堂」あり。「日のもとの春のほまれさくらはな おもへは雄々しきみれはのとけし」。	607
5 117	〔五大国学先覚者をたたえる和歌〕	—	—	美静謹詠	—	1枚	印刷(木版)/状	荷田東磨・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤・大國隆正の肖像画(着色)と彼らを称えた美静の和歌。国学の四大人に大國隆正を加えたもの。	371
5 118	〔福羽美静所蔵 西川吉輔和歌短冊写〕	—	—	—	—	13枚	印刷(木版)/状	同一13枚。注記「美静云 西川氏時勢乃事により嫌疑をうけし頃のうたにていと尊とき吟なり」あり。「そてぬれしきのふの時雨こりすまに またも紅葉をかりくらすかな 吉介」。	744
5 119	報国問答	—	—	美静	—	1冊(14丁)	墨書/冊	分類:「詠稿類」。 表紙に綴孔2つ。上巻・中巻・下巻を縫めて綴じる。	622
5 120	謙譲は人の美德なり進取は人の本義なり徳義ともに全うするこれを人の道といふ其心をよめる歌〔和歌拓本〕	—	—	美静	—	1枚	拓本/状	分類:「家に保存するもの」。 総長13.6×16.3・内寸11.3×14.2 (cm)。 「のほる雲くたる川波ともにみな さやけき水のはこひなりけり」。	428
5 121	〔和歌書上〕五十の波	—	—	硯堂主人美静	—	1冊(7丁)	墨書・朱書/冊(青色罫紙)	五十音の各音ではじまる和歌を書き連ねたもの。	646
5 122	〔歌会次第書:詠歌の書上、席図、時刻着座(次第)ほか〕	—	—	—	—	1冊(7丁)	印刷(木版)/冊	近衛忠熙、藤波教忠、千種有住、宮崎幸磨、佐伯利磨、高崎正風、加部巖夫、嵯峨実愛ら。うち藤波教忠は1891年歿(年代下限)。福羽美静は亭主点者を務める。兼題は「牡丹」。	675
5 123	〔長歌草稿:「万世無窮の則ありて」〕	—	—	〔福羽美静〕	—	3枚	墨書・朱書/巻紙	うち一枚は全て朱書。冒頭:「萬世無窮の則ありて 帝道人道備はれり 日本帝国大帝爵」。	343
5 124	〔書付・和歌〕 鮎ひきをみてのふる詞	—	—	鶯花園のあるし 美静	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭:「おのれこの頃物をみありきけるをりあめひきといふものをみぬ」。	674
5 125	〔和歌草稿〕 教育	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	「誰もみなまなひの道にかなふへく 身をはけみてもすゝめ人々」「身をはけみものをまなひて日のもとの 人の人たる道つとむへし」。	383
5 126	〔和歌〕 逸人は西洋に留学してとしをむかへ予は新まちなる居邸にありて静かにとしを送り禊子及び孫等は富町なる邸にありてにきくしくとしをこえければ	—	—	美静	—	1枚	墨書/巻紙	分類:「家に保存するもの」。 「おや子孫へたゝりをりて中々に 心たのしくこゆるとしかな」。	420
5 127	〔和歌草稿〕 新年祝	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/巻紙	「新年祝」と「祝」の題の和歌2首の草稿。	387
5 128	〔長歌草稿〕 大道訓	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭:「天地の間に地球あり 地間の外つ国にして万国つらなるその中の ひかしのほしらにあたりたる 日本帝国大帝爵 天皇陛下の大御国」。	386
5 129	〔覚書:齊藤極堂かきしものよし山田長政発向後に鄭成功之事〕	—	—	〔福羽美静カ〕	—	1枚	墨書/状	「山田長政」「鄭成功」関係の歌題の覚か。	389

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 130	〔和歌〕久保田栄氏と鈴子の君との婚姻を祝して	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	「いさましきそのすゝのねもうちそひてしける久保田のけふのめでたさ」。	332
5 131	〔和歌〕今般の軍人中なる早川氏の帰りけるを賀して	—	—	正三位子爵福羽美静	—	1枚	墨書/状	「早川のきよきなかれのいさましくいさを、たてゝ帰るめでたさ」。	348-2
5 132	1 〔画賛和歌草稿〕鯉水中にとへり うへに水草ちりかふ	—	—	電湖画 美静賛	—	1枚	墨書・朱書/状	分類：「詠稿類」。 裏面に朱書「一」あり。	626
5 132	2 〔画賛和歌草稿〕萩さきて小雨ふれり 蝶しつかにあり	—	—	電湖画 美静賛	—	1枚	墨書・朱書/状	分類：「詠稿類」。 裏面に朱書「二」あり。	626
5 132	3 〔画賛和歌草稿〕烏梢上にあり蟬をとりて食ふ所	—	—	武威画 美静賛	—	1枚	墨書・朱書/状	分類：「詠稿類」。 裏面に朱書「三」あり。	626
5 132	4 〔画賛和歌草稿〕かけひの水なかる 四十雀あり	—	—	武威画 美静賛	—	1枚	墨書・朱書/状	分類：「詠稿類」。 裏面に朱書「四」あり。	626
5 132	5 〔画賛和歌草稿〕藤の花さきたり 鳥もとへり	—	—	電湖武威合作 美静賛	—	1枚	墨書・朱書/状	分類：「詠稿類」。 裏面に朱書「五」あり。	626
5 132	6 〔画賛和歌草稿〕雪中の京	—	—	電湖武威合作 美静賛	—	1枚	墨書・朱書/状	分類：「詠稿類」。 裏面に朱書「六」あり。	626
5 133	〔漢文草稿〕秋季漸高萬楓也	—	—	堀江■[罷カ]馬稿	—	1枚	墨書/巻紙	分類：「詠草類 保存モノ」。	590
5 134	〔和歌〕柿本大神	—	—	福羽美静	—	1枚	墨書/状(礬水紙)	分類：「詠草類 保存モノ」。 印刷用の下書きか。「あふくかなむかしも今もことのはのしらへ高角の神の大まへ」。	592
5 135	〔和歌〕軍旗祭を祝して	—	—	美静	—	1枚	墨書/状(礬水紙)	「詠草類 保存モノ」一括 印刷用の下書きか。「海山もみな、ひかせて大君の御はたの風のいさましきかな」。	591
5 136	〔扇面和歌〕新年同慶	—	—	美静	—	1枚	印刷(木版・3色)/扇面	分類：「詠草類 保存モノ」。 「来るとしの日にけあふきて祝ふかな 君もわかみもやすらげき世を」。	584
5 137	〔試書〕	—	—	〔福羽美静〕	—	6枚	墨書/状	「硯堂近詠」「九州地方にて陸海軍人の大演習有りそのとき聖上陛下のそまをたまひし」「法人 社団法人 財団法人」ほか。	310
5 138	〔歌三首〕こかねいの花をみて	—	—	美静	—	1枚	墨書/状(緑色流水紋)	「東路のみやことならんけふまてを はなはいくよかさきて待けん」。	354
5 139	〔福羽美静模刻の石碑「道まつりける夜日晩山をまいりて菅原右大臣」の写真〕	—	—	—	—	1枚	印刷(写真)/状	分類：「福羽様」。 島根県益田市の日晩山の歌塚写真か。台紙貼付け。「ひくらしのやまをくらみさ夜ふけて この末ことにもみちてらせる」「後桜集によりて筆之 美静老人」。	440
5 140	〔道歌書上〕	—	—	〔福羽美静〕	—	1冊(9丁)	墨書/冊(茶色罫紙、版心「古今日本文章」)	「天地のはしめ八天のみなかぬし世はかたよらぬ中をとるへし」ほか167歌。	306
5 141	〔和歌書上〕奉公忠勇士気の奨励スベキ事	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/青色罫紙	「忠 君か為世の為それをあやまたすつくす心を忠とこそしれ」ほか7首。	41
5 142	〔長歌〕靈鷹の歌	—	—	〔福羽美静〕	—	2枚	墨書/橙色罫紙	末尾欄外に墨書「校了」あり。軍艦高千穂の帆旗に鷹が来たことを奇瑞として称賛する歌。この鷹は「高千穂」と名付けられ内藤新宿御料地の動物園で養われたある。	293
5 143	〔和歌〕井伊谷のみやの宮司となりて行けるをおくりてよめる	—	—	美静	—	1枚	墨書/状(彩色模様)	「したはるゝむかしのおとの井伊谷山 其まつかとなるゝ君かな」ほか1首。	3
5 144	1 〔和歌〕謹て伊藤大兄の帰郷を賀す	—	—	辱知 美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂子)	「ゆき/ゝて西の光もあけて今 かえりし君かけふのめでたさ」。	653

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 144 2	〔和歌〕元旦あめ晴れは	—	—	美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂子)	「ふりしきるあめにとしをはおくらせて むかふは それわけふの、とけさ」。	653
5 144 3	〔和歌〕伴氏照子の君よりひ魚をおくり こされければ	—	—	美静	—	1枚	墨書/色紙(金砂子)	右上に墨書「扣」あり。「あふみのうみ名高きひ かをのほせきて 梅見肴はきみか恵も」。	653
5 145 —	〔和歌〕くひ違ひ安き直段も又をかし の こりの金は蔵に入れよ	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	分類:「詠草類 保存モノ」。	597
5 146 —	〔和歌草稿〕秋衣	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	「秋ことに菊のかをりをしめそへて わか衣手のな つかしきかな」。	358
5 147 —	〔和歌〕衣服は礼のすかたをあらはし風 俗は国の品等をさたむる所ともにその高 度ならんことをほりすことなれば	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	「張れよ張れ世のなりふりはその国の政事のすか たこゆるもの也」。	382
5 148 —	〔和歌・書付〕桜花帖のはしに	—	—	鶯花園のあるし美静 〔朱印「美静」〕	—	2枚	墨書/絹布	分類:「詠稿類」。 冒頭:「はなこのみは一はさくらなることはわか 日のもとふるきならはしなり」。和歌:「いつみ てもかはらぬ色にうつしゑの これやいくよの宝 なるらむ」。	623
5 149 —	〔和歌〕元日 御門様ふし拝みて 宣明/ 百官人のみかたとまう登りける様見侍り て	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/巻紙	和歌2首。	681
5 150 —	〔和歌〕勲位に叙せられけるをり 故郷石 見のくにの人々よりよるこひの書など よせられたれば其こたへかてら	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	「石見の海もとの恵し深ければ けふ光あるみとは なりけん」。	649
5 151 —	〔和歌〕こかね井の花見に行けるをり鶯 花見にあひて	—	—	鶯花小弟 美静	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	663
5 152 —	〔和歌〕こかね井の花を見て	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	分類:「詠稿類」。 和歌2首。	616
5 153 —	〔和歌〕ことし夏の頃甲斐路よりして巡 幸まし/ける日かしこけれとよみて送 り奉りける歌	—	—	美静	—	1枚	墨書/巻紙	和歌2首。	662
5 154 —	〔和歌〕歳旦作	—	—	美静	—	1枚	墨書/状(淡彩画)	「ふるとしののこれる月とのほる日と 並へてあふ くけさのあさ空」。梅と小鳥の淡彩画あり。奥書 あり。	659
5 155 —	〔和歌〕しめやかにかたりかはしてくみ かはす 霞のとけき春雨の空	—	—	美静 兼も	—	1枚	墨書/状(墨画)	墨梅酒器自画賛。	384
5 156 —	〔和歌〕玉川上水のみなみなるこかね いの花をみて	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	673
5 157 —	〔和歌〕帝国国旗	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	473
5 158 —	〔和歌草稿〕「東京の西郊角管村たる十二 所くまの、神社に關し」ほか	—	—	美静	—	1枚	墨書/状(金砂子)	分類:「詠稿類」。 「池辺春草」「泉辺遇友」ほか。	619
5 159 —	〔和歌〕夏の頃借楽園にて	—	—	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	661
5 160 —	〔和歌草稿〕「日のもととは国のまほら大君 の」]	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	長歌の一部カ。	359
5 161 —	〔和歌:詠進懐紙控〕奉賀車駕還旋歌	—	—	正三位勲二等子爵臣 福羽美静上	—	1枚	墨書/状(懐紙)	和歌1首。	372
5 162 —	〔和歌〕夜	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	和歌2首。	352
5 163 —	〔和歌〕光瑠の故事を/楠公別子図/人 /扇/雪	—	—	美静	—	1枚	墨書/巻紙	糊剥離・断裂。和歌5首。	678
5 164 —	〔和歌〕戦場之詮議といふをみて	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	346

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 165	〔和歌草稿カ〕もの学ふ心の力つよくして	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状		347
5 166	〔和歌草稿〕山桜	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状		330
5 167	〔和歌〕皇后宮御方 公義	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	562
5 168	〔和歌〕雲雀/袴衣/不尽山/楠正行朝臣	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状(赤色罝紙)	和歌4首。	560
5 169	〔和歌〕梅田君を追悼してよめる	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/状	和歌1首。	353
5 170	〔和歌切紙一括〕梅/月に郭公/かちいくさ…/笠、杖、スマレ/竹 雪根石/太陽 浪/海戦 軍艦	—	—	—	—	8枚	墨書/状(うち4枚に彩画あり)	分類:「家に保存するもの」。 短冊状に切られている。	418
5 171	〔和歌〕渡辺君に	—	—	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書/色紙(金沙子)	和歌1首。	752
5 172	〔和歌〕益田福原国司等殉難諸氏の為に祭典をなしける日	—	—	美静	—	1枚	墨書/巻紙	分類:「詠草類 保存モノ」。 和歌2首。益田親施・福原元備・国司親相はいずれも長州藩の家老で、第一次長州征伐で元治元年(1864)11月に自害。	578
5 173	〔和歌草稿〕	—	—	元々居老人美静拝	—	2枚	墨書/朱色原稿用紙(版心「徳義の泉」「元々居蔵版」)	「あるときよめる」ほか。	660
5 174	〔和歌〕甲子殉難諸氏のまつりを催しけるに	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	分類:「詠稿類」。 和歌1首。甲子殉難十一烈士は、第一次長州征伐に際し俗論党によって萩の野山獄で処刑された長州藩士11人の総称。	613
5 175	〔和歌〕西郷隆盛英士の銅像のまへにて	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	分類:「詠稿類」。 和歌1首。	625
5 176	〔和歌〕明治勃興をおもひて	—	—	美静	—	1枚	墨書/状	分類:「詠稿類」。 和歌1首。	627
5 177	岡熊臣大人詠歌短冊(岡大人御贈位祝祭に石河年養出品)八葉	—	—	—	—	1枚	墨書/「トニ西村」版青色片面12行罝紙	岡熊臣の詠歌8葉の写し。	122
5 178	〔小野湖山漢詩稿、新年八首録二〕	—	—	湖山醉翁	—	2枚	墨書/7行罝紙	分類:「詠稿類」。	628
5 179	〔野々口隆正・木戸干楯の題「詠嵐山桜歌并短歌」写し〕	—	—	—	—	1冊(2丁)	墨書/半紙		305
5 180	宜湾家集上巻 春之部〔歌集写し〕	—	—	—	—	14紙	墨書/半紙	冊崩れ。末尾:「此集十行ニ御写下サレ度 春之部ヨリ冬ノ終マテラー巻トシ、恋ノ部ヨリ長歌マテラー巻トシ、春夏以下続ケテ御書下サレタク候、著シキ仮名違ヒ結ヒノ違ヒ等御正下サレタク候、料紙ハ御氣ニ召シ候モノ御購入代価被申越被下度」。宜湾朝保(1823~1876)は琉球王国末期の政治家・歌人。	169
5 181	〔詠草〕正月十八日石河氏会兼題 初春見鶴	—	—	—	—	2紙	墨書/巻紙	糊剥離。後欠。	129
5 182	〔和歌短冊写し〕讃岐院のみかど	—	—	熊臣	—	1紙	墨書/半紙	「松山に跡のみなかし果なれやよにしらみねの雲のたちぬは」。「熊臣」は岡熊臣か。	111
5 183	〔詠草:「野菊」・「初秋」ほか〕	—	—	秀実上	—	1冊(5丁)	墨書/赤色片面十行罝紙		87
5 184	〔七言絶句「雷名遠遯日殷其」〕	—	—	恭呈福羽先生高梧下 春窓㊦㊦	—	1枚	墨書/半紙	分類:「詠草類 保存モノ」。	599
5 185	〔和歌詠草〕敷嶋のやまと心をうつせるはわか天皇のかさします花	—	—	慶永	—	1紙	墨書/切紙	「慶永」は松平慶永(春嶽)か。	546

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
5 186	〔和歌草稿一括〕	—	—	〔福羽美静〕	—	3枚	墨書/状	「帰朝の軍人をむかへて」「松井玉身氏の婚姻を賀して」ほか。一部破れあり。	307
5 187	〔包紙〔拙詠 利麿上〕〕	—	—	—	—	1枚	包紙		145
5 188	大井川行幸倭歌序〔拓本・乾拓〕	—	—	—	—	4枚	拓本/状	①21.5×57.0・②21.5×55.5・③21.3×56.5・④21.5×56.0 (cm)。	510
5 189	〔貼交屏風〕	—	—	—	—	6曲1隻	屏風	全体縦(枠)136.0×横58.0 (cm)。 屏風の外枠は朱塗、全体に破損・汚損あり。各扇とも下部は銀箔押、三扇・四扇に使用痕甚。各扇に3～5枚の美静作の詩歌色紙・切紙・懐紙・短冊・扇面(全て金枠付き)を貼付け。	—
5 190	〔福羽美静書〕	—	—	美静	—	1面	墨書/額	2020年11月3日追加寄贈。 46.2×110.0 (cm)。装丁は黒塗縁、装縁は金入菊折枝文錦。経年劣化、本紙断裂甚大。 「天高し地ひろし天下のことすへて永遠人智の進歩もまた限あるへからず其ひろかるべきをひろからしめ其あつかるべきをあつからしむへし人情あつからされハ物を究むることすし 物を究むるの要ハ人道を究むるにあり人道ハ以て其すすむを要とす しかれとも其すすむに道ありいまこれを國歌三首によめり さの如し とすれば急くあまりに迷ふなりおこたらぬこそすすむなりけれあかつかは洗ふ道あり旅衣のやまの水にかけみつつけ あたひなき物ハあらしなくらす日をひとつつてなはひと事を得よ 美静」。	—

6. 社会活動

6-1. 亀井家・津和野 (21点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 1	〔亀井新十郎宛豊臣秀吉ほか書状の写し〕	—	—	〔福羽美静書写カ〕	—	1冊(30丁)	墨書・朱書/冊(青色野紙)	亀井新十郎(茲矩)宛書簡の写し。秀吉ほか、大泥国(バタニ:マレー半島)宛の文書もあり。内容年代:天正8年~慶長11年。朱書・付箋多数あり。	110
6 2	〔書付:亀井琉球守の由緒書〕	—	—	〔福羽美静カ〕	—	1枚	墨書/巻紙	亀井琉球守とは、亀井家の祖・茲矩(1557~1612)のこと。文中:「秀吉よりの文通数十あり中に琉球守との文ありまた台州守との文あり」。	348-3
6 3	御幸官〔豊臣秀吉奉文の模刻〕	—	—	—	—	1枚	印刷(木版)/状	封筒とも(表に墨書「津和野社」あり)。「文禄元年三月十一日 秀吉〔花押〕」。	725
6 4	〔大泥国宛て亀井武蔵守朱印状双鉤〕	—	—	—	—	1枚	双鉤/状	「慶長十五庚戌年八月二十二日」。	141
6 5	〔塩五郎太夫殿宛て亀井武蔵守茲矩直筆書状影写〕	—	—	—	—	3枚	墨書/状	冒頭:「御朱印之事ニ平三郎と日下申候」。	559
6 6	学則	嘉永2己酉晩冬	1849	教師 岡熊臣謹識〔福羽美静筆写カ〕	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色野紙)	分類:「詠稿類」。 国学教師岡熊臣による津和野藩藩校・養老館の学則。年月日は内容より。	620
6 7	賀章一篇〔従三位亀井老君の勲位に叙せられしを賀すの詞〕	明治14年7月吉日	1881	旧津和野藩士 従四位福羽美静	—	2冊	墨書/冊(青色野紙)	2冊はほぼ同文だが、1冊は和装本に製本10丁(目録情報はこちらより採取)、もう1冊は未製本9丁で草稿と思われる。「君よ わか旧主人亀井従三位の君よ 君ハ今勲位に叙せられたり 君ハ今勲位の榮を得て亀井の家を顕ハしたまへり」	477
6 8	履歴概略〔華族 従五位亀井茲明〕	—	—	—	—	1冊(2枚)	墨書/冊	「明治四年十二月内暨二任ス」から「同〔明治〕十六年一月宮内省御用掛拝命外事課勤務」まで。	158

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 9 一	[反物包・御樽肴代ほか配達目録]	明治17年3月18日	1884	弥重平次郎・大岡恕平	福羽美静	1冊(3丁)	墨書/冊(青色野紙)	「右御目録通夫々配達いづれも奉厚謝御受申上候也」。福羽美静から津和野関係者に送られた品物の配達記録か。	308
6 10 一	弔詞 [亀井茲監薨去につき]	明治18年3月26日	1885	小弟弟交 正二位勲二等 源慶永	—	1枚	墨書/半紙	「源慶永」は松平慶永(春嶽)か。	52
6 11 一	伊素志能屋歌抄 [亀井茲監歌集]	明治21年5月	1888	[加部巖夫謹書]	—	1冊(18丁)	印刷(木版、毛筆体)/冊(紫色紐綴じ)	巻頭に小松宮彰仁親王の題と松平慶永の序文あり。巻末に跋として松平直克の和歌と福羽美静の跋文あり。	471
6 12 一	石見国高津柿本神社要記 附社殿之図	明治23年月日出版御届	1890	福羽美静撰/出版人 島根県石見国美濃郡高津村七番地 中島匡輝・全 岡崎弥之助	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。 柿本神社は津和野藩主亀井家の領地鎮座の柿本人麻呂を祭る社。末尾部分に明治6年3月1日、柿本社一千五十年の大祭に亀井茲監が会主となり美静が補助をして東京上野松源楼で歌会を催した旨の記載あり。	402
6 13 一	石見国高津柿本神社要記 附社殿之図	明治23年月日出版御届	1890	福羽美静撰/出版人 島根県石見国美濃郡高津村七番地 中島匡輝・全 岡崎弥之助	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	5-12と同一。	735
6 14 一	[福羽翁へ還暦祝いに縮緬疋反を進呈した目録]	[明治24年]	1891	—	—	1枚	墨書/状	「謹賀 福羽翁還暦 爰ニ縮緬疋反ヲ進呈ス」。「益田 中井千尋」ほか計15名の進呈者氏名あり。地名はいずれも現島根県益田市のもの。	140
6 15 一	[佐伯利麿・田中栄秀ほか書簡:福羽美静還暦祝進呈]	[明治24年カ] 5月11日	1891	宮崎幸麿・田中栄秀・井上瑞枝・佐伯利麿	従五位福羽逸人殿	1通	墨書/巻紙	封筒とも(表に「福羽逸人殿 侍史」裏に「佐伯利麿・田中栄秀」)。巻紙の糊剝離。	299
6 16 一	東征大総督發京師 [行列図]	明治25年印刷	1892	発行兼印刷人 富岡信正/發行所 保勲会	—	4枚	印刷(木版)/状	4枚綴り。4枚目に「津和野隊長」・「津和野銃隊」の付箋様あり。	740
6 17 一	[明治28年度亀井伯爵家予算表写し]	[明治28年]	1895	—	—	1枚	ペン/方眼紙	総収入額と総支出額の一覽表。右端に朱印「田中」あり。封筒入り(墨書「亀井予算」あり)。	512
6 18 一	[家訓と思われる文書断片]	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「亀井家」赤色野紙ほか	紙2枚を貼り合せ。「第七章 後見人及後見監督人」第29～36条に関する部分。亀井伯爵家の家訓案文か。	284
6 19 一	伯爵亀井家家範	明治29年8月3日	1896	—	—	1冊(10頁)	印刷(活字)/冊	亀井茲明が明治29年7月に「緒言」を記した家範全36条。印刷者:吉岡巖八、印刷所:株式会社秀英舎工場。	566
6 20 一	伯爵亀井茲明従軍事件	[明治29年7月9日]	1896	福羽美静手扣	—	1冊(10丁)	墨書/冊(青色野紙)	明治27年9月25日から明治28年5月19日の従軍記録と従軍撮影目録。表紙右端に墨書「廿九年七月八日宮内大臣ニ差出候」あり。	102
6 21 1	明治三十七年度収支決算書 [写し]	明治38年2月3日	1905	家扶 中山和助・佐々布充重	—	1冊(6枚)	印刷(ガリ版)/冊	分類:「福羽家関係一括」。 収入表・経常費決算表・経常費分制表・臨時費決算書が添付。亀井伯爵家の財産書類か。	600
6 21 2	明治三十七年十二月末日現在財産調書 [写し]	明治38年2月3日	1905	家扶 中山和助・佐々布充重	—	1冊(6枚)	印刷(ガリ版)/冊	分類:「福羽家関係一括」。 財産目録・財産仕訳表・特別予備金清算書・学資貸附準備金清算書が添付。亀井伯爵家の財産書類か。	600

6-2. 皇室・華族 (14点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 22 一	学習院略史	明治21年12月	1888	宮中顧問官兼学習院長 陸軍中将 従三位勲二等子爵三浦梧楼	—	1冊(29頁)	印刷(活字)/冊	本文冒頭の題には「教育の規模の附録 学習院略史」とあり。	567

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 23	呈伊藤侯爵閣下書〔皇室制度制定に関する意見書〕	[明治23年頃]	1890	福羽美静(子爵)	[伊藤博文]	6枚	墨書/「十二行(池之端紙儀製)」青色罫紙	冒頭:「閣下先キニ不磨ノ国礎タル憲法ヲ制定シ君臣ヲシテ其所ヲ得セシメ、今又未曾有ノ典型タル皇室制度制定ノ鳳命ヲ辱フス」。	248
6 24	〔人物配用等御注意につき内奏書の下書〕	明治25年7月30日	1892	福羽美静(従三位子爵)	—	1枚	墨書/赤色罫紙	「陛下ハ今日をもつて創業なりと思召し人物の配用等御注意披為在候」。	576
6 25	〔東宮御学問所設置の意見書の控え〕	明治26年7月	1893	壬生基修(従二位伯爵)・黒田清綱(従三位子爵)・福羽美静(従三位子爵)ほか5名(計8名)	土方久元(宮内大臣子爵)	3枚	墨書/赤色罫紙	「殿下是迄学習院ニ於テ普通学科ヲ臣民ノ子弟ト共ニ学ヒ給フコトノ裨益少カラサルハ論ヲ待タスト雖モ御年稍長シ学級漸ク進ムニ及テハ普通ノ教育ニ加フルニ特殊ノ教育ヲ以テシテ他日宇内ニ君臨ス可キ御徳性及ヒ万国ト並立ス可キ宏遠ノ御規模ヲ養成シ奉ラサル可カラス」。	294
6 26	〔大婚二十五年祝典につき「銀婚式」の名称を採用すべきことの草稿〕	明治27年3月6日	1894	福羽美静	土方宮内大臣	3枚	墨書/朱色罫紙	冒頭欄外に「扣」とあり。1-84と関連。	257
6 27	〔奨励賜金を以て乗馬会(或は遠乗)開催につき乗馬希望者の募集案内〕	明治27年4月6日	1894	華族会館	—	1枚	印刷(活字)/状		747
6 28	皇室略牒〔明治29年6月30日調〕	明治29年9月28日発行	1896	華族会館/印刷者堀田道貴	—	1冊(32頁)	印刷(活字)/冊	包紙とも(表に墨書「草稿 皇室表 木圍、裏に墨書「庚午 十一月十六日」あり)。表紙に墨書「明治二十九年」・丸朱印「福羽」あり。	449
6 29	頌徳上表	明治34年12月	1901	福羽美静(正三位勲二等子爵)	—	2冊(各6丁)	墨書/冊(赤色罫紙)	同文2冊。「陛下宝算五十に満たせたまふ〔中略〕臣今や既に老ぬ文久以来の事を回顧するに感慨交に至り殆ど歓喜の涙と、めあへすこゝに一言を捧呈して謹みかしこみて臣か微衷を告げ奉る」。	574
6 30	女官典侍室町清子の君をかなしみて	明治35年1月	1902	正三位勲二等子爵福羽美静	—	2部(各2枚)	墨書/朱色罫紙	同文2部。	253
6 31	履歴〔中山慶子〕	明治36年4月調	1903	—	—	表紙1枚+本文8枚+白紙2枚	墨書/状	明治33年12月7日まで記載。中山慶子(1836~1907)は、中山忠能の次女、孝明天皇の典侍、明治天皇の生母。	289
6 32	当度御留む大臣之事、侍従官区々之事〔覚書〕	—	—	[福羽美静]	—	1枚	鉛筆書/状	虫損あり。	388
6 33	〔南北朝期女房一覧表〕	—	—	—	—	2枚	朱書/状	女子師範学校の出席表を流用。	301
6 34	〔皇室・神祇・教育・国政などに関する文書の草稿カ〕	—	—	—	—	28枚	墨書/状	冊崩れ。左下に「廿五」から「六十五」までの丁数あり(途中番号飛び)。2枚目に「第三章 徳義」、21枚目に「第四章 国政」の見出しあり。朱書訓点・修正多数あり。	266
6 35	〔朝鮮帝位兼摂に関する意見書写し〕	—	—	—	—	3枚	印刷(ガリ版)/状	前欠。2枚目に「第六 日露両国人の生存競争と亜細亜大皇帝の宝冠」の見出しあり。	197

6-3. 角筈村・淀橋町(5点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 36	御相談書ニ対シ聊カ鄙見ヲ陳述ス	明治22年2月	1889	渡辺雅之助	福羽美静(従三位)	2枚	墨書/青色罫紙	角筈村の利源を興す方法につき、成願寺との土地談判のこと、神田上水助水堀の水税を出すことの陳述書。冒頭右上に墨書「廿二年二月十日入手」・朱印「福羽」あり。	260
6 37	〔水道改良工事関係書類一括〕	[明治25~26年頃]	—	—	—	16枚	墨書/状	市区改正の水道改良工事における淀橋町元角筈村の用地買収に関する東京市等と折衝に関する文書。淀橋浄水工場の築造に関わるものか。	10
6 38	淀橋町浄水池并名勝一覧	明治26年11月6日(発行)	1893	子爵 福羽美静(著作兼発行者)/福羽良曠(印刷者)	—	1冊(7丁)	印刷(木版・四周短辺無界、毛筆体)/冊(紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。十二所神社(図入り)・福羽邸などを紹介。附録として「東京市水道起工式の景況」(「毎日新聞」1893年10月24日掲載)の摘要あり。福羽良曠は、美静の義弟。	426

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 39 1	畑地借用証〔字角管新町 一武反八畝廿七歩 一三畝五歩〕	明治26年12月日	1893	借主 小山勝五郎 [㊤] / 保証人 野村仙太郎 [㊤]	福羽様差配人御中	1枚	墨書/状	右上に2銭の証券印紙貼り付け。	184
6 39 2	畑地借用証〔字角管新町 一壺反四畝歩〕	明治26年月日	1893	代々幡村元代々木村借主 小糸次郎吉 [㊤] / 保証人 濱田鉄五郎 [㊤]	福羽様差配人御中	1枚	墨書/状	右上に1銭の証券印紙貼り付け。	184
6 39 3	畑地借用証〔一畑壺反四畝歩 貴殿御所有ノ畑地〕	明治31年1月	1898	借主 小糸栄次郎 / 保証人 諸星留吉	福羽美静殿差配人 福羽良曠殿	1枚	墨書/状	右上に1銭の証券印紙貼り付け。	184
6 39 4	畑地借用証〔一畑三反式畝式歩 貴殿御所有ノ畑地、写し〕	明治31年	1898	借主 小糸栄次郎 / 保証人〔以下空欄〕	福羽美静殿差配人 福羽良曠殿	1枚	墨書/状		184
6 40 一	角管名勝考一斑 (福羽美静先生著淀橋町浄水池并二名勝一覽ノ後ニ附記ス)	—	—	渡辺雅之助稿	—	6紙	墨書/半紙	十二所神社・角管村溜池ニヶ所などについて。	189

6-4. 日清戦争・台湾 (12点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 41 一	〔日清開戦にあたり御告祭・臨時参拝等の方法につき陳言〕	明治27年8月3日	1894	福羽美静 (正三位勲二等子爵)	—	表紙1枚 + 白紙1枚 + 本文4枚 (×2通)	墨書/赤色罫紙 (本文)	本文同文2通。表紙に「天皇陛下皇后陛下へ上書 皇太后陛下へ上書 宮内大臣へ進書」とあり、また表紙右上端に朱書「廿七年ノ扣」とあり。	241
6 42 一	山東角燈台占領の模様〔読売新聞記事の書写〕	明治28年2月1日	1895	〔福羽美静筆写カ〕	—	1枚	墨書/水色罫紙	『読売新聞』第6289号 (1895年2月1日) 2~3面の記事を書写。「越智修吉氏従軍紀行中」。	176
6 43 一	〔賀表草稿〕	明治28年5月15日	1895	正三位勲二等子爵福羽美静上	—	1枚	墨書/状	日清講話締結に關しての賀表草稿か。「事功成りて平和之回復 神州之大慶 陛下之大徳謹而領し奉る 誠恐謹言」。	392
6 44 一	奉迎記事〔天皇皇后東京へ還幸啓につき草稿〕	明治28年5月30日	1895	〔福羽美静〕	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭部分:「明治二十八年五月三十日 天皇陛下東京に還幸ましましぬ 翌三十一日皇后陛下また還啓あらせられたり」「美静かねて疾を患ふることなれば宮中に参して奉迎なすこと能はず」。	338
6 45 一	〔方今征清軍の戦死者慰霊方法につき嘉彰親王に啓する書の草稿〕	明治28年11月	1895	福羽美静	—	1枚	墨書/青色罫紙	嘉彰親王は小松宮彰仁親王 (参謀総長、日清戦争征清大総督) のこと。「願くハ今般之戦死者ハ〔靖園神社とは〕別ニ神社建設有之初其祭祀を重んせられる事至当」。	68
6 46 一	〔方今征清軍の戦死者慰霊方法につき小松宮彰仁親王に啓する書の控え〕	明治28年11月20日	1895	福羽美静 (正三位勲二等子爵)	—	2枚	墨書/赤色罫紙	冒頭欄外に「草稿 扣」とあり。6-12を清書したもの。	244
6 47 一	〔福羽子爵戦利品縦覧建議への賛同文〕	—	—	—	—	1枚	墨書/青色罫紙	「征清之役」(日清戦争か) の戦利品を諸神社で庶衆の縦覧に供する建議への賛同文。墨書修正あり。	148
6 48 一	近歩二ノ六 千谷 台北城内〔『日本』第2152号附録〕	明治28年8月15日	1895	日本新聞社	—	1枚	印刷 (木版) / 状	「台北北門」「台北城内市街」「基隆水雷營前」「第二聯隊第二大隊金山之戦」「上陸点洩底」などの絵図あり。	556
6 49 一	水雷母艦ノ給養〔奉公偉績画卷 第四十九図〕	明治29年発行	1896	保勲会/富岡政信 (編輯兼発行者) / 太田長吉 (印刷者) / 絵画筆者 高橋松寧 / 彫刻印刷者 安井台助	—	1枚	印刷 (石版カ・活字) / 状	絵図に説明文1枚貼り付け。「図解」には「若林海軍大尉図案 木村徳太郎彫刻」とあり。	731
6 50 一	新日本語言集 甲号	明治29年2月11日発行	1896	台湾総督府民政局学務部/印刷所 秀英舎第一工場	—	1冊 (86頁)	印刷 (活字) / 刊本 (袖珍本)	130×90×0.6 (cm)。緒言冒頭:「此書ハ台湾土人ニ我現行ノ国語ヲ教ヘ又本国人ガ台湾土語ヲ学ブノ用ニ供センガ為メ撰修セリ」。	339

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 51	〔書簡写し：埔里社・大埔城などに関する私見を伝える〕	[1月16日]	—	野村伝四郎	—	8紙	墨書/青色片面11行罫紙	1枚目冒頭欄外に朱書「一月十六日 到来野村伝四郎書簡写」あり。後欠か。埔里社・大埔城はいずれも台湾中部の地名。野村伝四郎は美静の門弟で、『大國隆正全集』（全7巻、有光社、1937～39年）の校訂者。	124
6 52	台湾ツオウ族写真	—	—	—	—	5枚	印刷（写真）/状	分類：「福羽逸人関係一括」。包紙とも（裏面に朱書「ツオウ族 現在は一〇〇名」/「アピン」「十五年四月二日」あり）。写真に刻印「台湾埔里松写真館」あり。	320

6-5. 孝明天皇三十年祭遙拝式奉行会（26点）

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
6 53	天皇陛下皇后陛下へ上書 皇太后陛下へ上書 宮内大臣へ進書〔孝明天皇を祀る一大神宮造営の意見〕	明治27年1月	1894	福羽美静（従三位子爵）	—	1冊（本文13丁）	墨書/冊（赤色罫紙）	表紙右上に朱書「明治二十七年一月扣」あり。	480
6 54	公園地内借用願	明治29年9月	1896	飯山正秀（皇考孝明天皇三十年御霊祭遙拝式奉行会 主唱者子爵 福羽美静代理 主幹）	—	2枚	墨書/状	孝明天皇三十年祭の遙拝式を上野公園内で挙行したいための借用願。簡易図面1枚添付。朱書訂正あり。	256
6 55	遙拝式準備会記事第二号	明治29年11月16日	1896	—	—	3枚	墨書/赤色原稿用紙（1枚）・青色罫紙（2枚）	—	196
6 56	〔孝明天皇遙拝式次第・斎場装飾費予算の写し〕	[明治30年1月30日]	1897	—	—	1冊（5枚）	墨書/冊（青色罫紙ほか）	冒頭右上に「写」とあり。年月日は挙行予定日（実際は英照皇太后が明治30年1月11日に死去したため延期）。遙拝場の略図面添付あり。	208
6 57	〔宮内大臣久元土方伯爵へ進書の草稿〕	明治30年2月	1897	福羽美静（正三位子爵）	〔土方久元宮内大臣〕	1枚	墨書/赤色罫紙	青山御所を一種特別な遺蹟とし、孝明天皇・英照皇后の参拝所とすること考慮を願う。	252
6 58	青山御所御処置之儀ニ付上奏	明治30年2月	1897	福羽美静（従三位子爵）	—	4枚	墨書/赤色罫紙	「青山御所は普通の離宮と其制を殊にし一種特別な千歳に伝ふるの遺蹟と彼為遊 孝明天皇 英照皇后両陛下を祭祀する事を勸許被為有候は、忽に忠良篤志人民其計画を仕り宏壯善美の神殿を造営」。	251
6 59	孝明天皇遙拝式参列員諸君心得	明治30年3月	1897	福羽美静（遙拝式奉行会主唱者）	—	3枚	印刷（木版、毛筆体）/状	同一3枚。	250
6 60	〔孝明天皇遙拝式の新聞広告写し〕	[明治30年3月]	1897	—	—	1枚	墨書/藍色罫紙	読売新聞（明治30年3月19日）、都新聞（明治30年3月18日）。	105
6 61	宮内大臣土方久元君に呈す	[明治30年]	1897	福羽美静（正三位子爵）	—	1枚	墨書/赤色罫紙	冒頭：「英照皇后御諡すでに被為在候上は孝明天皇と相列べ英照皇后と称し奉り至当のことに皇太后の称は相止メ候事至当と相考候」。英照皇太后は1897年1月11日に歿、同月30日に「英照皇太后」の追号。	254
6 62	〔孝明天皇三十年祭遙拝式の絵図面〕	—	—	—	—	2枚	彩色/状	1枚は遙拝場の絵図面、もう1枚は神楽殿・舞台・溜場の絵図面。	106
6 63	大幣旗並弓箭盾矛之図	—	—	—	—	4枚	彩色/状	5-84と同様の遙拝場絵図面（糊剥離）と大幣旗の絵図。	291
6 64	遙拝山全図	—	—	—	—	1枚	墨書/状	右上に「天神山」とあり。略図面。	171
6 65	奉行会用度計算書	—	—	—	—	9枚	墨書・朱書/青色罫紙	孝明天皇三十年祭遙拝式奉行会関係の諸費用計算書。	94
6 66	奉行会用度仕訳計算書	—	—	—	—	18枚	墨書/青色罫紙ほか	孝明天皇三十年祭遙拝式奉行会関係の諸費用計算書。	93

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
6 67	— 契約書類	—	—	—	—	22枚	墨書／青色罫紙ほか	孝明天皇三十年祭遥拝式奉行会関係の契約証・収支調書など。	95
6 68	— [奉行会関係書類一括：会計関係ほか]	—	—	—	—	74枚	墨書／青色罫紙ほか	用度計算書ほか金銭関係の書類が大半、ほかに御肖像写真石板・記念木杯の配附人名簿などあり。	2
6 69	— [奉行会関係書類一括]	—	—	—	—	11枚	墨書／青色罫紙ほか	全国同感の志士より詩歌発句文章等を収集したい旨の伺書の写し（明治29年9月3日、井上喜太郎→奉行会）、収支調書、式次第の草稿、広告案、ほか。	64
6 70	— [奉行会関係書類一括：遥拝式斎場準備諮詢会関係ほか]	—	—	—	—	10枚	墨書／青色罫紙ほか	鷹からの上野公園標木の取毀費用請求書（明治30年4月）、遥拝式準備会記事の出版届の控え（明治29年11月12日）、ほか。	67
6 71	— [奉行会関係書類一括：書類草稿ほか]	—	—	—	—	34枚	墨書／青色罫紙ほか	警視総監宛ての伺書草稿、参列員諸君心得の草稿、広告草稿、必要物品の書き上げ、ほか。	225
6 72	— [奉行会関係書類一括：諸官庁への伺い書類の写し]	—	—	—	—	7枚	墨書／状	「御紋章附記念盃製造之義ニ付願」（明治29年11月10日、福羽美静→宮内大臣土方久元）、上野公園使用許可困難の通知（明治30年3月3日）、帝室博物館主事久保田鼎→福羽美静）、ほか。	469
6 73	— [奉行会関係書類一括：会場を神田三崎町へ変更関係ほか]	—	—	—	—	23枚	墨書／青色罫紙ほか	会場を神田三崎町へ変更の明治30年3月19日付毎日新聞記事写し、宮内大臣・警視総監ほかへ宛てた会場変更・日程の通知書類（明治30年3月13日）、再延期を求める決議案（明治30年3月15日夜）、ほか。	42
6 74	— [奉行会関係書類一括：日誌・書簡写しほか]	—	—	—	—	58枚	墨書／青色罫紙ほか	3月1日から3月31日までの郵便物・面会者を書き上げた日誌（計27枚）、福羽美静と飯山正秀および関直彦（立会人弁護士）の三者間の書簡写し、ほか。	96
6 75 1	御祭典に付謹考〔儀式の方法についての意見書〕	明治31年1月	1898	福羽美静（正三位子爵）	—	5枚	墨書／赤色罫紙	冒頭：「過日英照皇后一閔祭青山御所に於て行はせられ美静参拝これにより謹しみて考ふる所を左に記す。」「今般青山御所の御祭典は神式中の重からざる神式を感ずるか如く其玉串を奉獻する場合ばかりにて其他参上より退出まで全く通常式の御取扱」。	246
6 75 2	宮内大臣伯爵土方久元君に呈書す	[明治31年]	1898	福羽美静（正三位子爵）	—	4枚	墨書／赤色罫紙	英照皇后一閔祭への感につき別紙謹考を進呈。「かの御祭事御場所此の如き御祭事の御仕措へ対しては規模小に厳儀を欠き候様歎息相考候」。	246
6 76	— 念書〔写し：画工小山正太郎に注文した孝明天皇御肖像画につき代金支払と引取をくだされたく〕	明治32年9月18日	1899	飯山正秀（遥拝式奉行会主幹）	福羽良曠	1枚	墨書／状	右上に「写」とあり。「立会人 弁護士 関直彦」の奥書あり。	259
6 77	— 感謝状〔写し〕	明治32年9月18日	1899	飯山正秀（遥拝式奉行会主幹）	福羽美静（子爵）	2枚	墨書／状	「御祭典ノ執行ノ件拙者不徳ノ致ス処ヨリ一時挫折致候処貴台ノ御厚志ヲ以テ拙者ニ代リ右祭典御執行被成下且費用万端合計金六千六百七拾壹円余拙者ノ為ニ御立替へ被下候〔中略〕右債権全然御棄捨被下候段深く感謝ノ至ニ奉存候。」「立会人 弁護士 関直彦」の奥書あり。	258
6 78	— [「孝明天皇宸影 巻図」の寄贈受領書]	大正8年10月6日	1919	帝室博物館総長 森林太郎	福羽逸人（農学博士子爵）	2枚	墨書／状	「竪六尺参寸横参尺八寸金箔押額縁付」。寄贈願の控え1枚添付（大正8年9月11日、封筒とも）。	333

7. 文化活動

7-1. 国学・漢学 (13点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 1	— 当世要語	明治3年10月1日	1870	大国隆正	—	3枚	墨書/片面10行黒罫紙	切り抜き、貼り付けによる修正あり。	182
7 2	— 語学訓蒙〔卷之上〕	明治12年2月刊行	1879	加部巖夫著并蔵版/ 探古堂発売	—	1冊(序・目次等16丁+本文31丁)	印刷(木版、四周単辺無界)/刊本(和装本)	有栖川二品熾仁親王題辭あり。近藤芳樹(長州藩国学者)の序文あり。全6篇45章のうち第2篇第18章まで輯録。	92
7 3	— 万葉集古義序〔草稿〕	明治12年	1879	福羽美静	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色罫紙)	朱書の訂正箇所多数。藤原雅澄撰『万葉集古義』(吉川半七、宮内省蔵版、1879年)に掲載。万葉集古義は鹿持雅澄(1791~1858)が著した江戸後期の万葉集注釈書。計141冊。明治天皇の命により宮内省刊。サブシリーズ「4.3. 侍講・宮内省御用掛・文学御用掛」と関連。	75
7 4	— 大典和尚 森大狂〔読売新聞記事の書写〕	[明治24年4月13日・4月20日]	1891	[福羽美静筆写カ]	—	1冊(7丁)	墨書/冊(青色罫紙)	『読売新聞』明治29年4月13日・4月20日の月曜録の記事(森大狂「大典和尚」)を書写。冒頭:「寛政、享和の頃より、わが漢文学大に興りぬ」。	206
7 5	— 書名尽の事〔大国隆正翁作「書名尽」の推薦文〕	明治25年11月	1892	福羽美静記	—	1枚	印刷(活字)/状(褐色)	分類:「家に保存するもの」。「書名尽」について「これ弘化嘉永年間の作なり」とあり。左下に「麴町十丁目岡本活版所印刷」とあり。『少年園』98号(1892年11月)に転載あり。	419
7 6	— 書名尽の事〔大国隆正翁作「書名尽」の推薦文〕	明治25年11月	1892	福羽美静記	—	20枚	印刷(活字)/状(褐色)	7-5と同一20枚。	369・756
7 7	— 帝国三部本書袖珍刻本序	明治27年秋日	1894	正三位子爵福羽美静六十四齡大日本国東京なる元々居にありてしるす	—	1冊(9頁)	印刷(活字)/冊	分類:「家に保存するもの」。三部の本書(旧事紀・古事記・日本書紀)の刻本着手につき序文。『大八州雑誌』107巻(1895年5月)に転載あり。表紙は赤色紙。	423
7 8	— 帝国三部本書袖珍刻本序	明治27年秋日	1894	正三位子爵福羽美静六十四齡大日本国東京なる元々居にありてしるす	—	11冊	印刷(活字)/冊	7-7と同一11冊。	351・750
7 9	— 野之口一家語学指掌図	—	—	—	—	1枚	印刷(木版)/状	「はも」「ぞや」「こそ」の活用表。野之口は大国隆正の旧姓。	677
7 10	— 国字国文改良論に就いて	—	—	子爵福羽美静氏意見	—	4枚	墨書/青色罫紙	冒頭:「国字国文の改良といふことは大札に於て尤も善いことであるが、夫ならば今の所謂改良論者と歩趨をへにしてやるかといふと、夫は出来ないのである」。	190
7 11	— [日本書紀の部分書写]	—	—	[福羽美静筆写]	—	41枚	墨書・朱書/青色罫紙	『日本書紀』巻3~25の一部を筆写。頭注に各箇所テーマの朱書きあり。	125
7 12	— [日本書紀の部分書写]	—	—	[福羽美静筆写]	—	12枚	墨書・朱書/青色罫紙	日本書紀巻25・27の一部を筆写。頭注に各箇所テーマの朱書きあり。前後欠。	224
7 13	— 論語大意序〔部分〕	—	—	—	—	1枚	墨書/状	1枚目のみ。冒頭:「先人仰山君、学宗程朱、兼精文法、故其治四書」。	393

7-2. 神道・寺社 (20点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 14	— [伊勢両宮神宝図所載 御楯図・御統之図]	天保12年辛丑清和月既望	1841	聴松軒西野宣明識	—	1綴	着色/半紙(裏打)	御楯図は「川上宜道写」。御統之図は「仏庵老人所蔵之器以富田潤借写」。	443
7 15	— 神宮御参拝之順序〔草稿〕	明治13年6月10日	1880	[福羽美静]	—	1冊(2丁)	墨書/冊	「御下問により謹答左の如し」。	39

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 16	〔勅願所伯耆国会見郡会見山西月院安養寺略縁起 関係一括〕	[明治13年]	1880	—	—	5枚	墨書/版心「宮内省」赤色罫紙	「勅願所伯耆国会見郡会見山西月院安養寺略縁起」、「安養寺縁起書写」(明治13年6月3日、鳥根県令境二郎→宮内書記官)ほか。いずれも罫紙2枚を貼り合せ。	271
7 17	〔児湯郡米良銀村西之宮社の由来書〕	明治17年3月31日	1884	懐良親王墓掌 七十六才 久米清	—	1冊(2枚)	墨書/冊		120
7 18	松陰神社境内略図	明治22年8月	1889	福羽美静しるす	—	3枚	印刷(木版)/状(薄紙)	同一3枚。	732
7 19	松陰神社境内略図	明治22年8月	1889	福羽美静しるす	—	1枚	印刷(木版)/状	7-18と同一だが、「綿貫治郎助」の「原墓ノ所在未詳 明治二年井上信一郎此地ニ改葬ス」の部分が墨塗り抹消。	734
7 20	両神苑ノ図 農業館之図 賓日館之図	明治24年4月22日出版届	1891	神苑会/著作者兼発行者 田中芳男/印刷者 松田菊枝	—	各1枚(計3枚)	印刷/状	包紙とも(3枚一括入り)。伊勢両宮神苑の図。賓日館は、伊勢神宮の崇敬団体として1886年に発足した財団法人神苑会が、参拝する賓客の休憩・宿泊施設として1887年に建築。	727
7 21	国教改正之儀草案	明治26年6月27日	1893	柳沼亀之丞(福島県岩代国岩瀬郡須賀川村平民農 当時本郷区弓町二丁目三番地川添静方止宿 小林與平門人)	福羽美静(従三位子爵)	14枚	墨書・朱書/状	冒頭:「国教改正ノ儀ニ付不肖ノ小民恐レモ願ミス閣下ノ御同感ヲ被リ度一偏(マ)ノ草案ヲ捧呈仕候」。末尾:「我師與平翁ノ発見セシ明教真理ヲ以テ国教改正ノ儀ヲ上奏奉リ度候ニ付菟藪ノ言ト雖トモ御嘉納在ラセラレ御助勢ヲ蒙ラハ小生ノ面目此上有ル可カラス候恐惶謹言」。	233
7 22	尾張国熱田鎮座 皇大神宮神境図	明治26年1月10日出版御届	1893	著作兼発行者 熱田神宮政所 祢宜田島仲吉/印刷者 磯部真好/春陵小田切多芸雄謹画/彫刻師 原弘堂	—	1枚	印刷(木版)/状	従来の尾張造から神明造に神殿を改めた記念の図。包紙とも。朱印「熱田神宮蔵版」あり。説明文の年代は明治25年12月。	728
7 23	自天王碑〔拓本〕	明治27年3月20日発行	1894	林嘉三郎(編集兼印刷者)/林晴太郎(発行者)	—	1枚	拓本/状	総長161.5×97.0(cm)。内寸157.0×90.0(cm)。「明治十五年十二月」「陸軍中将二品勲一等小松彰仁親王題額」「元老院副議長正三位勲二等東久世通禧撰并書」。「南朝遺史 追加之二 版權所有」。裏面下部にスタンプ「南朝遺史 此印証ナキハ偽本トス」あり。現在も吉野郡川上村神之谷の金剛寺に建つ。	278
7 24	〔祭儀についての書付〕	明治27年12月	1894	元々老人福羽美静	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭:「祭儀のおこる所其事速し久しまた其意味深し高し」。	345
7 25	明治政教 第一回	明治28年4月8日筆記	1895	〔福羽美静述カ〕	—	1枚	墨書/状	橙色罫紙2枚を貼り合せ。本文は前後欠。	285
7 26	明治政教 国政	[明治28年カ]	1895	〔福羽美静述カ〕	—	1枚	墨書/状	橙色・赤色罫紙4枚を貼り合せ。本文は部分欠。	221
7 27	明治政教自序〔草稿〕	明治28年	1895	福羽美静	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色罫紙)	朱書訂正あり。冒頭:「明治維新は我か天子の大業又日本人民の思想を天子に奉るの時節なり」。「明治政教の一篇と為し第一章より四章に至り尚附録として風俗の一端を陳述す」。	211
7 28	郷社黒前神社沿革誌	[明治29年]	1896	—	—	6紙	墨書/半紙	茨城県常陸国多賀郡黒前村大字黒坂の黒前神社。末尾に消印「武蔵中野/廿九年七月二十六日」あり。	232
7 29	神道教義辨	明治32年7月9日	1899	福羽美静先生講演/中垣孝雄筆記	—	6枚	墨書/状	冒頭:「或人問ふ、今宗教問世に喧すし」。	229
7 30 1	〔一昨年の神宮御炎上につき流布の浮説は謬説につき炎上当夜の実況報告書を送付〕	明治33年5月	1900	青木陳実(従七位)	福羽美静(正三位子爵)	1枚	墨書/状	参拝人・消防人夫らが御物に近寄った等の謬説は遺憾千万、「御炎上ノ明確ナル実況ヲ御了得被下候ト共ニ其ノ際我々ノ尽シタル微功ヲモ事案ニシテ空偽ナラザル認識ヲ蒙リ候ハ、難有」。	262
7 30 2	神宮御炎上手續書之写	明治31年5月	1898	青木陳実(神宮権禰宜)	芳川顯正(内務大臣子爵)	10枚	墨書/状	1898年5月22日夜の伊勢神宮火災の実況を記した報告書。	262

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 31	故伯耆守名和君碑陰記〔拓本〕	—	—	—	—	1枚	拓本/状	総長138.5×64.1 (cm)・内寸122.0×48.3 (cm)。 「水戸侯臣 森尚謙撰并書」元禄三年八月日。「安政五年五月日 因幡伯耆国主従四位上行左近衛権少将源朝臣慶徳 建」。現在も鳥取県西伯郡大山町の氏殿神社に建つ。 池田慶徳 (1837～1877) は鳥取藩12代藩主。	6
7 32	〔名和公真跡の模刻〕	—	—	〔藤岡吉平カ〕	—	1枚	印刷 (木版) / 状	包紙とも (表に「名和公真跡」、裏に「藤岡吉平」)。伯耆国加茂社所蔵の名和公真跡の模刻。ともに印刷されている由来文は「万延紀元冬十月日 因幡儒員 臣正墻薫謹書」。	730
7 33	請願〔三重県南牟婁郡熊野有井村に官幣大社造営について、草案〕	—	—	—	貴衆両院議長	19紙	墨書/半紙	「熊野有馬伊弉諾尊神蹟考証書」(編纂：山田正、検閲文案：井上頼園・副島種臣・黒川真頼・本居豊頼・栗田寛・小中村清矩・宮地巖夫・平田盛胤)添付。	261

7-3. 山県大式・竹内式部顕彰 (13点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 34	〔山県大式関係書類一括〕	〔明治13年〕	1880	—	—	12枚	墨書/青色罫紙ほか	1880年6月の山梨県巡幸にあたっての山県大式に親しき人物等の調査に関する文書。	234
7 35	〔書簡写し〕	明治17年2月28日	1884	山縣昌蔵	福羽美静	1枚	墨書/版心「敬業館蔵」赤色原稿用紙	祖父山県大式の『柳子新論』出版 (敬業館蔵、1884年) にあたり福羽美静に「忠精」の題字をもらったことへの礼状か。	59
7 36	山縣大式伝	明治20年5月出版	1887	編輯兼出版人 今村亮/敬業館蔵版	—	1冊(7丁)	印刷 (活字) / 冊 (紫色紐綴じ)	表紙に丸朱印「福羽」あり。巻頭に美静の歌あり：「ますらをのつくし、あとはつき/＼に 事あきらけくなりける哉」。本文冒頭の署名は「不肖孫今村亮撰」。巻末に「跋山縣大式伝」(明治20年5月上瀬、不肖孫山縣昌蔵撰)あり。敬業館は林田藩藩校。	32
7 37	時事新報社説抄録 尊王論	〔明治21年9月26日 発行～10月6日発行〕	1888	〔福羽美静筆写カ〕	—	1冊(37丁)	墨書/冊 (和装本、青色罫紙)	『時事新報』2059号 (1888年9月26日)～2069号 (同年10月6日) 掲載分の論説を書写したもの。	479
7 38	〔山縣大式の子孫に爵位追贈につき天皇へ言上書の草稿〕	明治24年8月	1891	福羽美静 (従三位子爵)	—	2枚	墨書/青色罫紙	冒頭欄外に「草稿ナリ」とあり。	200
7 39	臣美静謹而爰に上言す〔山縣大式の子孫に爵位追贈につき〕	明治24年9月	1891	福羽美静 (従三位子爵)	—	1冊(2丁)	墨書/冊 (赤色罫紙・紫色紐綴じ)	冒頭欄外に「下書」とあり。	575
7 40	竹内式部奉公心得書	明治24年9月	1891	香川敬三識	—	8枚	印刷 (木版) / 半紙	竹内敬持 (式部) 謹述の心得書 (宝暦7年丁丑6月) について香川敬三の解題を付したものを。冊崩れ。	226
7 41	〔山縣昌蔵氏蔵本借用から文書抜き書き〕	—	—	—	—	2枚	墨書/青色罫紙	「近衛家文書 竹内式部事件」「竹内式部事蹟 乾」「竹内式部事蹟 坤」の3冊から、文書抜き書き。1枚目欄外冒頭に墨書「三冊 山縣昌蔵氏蔵本借用」とあり。	33
7 42	宝暦事件人名履歴一覧表	—	—	—	—	4枚	墨書/状	宝暦事件関係者の履歴年表を一枚表にしたもの。元1枚が糊剥離により4枚に断裂か。1枚目右上に墨書「此分未整頓 あと/＼可書継物」とあり。	187
7 43	〔山縣氏関係文字体裁など指摘メモ〕	—	—	〔福羽美静カ〕	—	1枚	墨書/状	—	557
7 44	明和中山縣大式御仕置	—	—	—	—	11枚	墨書/青色罫紙	山縣大式に係る諸文書を書写したものか。冊崩れ。丁数「三」抜け。	235
7 45	卓栄良雄居士靈位〔山縣大式の墓石拓本〕	—	—	—	—	1枚	拓本/状	総長78.3×32.0 (cm)・内寸69.0×25.5 (cm)。「明和四丁亥星」「卓栄良雄居士靈位」「八月廿一奠」。現在も茨城県石岡市根小屋の泰寧寺に建つ。	641
7 46	〔山縣昌興題「熱海浴泉額字」〕	—	—	—	—	4枚	印刷 (木版) / 状	同一4枚。包紙とも (墨書「摺物」あり、山縣昌蔵の名刺添付)。	5・759

7-4. 歴史編纂・校訂 (24点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 47	奇才子中山善吉氏之伝	明治26年10月	1893	菘花園のあるし 福羽美静	—	1枚	印刷 (活字) / 状	末尾部分: 「すぐれたる才なるをおもひ衆人と共にこれををしむのあまり一篇の伝文を草する」。中山善吉 (~1893) は14歳で逝去した囲碁の名人。東京都墨田区の三囲神社に本文章をもとにした石碑あり。	754
7 48	佐久良東雄伝	明治27年3月26日発行	1894	編輯兼発行者 佐久良巖 / 印刷所 株式会社秀英舎第一工場	—	1冊 (本文22頁)	印刷 (序は木版・本文は活字) / 刊本 (紫色紐綴じ)	巻頭に福羽美静の序文あり。巻末に正誤の付箋貼り付けあり。5-67と同一。佐久良東雄 (1811 ~ 1860) は幕末の歌人・尊王派志士。平田篤胤の門下で、桜田門外の変に連座し獄死。美静は大國隆正の紹介で兄事した。	446
7 49	佐久良東雄伝	明治27年3月26日発行	1894	編輯兼発行者 佐久良巖 / 印刷所 株式会社秀英舎第一工場	—	1冊 (本文22頁)	印刷 (序は木版・本文は活字) / 刊本 (紫色紐綴じ)	7-48と同一。	91
7 50	1 はるのうた [写し]	—	—	あつまを [佐久良東雄]	—	1綴	墨書 / 半紙	7-50-1・2は紙縫り一括。	390
7 50	2 序 [佐久良東雄伝の序文]	明治27年3月	1894	福羽美静 (元々居のあるし)	—	2枚	印刷 (木版) / 状	7-50-1・2は紙縫り一括。	390
7 51	第四回内国勲業博覧会及大極殿之図 [平安神宮の境内俯瞰図]	明治28年1月30日発行	1895	記念祭協賛会事務所 / 村上勘兵衛 (印刷者) / 山崎嘉三郎 (編輯兼発行者)	—	1枚	印刷 (活字・石版カ) / 状	表面は平安神宮および博覧会場の鳥瞰図。裏面には「平安遷都千百年記念祭趣意書」「平安遷都記念祭協賛会設立趣意書」ほか記載あり。美静は『平安通志』(平安遷都千百年記念祭にあわせて京都市参事会が編纂した歴史書)の校閲者を務めた。	757
7 52	平安通志序	明治28年4月	1895	正三位子爵福羽美静	—	4枚	印刷 (木版・四周双边無界、毛筆体) / 状	「平安通志」の美静による序文の校正刷か。湯本文彦ほか編『平安通志一』(京都市参事会、1895年)に掲載。巻末に和歌「千とせ経したひらのみやのふることを つばらにみするこれのふみかな」あり。	236
7 53	[平安通誌原稿] 応仁永祿間ノ皇室	—	—	—	—	5枚	墨書 / 版心「平安通誌」赤色罫紙	1枚目右上に朱書「副」あり。後欠。	313
7 54	[平安通誌原稿] 尾州密勅	—	—	—	—	5枚	墨書 / 版心「平安通誌」赤色罫紙	1枚目右下に墨書「七枚 四月十四日 松田」あり。	315
7 55	西周伝未定稿 全	明治30年10月	1897	森林太郎識	—	1冊 (224頁)	印刷 (活字) / 冊	冒頭に送付状あり (明治30年10月、男爵西神六郎、未定稿のまま先考知人に呈し「御記憶の条項御見当」があれば書き込みの上返送してほしい旨)。森林太郎編著『西周伝』(西神六郎、1898年12月)の凡例 (同年9月中瀬) には校閲・補正者として山縣有朋・勝安芳に次いで福羽美静の名前あり。	132
7 56	三條正一位公事蹟絵詞稿 甲	[明治33年5月7日]	1900	—	—	19枚	墨書・朱書 / 状	三條実美公履歴の校正版、第1 (途中) ~ 10図、1 ~ 19枚目。1枚目に朱書「此本書田中有美公借卅三年五月七日返す」「一校了」とあり。	164
7 57	[三條正一位公事蹟絵詞稿 甲]	[明治33年5月7日]	1900	—	—	31枚	墨書・朱書 / 状	三條実美公履歴の校正版、第11 ~ 20図、20 ~ 50枚目。	165
7 58	[三條正一位公事蹟絵詞稿 甲]	[明治33年5月7日]	1900	—	—	16枚	墨書・朱書 / 状	三條実美公履歴の校正版、第21 ~ 28図、51 ~ 66枚目。	166
7 59	六国史撮要解序	[明治34年1月20日]	1901	[福羽美静カ]	—	1紙	墨書 / 青色片面8行罫紙	冒頭欄外に朱筆「卅四年一月廿日稿」あり。後欠。表題の「解」の字は朱書挿入。	265
7 60	[水戸徳川光圀君贈位・維新史料編輯所野史台創立十五周年祭の図書館創立記念会における祝詞]	—	—	子爵福羽美静謹んで述ぶ	—	1枚	墨書 / 青色罫紙	後欠。	192

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 61	吉見記〔吉見正頼略伝〕	—	—	—	—	7紙	墨書/「欣永堂製」青色片面12行原稿用紙	末尾に朱書「校了」あり。吉見正頼（1513～1588）は石見国鹿足郡津和野の三本松城を本拠とした国人・吉見氏の当主・戦国武将。	201
7 62	高山彦九郎伝〔表紙〕	—	—	—	—	1紙	墨書/紫色片面10行罫紙	表紙のみ。高山彦九郎（1747～93）は江戸中期の尊王論者で、諸国を巡歴し尊王論を説いたが、久留米で自刃。寛政の三奇人の一人。	220
7 63	高山彦九郎自殺一件	—	—	—	—	4紙	墨書/版心「敬業館蔵」赤色片面10行原稿用紙	表紙に朱印「福羽」あり。本文の紙の右下欄外に「二十六」・「廿七」・「廿八」の記載有。敬業館は林田藩藩校。	222
7 64	玉松故真弘略伝	—	—	—	—	7紙	墨書/青色片面11行罫紙	内題「故従五位真弘履歴」。「従五位玉松君碑銘製」（一等編修官従五位川田剛製文）が添付。玉松操（本名・山本真弘、1810～1872）は幕末～明治初期の国学者。大国隆正に国学をまなび、岩倉具視の腹心として王政復古等の諸計画に参画したが、新政府の開化政策に反対し辞職。	288
7 65	〔井上瑞枝（隆蔵）略伝〕	—	—	〔福羽美静〕	—	2冊（3丁・2丁）	墨書/冊（青色罫紙）	1冊の書き出しは慶應2年8月（3丁）、もう1冊の書き出しは慶應3年12月29日（2丁）。井上瑞枝（1839～1905）は津和野藩士・国学者。大国隆正に国学をまなび、明治元年に即位式考定掛。明治政府の修史局につとめ、のち「亀井家日記」編修に携わる。	365
7 66	安德帝御陵考	—	—	—	—	13紙	墨書/青色片面12行罫紙	冒頭：「おのれ囊に安德天皇非御入水考をものしてそが梗概を抄録し本紙上に掲げたりしか」。安德天皇（1178～85）は第81代天皇（在位 1180～85）で、壇ノ浦の戦で平氏一門とともに入水。	167
7 67	看聞日記 目次	—	—	—	—	1冊（4丁）	墨書/冊（版心「宮内省」茶色罫紙）	目次（巻数と年代）のみの書き上げ。看聞日記は室町前期の伏見宮貞成親王（1372～1456）の日記。応永23～文安5年（1416～48）の記事からなる。	103
7 68	新編武蔵風土記稿 那賀郡児玉郡賀美郡目録	—	—	—	—	1冊（6丁）	墨書/冊（版心「太政官」茶色罫紙）	那賀郡（巻之235～237）・児玉郡（巻之238～242）・賀美郡（巻之243～245）の部分の目録	147
7 69	東京府蔵 地理類仮書目	—	—	—	—	1冊（16丁）	墨書/冊（版心「東京府」橙色罫紙）	東京府架蔵書の地理書目・地図目の書誌書き上げ。	121
7 70	〔「大清会典卷之三」の写し〕	—	—	—	—	2枚	墨書/状	漢文。「吏部」「官制一」の部分。大清会典は清代を通じて5回編纂された総合法典。	290

7-5. 好古社（9点）

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 71	好古社ハ将来教育上ノ事ニモ関渉スベキ者ナリヤ否ヤノ問題ニ答フ〔福羽宛加部巖夫意見書〕	明治15年12月3日	1882	補助 加部巖夫 [㊦]	好古社長福羽美静君閣下	5枚	墨書/片面12行赤原稿用紙		143
7 72	好古会演説草稿	明治17年秋季	1884	美静	—	1冊（5丁）	墨書/冊	表紙に墨書「十七年秋季好古会演説之扣」あり。	61
7 73	好古会発議	明治17年秋季	1884	〔福羽美静〕	—	1冊（3丁）	墨書/冊（褐色罫紙・版心「参事院」）	文中：「本社ニ於テ一編ノ日本大名所選ト題スベキ撰著ノ一挙コソアラマホシケレトノ意念ヲ発起セリ」。	45
7 74	福羽公好古会演説筆記草稿	明治17年10月22日	1884	三田泰光筆記	—	1冊（6丁）	墨書・朱書/冊	朱書訂正多数あり。明治17年秋季好古会での演説。	118

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
7 75	社員録〔明治十四年四月至廿四年五月〕	〔明治14～24年〕	—	好古社	—	12枚	墨書・朱書／版心 「好古社」朱色罫紙	好古社員の一覧表。入社順に、番号と住所・氏名・推薦者が記されているものか。冊崩れ。本文11枚、表紙1枚。表紙に朱印「福羽」あり。本文前欠：内容年代は明治16年の第159号高宮正路から、明治23年の第363号矢野金之丞まで。朱書で「退社」「死亡」等の書き込みあり。	66
7 76	祝辞〔第35回好古会開設〕	〔明治34年5月12日〕	1901	〔福羽美静〕	—	2枚	墨書／青色罫紙	朱書訂正あり。冒頭：「今年今月今日星ヶ岡茶寮に於て第三十五回好古会開設す。」「元此の好古会は共に古を思ふ人々打寄りて古物を見せあひ又それに就て彼此の物語にお及び彼の古を稽へ今を照すの一助にもと思ひ立ちて人々共に具心を合せて組織したるものなり」。第35回好古会および創立20年記念祝宴は1901年5月12日に開催（『東京朝日新聞』同年5月14日）。	43
7 77	〔和歌扇面〕所々に遊びける日よみ上たる歌	—	—	〔福羽美静〕	—	1枚	印刷（毛筆体）／扇面	朱丸印「名所旧蹟故事考証 考義善行美事見聞 好古社社長 福羽美静印」あり。「西京桂のさとなる桂のみやの別殿にまうてたる日」の歌など計6首。	755
7 78	〔和歌書上〕十二所のやしらの十二詠	—	—	美静	—	1枚	墨書／絹布	朱丸印「名所旧蹟故事考証 考義善行美事見聞 好古社社長 福羽美静印」あり。サブシリーズ「5.5.角筈村・淀橋町」と関連。	671
7 79	〔反故紙一括〕	—	—	—	—	2枚	印刷（木版）ほか／状	うち1枚は版心「好古集説／編／好古社蔵版」。	475

7-6. 書画 (7点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
7 80	清水氏所蔵宮本無三四筆布袋和尚の図を見て述ふ〔控え〕	明治17年6月24日	1884	美静〔朱印「美静」〕	—	1枚	墨書／絹布	右上に墨書「扣」あり。「宮本無三四の一軸を見て其の筆の御雅なるにますます感し一言を書し」。	570
7 81	武蔵野小金井櫻順道絵図	明治18年2月出版〔同年1月19日御届〕	1885	編集兼出版人 神奈川県平民 庭田敬三	—	1枚	印刷（木版）／状	内藤新宿から甲州道、小金井道、青梅街道・田無村、府中宿、調布玉川まで。「関野新田地先碑文」・「小金井桜樹碑文」などあり。	733
7 82	小金井櫻樹碑〔拓本〕	—	—	—	—	1枚	拓本／状	113.0×120.0 (cm)。「挾南藤忠休明夫識 庫淵上條游子藝書 肥前守藤原義行朝臣題額」「文化七庚午年春三月二十一日建」。7-81 (武蔵野小金井櫻順道絵図) の図中にも掲載。現在も東京都小平市の海岸寺に建つ。	107
7 83	日光山強飯節会	—	—	—	—	2紙	墨書・画／半紙	山伏の口上と大飯頂戴の画あり。冊崩れを接合。	117
7 84	華山猛虎図記〔写し〕	—	—	—	—	6枚	墨書／半紙	渡辺華山の猛虎図についての説明文・箱書の写し。冊崩れ。表紙に朱文丸印「美静」あり。	237
7 85	〔松鶴図〕	—	—	六十一翁 松堂主人	—	1枚	紙本墨書	落款「六十一翁 松堂主人」。	760
7 86	〔巖谷小波書画〕	—	—	小波〔巖谷小波〕	—	1面	紙本着色／額	2020年11月3日追加寄贈。40.7×93.5 (cm)。装縁が黄八丈、細金が銀紙、木枠が桑口。画面全体に焼け、経年劣化、一部破損。獅子頭の画に「花笠に賽銭の降る 祭りかな」の書。落款「小波」、印文「小波山人」。小波の父・巖谷一六 (1834～1905) は美静と同年代で元老院議員・貴族院議員を務め、能書家として知られた。	—

7-7. 美静著作 (49点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 87	福羽先生笏の記	[明治2年9月]	1869	美静 謹而これをし るす/野村伝四郎写	—	1枚	印刷/状	笏の形の枠あり。「笏の記」と題あり。冒頭:「いにしへの人覚悟すへきことを笏にするとおのれいま朝廷の恩命によりて衣冠の身となりもとより国につくさんとするの地を得たるかことし 故にまづ笏にしるすこと左のことし」。	329
7 88	[伊庭野某のために書いて与えた道德論の控え]	[明治4年12月14日]	1871	[福羽美静]	—	1冊(3丁)	墨書/冊(黒色野紙)	末尾に「明治四年季冬十四日あすくにかへらんといふ伊庭野かために書て与ふ 美静」とあり。冒頭:「今の時にうまれたる人は今の時の用にたゞされは其甲斐なし 今の時は皇政復古百事一新の時にして文教明に人業開化の盛時なり」。	57
7 89	[『維新外論』推奨文の草稿]	明治13年8月	1880	福羽美静	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色野紙)	ウィリアム・グリフィスの著作『維新外論』(1875年9月刊)の推奨文。冒頭:「米人希利比士氏著ハす所の維新外論はよくわが維新の由来を察知したりといふべし」。	138
7 90	[箱根駅旧関門の記]	明治15年3月	1882	従四位勲二等福羽美静	—	1枚	印刷(木版、毛筆体)/状	分類:「家に保存するもの」。	415
7 91	白蓮栽培〔読売新聞記事の書写〕	[明治17年11月19日]	1884	[福羽美静筆写カ]	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色野紙)	『読売新聞』2953号(1884年11月19日)の記事を書写。冒頭:「我国にて始めて白蓮の栽培を試みしハ凡そ三十年前にて」。	355
7 92	[『菊牡丹梅培養手引草』序文の草稿]	明治23年7月	1890	鶯花園のあるし美静	—	1枚	墨書/状(四周双辺無界の用紙)	冒頭:「世のなかの人みて愛するもの、中殊に愛するものは花卉なり」。今井兼角『菊牡丹梅培養手引草』(1890年10月刊)に掲載。	379
7 93	[庄内古川門樋碑の草稿]	明治24年10月	1891	従三位勲二等子爵福羽美静	—	1枚	墨書/状	146×113 (cm)。文中:「埼玉県武蔵国葛飾郡庄内古川門樋設造の事いますてにと、のへり」「篆額の文字は侍従長兼内大臣正二位勲一等徳大寺実則侯爵の執筆也」。	656
7 94	人々出世のあらまし	[明治24年カ]	1891	鶯花園主人美静	—	1冊(3丁)	印刷(活字)/冊(緑色紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。 年代別の生き方について記す。巻末にペン書「昭和二十三年三月二十八日 父より譲り受く」あり。	424
7 95	梵釈寺の古瓦〔読売新聞記事の書写〕	[明治27年2月24日]	1894	[福羽美静筆写カ]	—	1枚	墨書/青色野紙	『読売新聞』5964号(1894年2月24日)3面の記事を書写。冒頭:「此程江州滋賀郡南滋賀の山麓にて布目ある碧瓦数片を掘出し」。	199
7 96	防水美事の記〔原稿〕	明治27年3月	1894	従三位勲二等子爵福羽美静	—	2枚	墨書/橙色原稿用紙	明治23年8月の利根川洪水に際して旭・松伏の2村が協力して防御したことの顕彰文。冒頭欄外右下に墨書「本文五百三十字」あり。	168
7 97	日本大成本義	明治28年1月21日発行	1895	子爵福羽美静(著者兼発行者)/佐久間金三郎(印刷人)	—	1冊(4頁)	印刷(活字)/冊	分類:「家に保存するもの」。 非売品。冒頭部分:「日本帝国は実にその大帝爵の本義を有す其本義は時機を以て大成したまはざれば叶はず時機既に到来したるが如し故に其本義の在る所を陳述す」。『大日本教育会雑誌』164号(1895年4月)ほかに転載あり。	429
7 98	日本大成本義	明治28年1月21日発行	1895	子爵福羽美静(著者兼発行者)/佐久間金三郎(印刷人)	—	1冊(4頁)	印刷(活字)/冊	7-98と同一。	748
7 99	支那婦人の沓を見て	明治28年夏日	1895	元々居主人福羽美静	—	1冊(4丁)	印刷(木版・四周双辺無界、毛筆体)/冊(薄褐色、版心「教育日本魂」「編」「元々居蔵版」、緑色紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。 表紙右上に朱書「元々居隨筆中」あり。冒頭:「方今支那国にある所の奇事を呼ばばかならずその婦人の足を細くする所の事に及ぶ」。	434

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法／形態	備考	旧番号
7 100	支那婦人の香を見て	明治28年夏日	1895	元々居主人福羽美静	—	1冊(4丁)	印刷(木版・四周 双辺無界、毛筆体) ／冊(薄褐色、版 心「教育日本魂」 「編」「元々居蔵 版」、緑色紐綴じ)	7-100と同一。	36
7 101	人事八條	明治29年紀元節の日	1896	六十六齡福羽美静述 ふ	—	1冊(2丁)	印刷(木版・四周 双辺無界、毛筆体) ／冊(版心「教育 日本魂」「編」「元々 居蔵版」、緑色紐 綴じ)	分類:「家に保存するもの」。 表紙右上に朱書「元々居隨筆中」あり。「己れ不 肖にして云々などいふハ」「遠しといふ言葉は」「外 国人と雜居する事」「君臣の親しみ」「親の恩を」「食 衣宅は」「人に交わるにハ」「人の職業にハ」。「新 少年」12号(1896年7月)に転載あり。	433
7 102	人事八條	明治29年紀元節の日	1896	六十六齡福羽美静述 ふ	—	2冊(2丁)	印刷(木版・四周 双辺無界、毛筆体) ／冊(版心「教育日本 魂」「編」「元々居蔵 版」、緑色紐綴じ)	7-102と同一2冊。	746
7 103	判断力	明治29年6月5日	1896	宮村弥次郎筆〔福羽 美静述カ〕	—	1冊(6丁)	墨書／冊(青色罫 紙)	朱書訂正多数あり。冒頭:「教育の道は人の智徳 拡充せしめて人たるもの充分の働きを為すへき」。	210
7 104	教育の事に就て	[明治29年]	1896	子爵 福羽美静談話 ／吉木竹次郎速記	—	1冊(5丁)	印刷(木版・四周 双辺無界、毛筆体) ／冊(薄褐色・版 心「教育日本魂」 「編」「元々居蔵 版」、緑色紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。 表紙右上に朱書「元々居隨筆中」あり。末尾部分: 「教育の事に就ては忠孝或ハ仁義或ハ心の度量等 新たに穿鑿を究め其の穿鑿の宜しき所を得て勸語 の広大を考へ之を子弟に施すの肝要なることを思 ふべし」。「隨在天神」241号(1896年1月)・「大日 本教育会雑誌」174号(1896年2月)ほかに転載あり。 7-107・108に墨書原稿あり。	431
7 105	教育の事に就て	[明治29年]	1896	子爵 福羽美静談話 ／吉木竹次郎速記	—	1冊(5丁)	印刷(木版・四周 双辺無界、毛筆体) ／冊(薄褐色・版 心「教育日本魂」 「編」「元々居蔵 版」、緑色紐綴じ)	7-105と同一。7-107・108に墨書原稿あり。	729
7 106	教育の事に就て〔草稿〕	[明治29年]	1896	子爵 福羽美静談話 ／吉木竹次郎速記	—	1冊(5丁)	墨書／冊(青色罫 紙)	朱書訂正多数あり。7-105・106に印刷物あり。	101
7 107	教育の事に就て〔草稿〕	[明治29年]	1896	子爵 福羽美静談話 ／吉木竹次郎速記	—	1冊(5丁)	墨書／冊(青色罫 紙)	朱書訂正数か所あり。7-105・106に印刷物あり。	86
7 108	子爵福羽美静先生演説 月の話(天長節 祝賀会ニ於テ)	明治31年11月20日 発行	1898	野村伝四郎(編輯兼 発行者)／福羽読書 堂(発行所)	—	1冊(8頁)	印刷(活字)／冊	分類:「家に保存するもの」。 表紙紙は緑色。末尾に野村伝四郎が明治31年天長 節後5日に記した後記あり:同志の団体である作 新会が花王俱樂部において天長節祝賀会を催し福 羽が演説を行った旨。	430
7 109	子爵福羽美静先生演説 月の話(天長節 祝賀会ニ於テ)	明治31年11月20日 発行	1898	子爵福羽美静先生演 説／野村伝四郎(編 輯兼発行者)／福羽 読書堂(発行所)	—	1冊(8頁)	印刷(活字)／冊	7-109と同一(表紙は緑色でない)。	741
7 110	人事百話	明治31年11月28日 四 版発行〔初版は同年8 月4日、序は同年7月〕	1898	福羽美静(講述者)／ 大橋新太郎(発行者) ／博文館(発兌元)	—	1冊(132 頁)	印刷(活字)／ 刊本	吉木竹次郎速記。冒頭に福羽美静の写真あり。 「人事談はすなはち学事と徳義を併せて国家を進 ましむるの用あり」	131
7 111	明治のをしへ 全	明治32年9月16日発行	1899	子爵福羽美静(著作 者)／近藤活版所(印 刷所)／福羽読書堂 (発行所)	—	1冊(50 頁)	印刷(活字)／刊 本	非売品。巻頭に五箇条の御誓文・教育勅語を掲載。 「孝道の実、忠節の義、誠に之を挙ぐるは日本補 正の古体なり。大成訓教最も著しき者を挙げて之 を演説す。即明治のおしへの一篇と為し第一章よ り四章に至れり」	738

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 112	— 北京落城	明治33年9月21日発行	1900	福羽美静(著作者) /福羽良曠(発行者) /大澤鉦三郎(印刷者)	—	1冊(4丁)	印刷(木版、毛筆体)/冊(赤色罫あり、緑色紐綴じ)	分類:「家に保存するもの」。 非売品。表紙に朱印「支那事件記念」あり。「おのれ七十の寿宴を開きける日 聯合軍の勝利をききて」「老の身もわすれて狂ふうれしさよ 世はよきかたにむかふとおもへハ」	432
7 113	— [佐久間象山の藩主の下問に対して奉答した献策につき覚書]	—	—	[福羽美静]	—	1枚	墨書/巻紙	分類:「家に保存するもの」。 冒頭:「佐久間象山真田藩主より朝庭攘夷の御沙汰により見込申出へき旨下問ありしとき答申に」。	395
7 114	— [維新前の尊王攘夷につき草稿]	—	—	[福羽美静]	—	7枚	墨書/版心「徳義の泉」「元々居蔵版」朱色原稿用紙	書き込みは前2枚のみ、後ろ5枚は未記入。冒頭:「維新のつかだにして尊王攘夷といふこと類に流行して人々これを論したることなり」。	193
7 115	— 教育非難 [草稿]	—	—	[福羽美静]	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭:「教育非難 この非難は即ち忠告なる事」。	162
7 116	— 教育批難	—	—	福羽美静述	—	8枚	墨書/青色罫紙	本文は5枚、後欠。冒頭:「非難の言は即ち忠告なり予現今教育の景況をみわたして忠告必要なりと思考するによりこの教育非難を述ふる所なり」。	161
7 117	— [教育に関する意見書断簡]	—	—	[福羽美静カ]	—	9枚	墨書/状	いずれも紙2枚を貼り合せ。前後欠。「2」～「18」の丁数記載あり。意見書草稿か。朱書傍点多数あり。7-119へ内容連続か。	268
7 118	— [教育に関する意見書断簡]	—	—	[福羽美静カ]	—	7枚	墨書/状	いずれも紙2枚を貼り合せ。前後欠。朱書傍点多数あり。意見書草稿か。朱書傍点多数あり。7-118から内容連続か。	269
7 119	— 一月一日の祝文	—	—	元々老人福羽美静稿	—	4枚	墨書・朱書/青色罫紙	冒頭:「一月一日は何れの年の一月一日と雖も共にめでたしたふとし」。	231
7 120	— わかす、むるやまとたましひ [書付]	—	—	[福羽美静]	—	1枚	墨書/状	冒頭:「明治維新の明世に遭遇し 天皇陛下の重恩に浴し老をたのしむ所福羽美静こゝに考ふる所をのへてこれをしるしむ」	348-1
7 121	— [この頃の新紙上に福羽子爵は内閣を罵りたとの事有之につき書付]	—	—	[福羽美静]	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭:「この頃の新紙上に福羽子爵は内閣を罵りたとの事有之」。	348-4
7 122	— 国民国の人日本国民たるの心得第一なり [日本国民としての心構えにつき書付]	—	—	[福羽美静]	—	1枚	墨書/巻紙	冒頭部分:「その日本人たるもの謹而 朝廷を大切に考 天皇陛下の御繁栄をねかふべきことなり」。	361
7 123	— 有鳴 家庭教訓 [口述筆記カ]	—	—	[福羽美静述カ]	—	1冊(4丁)	墨書/冊(青色罫紙)	冒頭欄外に朱書「有鳴 家庭教訓」あり。	100
7 124	— 人ノ正徳	—	—	福羽先生口述	—	1冊(21丁)	墨書/冊(青色罫紙)	冒頭欄外に朱書「原本写一 本文片仮名交り」あり。朱書訂正多数あり。付箋多数あり。	215
7 125	— ある日思ひいて、誌しける	—	—	[福羽美静]	—	1冊(2丁)	墨書/冊(青色罫紙)	朱書訂正数か所あり。冒頭:「春雨しめやかなる折にはなにくれと思ひいつる事多し。維新以前維新以後相変はれることをいふもの多し。」	214
7 126	— 忠孝の本義	—	—	子爵福羽美静述/江口嘉昭・今井蘇江速記	—	1冊(4丁)	墨書/冊(青色罫紙)	美静自筆の奥書あり。冒頭:「人道の中に就きて、最も肝要なるは、国家に尽す心と、父母に仕ふる道となり。」	212
7 127	— 奮発ヲ勸ム	—	—	福羽美静述/宮村弥次郎速記	—	2冊(9丁・12丁)	墨書/冊(青色罫紙・無地)	同文2冊(1冊は青色罫紙9丁、もう1冊は無地12丁)。紙縫一括。冒頭:「明治モ殆ど世年ニナレリ 現今天下ノ形勢即ち宜敷ハ宜敷ナリ」。	463
7 128	— やめてもらひ度も申 [語句使用の武家の弊につき意見書草稿]	—	—	福羽美静しるす	—	1枚	墨書/巻紙	文中:「御ノ字軽く遣ふへからす必帝室の御うへに用めて敬語することなり」ほか。	177
7 129	— [政体論に関する文書草稿]	—	—	[福羽美静]	—	1枚	墨書/巻紙		178
7 130	— 文章 [河内菽子「花の宴」の冒頭部分]	—	—	[福羽美静写カ]	—	1枚	墨書/半紙	冊崩れ。紙2枚を貼り合せ。後欠。	286
7 131	— 人の道 [写本]	—	—	[福羽美静カ]	—	5枚	墨書/半紙	後欠。冒頭:「人ハ天地の徳を身に享けて世に在るものなり故に世にあるかぎり世の益をなし又みづからも幸福を得るを当然のものなりとす」。	89

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
7 132	— 遠州流岸の松抜書〔茶書〕	—	—	〔福羽美静写カ〕	—	1冊(13丁)	墨書/冊		123
7 133	— 〔「はたき用雁皮紙反故」袋入り反故紙一括：草稿・写・控など〕	—	—	〔福羽美静〕	—	一括	墨書/状	教育非難ほか自筆草稿の一部など。「山縣大武永沢町居宅図面」・「アメリカ新聞中抜訳文」・「金剛寺宝物古器物古文書目録」(明治21年9月、清水憲登)・「碑面説明書」(戊子9月5日、久米川邨 當間政九揮→蔵敷村 呈内野敷隆君大人足下)・「文明十八年紀行回国雜記」・和歌印刷「常総新聞の始に」・「笏の記」(明治2年9月、美静)・「奉祝立皇太子古調今調二首歌」・「天盃之記」(明治23年3月、福羽美静)・「紅葉館ニ於テ慶新会演説筆記」・「福羽美静歌集中抜書」ほか。	34
7 134	— 〔「秋のねざめ」・「とのい」の語意についての書付〕	—	—	—	—	1枚	墨書/版心「帝国大学」赤色片面10行罫紙	綴痕あり。	223
7 135	— 〔ウツロの文字表記についての書付〕	—	—	—	—	1枚	墨書/半紙		35

8. 福羽家関係

8-1. 美質 (5点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
8 1	— 〔福羽美質和歌二首：「鶯」「六十七のとし元旦に〕〕	〔明治6年1月1日カ〕	1873	—	—	2枚	墨書/小色紙	分類：「詠草類 保存モノ」。 「鶯 うくいすのなくなかこゑののけさに 老いもわかゆるこゝちなりけり」、 「六十七のとし元旦に 安らかに老のみ坂を うちこえて たのしき春に またもあふかな」。	593
8 2	— 明治七年太陽略暦	明治7年	1874	六十八翁美質〔朱印「佐知乃舎」〕	—	2枚	印刷(木版)/状	分類：「詠草類 保存モノ」。 同一2枚。「甲戌新年試草」と題した和歌「あたらしくむかへしとしのよるこひを よにみせそむるうめのはや咲」あり。梅花の画(彩色)あり。 5-14(明治九年丙子略暦)と関連。	598
8 3	— 明治八年太陽略暦	明治8年	1875	六十九翁福羽美質〔朱印「佐知乃舎」〕	—	1枚	印刷(木版)/状	分類：「詠草類 保存モノ」。 「新年見鶴試筆」と題した和歌「ひなつるの けふとしたつとははふなり おのか子世をやよみはしむらん」あり。鶴の画(彩色)あり。 5-14(明治九年丙子略暦)と関連。	596
8 4	— 〔福羽美質和歌小色紙一括〕	—	—	—	—	3枚	墨書/小色紙	分類：「詠草類 保存モノ」。 包紙とも(「小色紙かた十八葉」)。「五月雨 はれたりと うれしかりにし さみたれの ひとひもまたす くもるわひしき」,「原雲雀 たひ人の みちわけわふる たもとより ひはりたつなり なすのしのはら」,「枕上虫 わひてぬる まくらの露をよすかにて とひよるよはの むしのこゑ哉」。	580
8 5	— 〔福羽美質和歌二首：「澗水」「祈念」〕	—	—	—	—	2枚	墨書/折紙	包紙(墨書「父公の歌 扇面之料カ」あり)。 「澗水 うこきなき これの巖を あるしにて 千代をしらふる たにの水おと」,「祈恋 ひきはへていのるしめに うちなひく 櫛を人の こゝろともかな」。	209

8-2. 逸人・禎 (9点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
8 6	木園福羽美静小伝	明治41年8月5日発行	1908	著作者 加部巖夫/ 発行者 福羽逸人/ 印刷所 秀英舎第一工場	—	1冊 (169頁)	印刷(活字)/ 刊本(紐綴じ)	巻頭に福羽美静の写真と東久世通禎の序文(明治戊申夏日)あり。冒頭の署名は「門人 加部巖夫編述」。	56
8 7	木園福羽美静小伝	明治41年8月5日発行	1908	著作者 加部巖夫/ 発行者 福羽逸人/ 印刷所 秀英舎第一工場	—	1冊 (169頁)	印刷(活字)/ 刊本(紐綴じ)	2006年11月4日追加寄託。 7-6と同一。	—
8 8	〔福羽美静小伝の送付状〕	明治41年8月	1908	福羽逸人	寺田小三郎	1通	印刷(活字)/ 巻紙	分類:「福羽家関係一括」。 封筒とも(表に「寺田小三郎殿」、裏に「福羽逸人」)。	602
8 9	〔木園福羽美静小伝の抜粋コピー〕	—	—	—	—	4枚	印刷(活字)/状	分類:「福羽逸人関係一括」。 岩手盛雄の箇所などに朱線入り。	323
8 10	硯堂歌抄	明治40年9月30日発行	1907	編者兼発行者 子爵 福羽逸人/印刷所 右文館	—	1冊(65丁)	印刷(活字)/ 刊本(紫色紐綴じ)	2006年11月4日追加寄託。 福羽美静の没後に逸人と教え子が550首を撰んで 編んだ歌集。巻頭に福羽美静の写真と亀井茲常の 序文(明治40年9月)あり。末尾に「門人 佐伯利磨 宮崎幸磨 同輯」とあり。巻末に福羽逸人の文あり。	—
8 11	四三潜艦乗員ノ遺書	〔明治43年〕	1910	学習院	—	1冊(12頁)	印刷(活字)/冊	分類:「福羽逸人関係一括」。 第六潜水艇沈没事故(明治43年4月15日に発生した沈没事故)に関するものか。本文冒頭には「高橋海軍少将記」とあり。	322
8 12	〔福羽逸人肖像写真〕	—	—	—	—	1枚	印刷(写真)/状	分類:「福羽逸人関係一括」。 「宮中顧問官正三位勲二等子爵 福羽逸人」。	317
8 13	〔福羽逸人系図書・戸籍謄本〕	—	—	—	—	2冊	印刷(活字)/冊	分類:「福羽家関係一括」。 同文2冊。「華族履歴」コピー。茶封筒「福羽逸人系図書戸籍謄本 その他 S46.5」入り。	601
8 14	牽牛花栽培法摘要	—	—	—	—	1冊(11枚)	墨書/冊(青色野紙)	冒頭:「朝顔即ち牽牛ハ漢名」。1丁上部に鉛筆書込「Pharbitis hederacea L. Ipomoea hederacea」あり。	238

8-3. 真城・須恵 (6点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
8 15	訓戒	明治44年2月2日	1911	寺内正毅	福羽須恵子	1冊(13丁)	墨書/冊	分類:「福羽家関係一括」。 寺内正毅が娘須恵子へ福羽真城に嫁ぐにあたり認め与えたもの。朱色紐綴じ。	603
8 16	高蹊居士女道教訓	〔昭和7年4月〕	1932	—	—	1冊(7丁)	印刷(活字)/冊	分類:「福羽逸人関係一括」。 「伴庄右衛門資芳の略伝」(福羽真城記す、昭和7年4月)1枚挟み込み。 482は同書のみ静筆の写本。	326
8 17	〔昭和十一年特別大演習観艦式記念絵葉書〕	昭和11年10月28日	1936	—	—	1枚	印刷/絵葉書	分類:「福羽逸人関係一括」。 スタンプ「昭和十一年特別大演習観艦式記念 神戸 11.10.28」あり。	319
8 18	騎一会名簿	昭和29年6月19日	1954	—	—	4枚	印刷(活字)/状	福羽真城関係:騎一会は竹田恆徳入隊以降に騎兵第一連隊に在転した将校の会。冊崩れ。「歴代聯(大)隊長芳名録」添付。	742
8 19	祖父美静翁印刷物及遺文〔目録〕	—	—	—	—	1冊(4丁)	墨書/冊(青色野紙)	紙綴一括。	334
8 20	〔席割図〕	—	—	—	—	1枚	墨書/状	千代、てい、真城等親族名を押紙に記し席割を示す。押紙の剥落多数。	295

8-4. 邦長・菊子 (3点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
8 21	津和野訪問談	昭和38年8月25日	1963	福羽邦長	—	3枚	ペン/状 (罫紙)	島内文雄の津和野調査談話より福羽家に関する部分を書き付けたもの。	328
8 22	寺内正毅公五十年祭	昭和43年11月2日執行	1968	編集 寺内正毅公五十年祭実行委員会事務局 (山口市教育委員会内)	—	1冊(20頁)	印刷 (活字) /冊	分類:「福羽逸人関係一括」。	318
8 23	[山陰中央新聞切抜: 岩谷健三「津和野人国記11」]	昭和51年6月20日	1976	—	—	1枚	ペン・印刷 (新聞) /状	分類:「逸人関係一括」。 台紙貼り付け。見出しは「イナゴで名高い・福羽逸人」「作物栽培に天才の手腕」。裏面に5月24日付の福羽邦長宛て岩谷建三書簡が付属。	324

8-5. 福羽家 (20点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
8 24	[福羽静子葬儀関係書]	明治12年2月27日	1879	—	—	5枚	墨書/状	美静次女・静子の葬儀次第、祭文。	90
8 25	[津守国美爵記: 授男爵]	明治17年7月8日	1884	陸仁/伊藤博文 (宮内卿正四位勲一等)	津守国美 (従五位)	1枚	墨書/状	朱印「天皇御璽」あり。縦47.5×横63.5 (cm)。津守国美 (1820~1901) は74代住吉神社宮司で、福羽忠夫人・映子の曾祖父。	—
8 26	[書写] 福羽美静先生伝 [日本大家論集第四卷第八号、第九号/宮川孫次郎記]	[明治25年カ]	1892	—	—	16枚	墨書/青色罫紙	原書の書誌情報: 宮川孫次郎「福羽美静先生伝」(『日本大家論集』4巻8号、1892年8月)(『同前』4巻9号、1892年9月)。	133
8 27	代々木 [第12巻3号 (通巻131号)]	昭和46年3月1日発行	1971	発行所 明治神宮社務所・明治神宮崇敬会	—	1冊	印刷 (活字) /小冊子	掲載論考の阪本健一「神祇祭祀は政教の基本(上)」で亀井茲明・福羽美静に言及あり。	565
8 28	[毎日新聞切抜: 楠戸義昭「日曜くらぶ 雑新の女 中山三屋」]	[1990年代カ]	—	—	—	1枚	印刷 (新聞)	分類:「福羽逸人関係一括」。 中山三屋 (幕末~明治期の歌人) の紹介記事。福羽美静に言及した箇所に朱色鉛筆の書込あり。	321
8 29	請書 [樹木其他移転料の証書下書]	[年欠] 3月31日	—	—	—	1枚	墨書/状	—	385
8 30	[福羽良曠宛て大枝市右衛門書簡写し]	[年欠] 5月15日	—	大枝市右衛門代	福羽良曠殿閣下	1枚	墨書/青色罫紙	過去参取の折ご依頼の件、証拠証書相添御依頼に及ぶ旨。	70
8 31	[書簡]	[年欠] 9月13日	—	鹿足郡六日市村■■■■ 作品作	従三位福羽様 御家令御中 (東京府南豊嶋郡元角筈村)	1通	墨書/巻紙	—	136
8 32	[書簡]	[年欠] 12月10日	—	岡内作助	福羽幸十郎	1通	墨書/巻紙	分類:「詠草類 保存モノ」。	588
8 33	[文禄元年の豊臣秀吉和歌写し]	—	—	—	—	1枚	ペン/ 「KOKUYO」 便箋罫紙	分類:「福羽逸人関係一括」。 「日のもとにまたから国も手に入りぬ ゆたかなる世の春にあふかな」。	325
8 34	餡の作り方 (二)	—	—	—	—	1枚	鉛筆/黒色罫紙	—	281
8 35	[人名書上]	—	—	—	—	1枚	墨書/状	神野真司ほか18名の旧名・続柄・氏名が列記。近世期の旧名・通称と明治以降の氏名を対照したものか。末尾に「佐々布浦子」の氏名あり。	155
8 36	[人名表]	—	—	—	—	1枚	ペン・鉛筆/青色罫紙	西園寺公望ほか75名の名前を列記し、アルファベットと数字が割り振られる。書簡を整理した際に作成したものか。	726
8 37	[会計書]	—	—	—	—	1枚	墨書/巻紙	糊剥離。	304
8 38	[会計書控え]	—	—	—	—	1枚	墨書/状	園芸関係か。	476
8 39	[葬儀費用書上]	—	—	—	—	2枚	墨書/状	—	69

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
8 40	〔領収書・物品購入覚書一括〕	—	—	—	—	27枚	墨書/状	注文・購入による金銭収支の覚書か。	8
8 41	〔茶室図面〕	—	—	—	—	1枚	墨書/状	墨書「宗全好/半床庵」あり。	459
8 42	〔家屋平面図〕	—	—	—	—	1枚	墨書/状	方眼のある用紙に家屋の間取りを描く。一部の間取りは押紙を用いて記す。押紙の剥落多数。	38
8 43	〔図面(断片)〕	—	—	—	—	3枚	鉛筆/状	方眼を記載し図面を記す。井戸を描いた図が記される。	170

9. 諸書類・封筒

9-1. 諸書類 (11点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
9 1	魚類養息法	明治9年4月30日	1876	柳澤信夫訳	—	19紙	墨書/青色片面10行罫紙	岩手厚雄蔵本。虫損あり。冊崩れ。末尾:「以下都テ魚ノ種類ヲ説タルモノ故ニ譯サス」。	73
9 2	白瀬家系伝抜書	明治17年3月	1884	白瀬教近 ^印 (熊本県肥後国八代郡八代町五百拾壹番地土族)	—	1冊(2丁)	墨書/赤色片面10行罫紙	古文書(天授4年12月12日付、左衛門尉→白瀬与兵衛)の写し添付。	119
9 4	〔雑記書付〕	—	—	〔福羽美静カ〕	—	1冊(2丁)	墨書・画/冊	「左旋右旋日地交接万物成形之図」ほかメモ書き。	49
9 5	〔草稿断簡〕	—	—	〔福羽美静カ〕	—	10枚	墨書/青色罫紙	しわ多数(反故紙カ)。	470
9 6	〔文書断簡・メモ〕	—	—	—	—	2枚	墨書・朱書/状	何らかの文書の構想メモか。うち1枚が墨書(冒頭:「我古記を検するに皇孫の国体は世界一種の国体にして」)、もう1枚が朱書(冒頭:「第一章 第一節 人ハ万物の中の上等なり」)。	172
9 7	〔雑記書付〕	—	—	—	—	4枚	墨書/状	熟語を並べて記したもの等を含む雑記。	173
9 8	〔原稿類断簡一括〕	—	—	—	—	6枚	墨書/罫紙ほか		9
9 9	〔書類断簡一括〕	—	—	—	—	17枚	墨書/状		7
9 10	〔書類断簡一括〕	—	—	—	—	34枚	状	「そしな 貞子」包み紙一括。和歌木版刷、福羽美静祝辞扣などを含む。	191
9 11	〔未使用罫紙他一括〕	—	—	—	—	一括	状		—

9-2. 封筒 (6点)

資料番号	資料名	年月日	西暦	作成	受取	数量	記述法/形態	備考	旧番号
9 12	〔封筒・包紙一括〕	—	—	—	—	3点	封筒・包紙	うち1点に朱印「福羽美静」・「東京府南豊島郡淀橋町元角管村新町百十五番地」あり。	561
9 13	〔封筒「家に保存するもの」〕	—	—	—	—	2点	封筒	墨書「家に保存するもの」・鉛筆「裏紙スル分」・朱書「廿六」あり。旧番号394～435を一括していた封筒。	394
9 14	〔「金城商会」茶封筒〕	—	—	—	—	1枚	封筒	鉛筆「福羽〔様〕」あり。旧番号436～440を一括していた封筒。	436
9 15	〔封筒「詠草類 保存モノ」〕	—	—	—	—	1点	墨書/封筒	墨書「詠草類 保存モノ」〔1/9.40〕あり。旧番号577～599を一括していた封筒。	577
9 16	〔封筒「詠稿類 三」〕	—	—	—	—	1枚	封筒	朱書「三」あり。旧番号604～609を一括していた封筒(「詠稿類 三」)。	604
9 17	〔封筒「詠稿類 五」〕	—	—	—	—	1枚	封筒	墨書「詠稿類」・朱書「五」あり。旧番号610～628を一括していた封筒。	610